

NEC Expressワークステーション
Express5800シリーズ

Express5800/53Xm, Y53Xm メンテナンスガイド

本製品の説明書

本製品の説明書は、次のように、冊子として添付されているもの(📖)、バックアップ Disc 内(📀)に電子マニュアル(📄)として格納されているものがあります。



スタートアップガイド

本製品の開梱から運用までを順を追って説明しています。はじめにこのガイドを参照して、本製品の概要を把握してください。



バックアップ Disc



ユーザーズガイド

使用上のご注意

本製品を安全に使うための情報について説明しています。**本製品を取り扱う前に、必ずお読みください。**

1 章 概要

本製品の概要、各部の名称、および機能について説明しています。

2 章 準備

オプションの増設、周辺機器との接続、および適切な設置場所について説明しています。

3 章 セットアップ

システム BIOS の設定とバックアップ Disc の概要について説明しています。

4 章 付録

本製品の仕様などを記載しています。



インストレーションガイド (Windows 編)

1 章 Windows のインストール

Windows、ドライバのインストール、およびインストール時に知っていただきたいことについて説明しています。

2 章 バンドルソフトウェアのインストール

ESMPRO など、標準添付されているソフトウェアのインストールについて説明しています。



メンテナンスガイド

1 章 保守

本製品の保守とトラブルシューティングについて説明しています。

2 章 便利な機能

便利な機能の紹介、システム BIOS、RAID コンフィグレーションユーティリティー、およびバックアップ Disc の詳細について説明しています。

3 章 付録

エラーメッセージ、Windows イベントログなどを記載しています。



その他の説明書

ESMPRO の操作方法など、詳細な情報を提供しています。

目次

本製品の説明書	2
目次	3
表記	6
本文中の記号	6
「光ディスクドライブ」の表記	6
「ハードディスクドライブ」の表記	6
「リムーバブルメディア」の表記	7
オペレーティングシステムの表記	7
商標	8
本書に関する注意と補足	9
最新版	9
I 章 保 守	10
1. 譲渡・移動・廃棄	11
1.1 第三者への譲渡	11
1.2 消耗品・本製品の廃棄	12
1.3 航空・海上輸送上の注意	12
1.4 移動と保管	13
2. 日常の保守	14
2.1 アップデートの確認・適用	14
2.2 アラートの確認	14
2.3 バックアップ	15
2.4 クリーニング	15
2.4.1 本製品のクリーニング	15
2.4.2 キーボード／マウスのクリーニング	16
2.4.3 光ディスクドライブのクリーニング	16
3. ユーザーサポート	17
3.1 製品の保証	17
3.2 保守サービス	18
3.3 修理に出す前に	18
3.4 修理に出すときは	19
3.5 補修用部品	19
3.6 情報サービス	19
4. 障害情報の採取	20
4.1 イベントログの採取	20
4.2 構成情報の採取	21
4.3 ユーザーモードプロセスダンプの採取	22
4.4 メモリダンプの採取	22
5. トラブルシューティング	23
5.1 電源 ON から POST 終了にかけてのトラブル	23
5.2 OS インストール時のトラブル	24
5.3 OS 起動時のトラブル	26
5.4 RAID システム運用時のトラブル	27
5.5 内蔵デバイス、その他ハードウェア使用時のトラブル	28
5.6 OS 運用時のトラブル	29
5.7 Windows 上でバックアップ Disc を動作させたときのトラブル	31
5.8 バンドルソフトウェアのトラブル	31




5.9	光ディスクドライブのトラブル	31
5.10	メディア(CD/DVD)の認識に関するトラブル	32
5.11	メディア(CD/DVD)の読み込みに関するトラブル	32
5.12	メディア(CD/DVD)の書き込みに関するトラブル	33
5.13	メディア(CD/DVD)の追記に関するトラブル	34
6.	Windows システムの回復	35
6.1	PC を初期状態に戻す	35
6.2	その他の回復機能	37
6.2.1	Microsoft 社製 OS インストールメディアの Windows 回復環境を使用する場合	37
6.2.2	ハードディスクドライブ上の回復機能を使用する場合	37
6.2.3	ドライバーの読み込み手順	38
6.2.4	回復オプションについて	39
6.3	Windows 11 を購入時の状態に戻す	40
7.	リセットとクリア	41
7.1	リセット	41
7.2	強制電源 OFF	41
7.3	BIOS 設定のクリア	42
8.	システム診断	44
8.1	システム診断の内容	44
8.2	システム診断の起動と終了	44
2 章	便利な機能	47
1.	システム BIOS の詳細	48
1.1	SETUP の起動	48
1.2	パラメーターと説明	48
1.2.1	Main メニュー	49
1.2.2	Advanced メニュー	51
1.2.3	Security メニュー	73
1.2.4	Power メニュー	83
1.2.5	System Hardware メニュー	87
1.2.6	Boot メニュー	90
1.2.7	Event Logs メニュー	92
1.2.8	Save & Exit メニュー	95
2.	RAID システムのコンフィグレーション	96
2.1	Intel® Rapid Storage Technology の起動	96
2.1.1	SETUP の起動	96
2.1.2	Advanced メニュー	97
2.1.3	Intel® Rapid Storage Technology の終了	98
2.2	Intel® Rapid Storage Technology 操作手順	99
2.2.1	RAID Volume の新規作成/追加作成	99
2.2.2	その他	103
3.	ESMPRO	104
3.1	ESMPRO/ServerAgentService (Windows 版)	104
3.2	ESMPRO/ServerManager	105
4.	Intel Optane Memory and Strage Management	106
5.	エクスプレス通報サービス/エクスプレス通報サービス(HTTPS)	107
6.	エクスプレス通報サービス(MG)	108
3 章	付 録	109
1.	POST 中のエラーメッセージ	110
2.	Windows イベントログ一覧	115

3. 保守サービス会社	123
4. 用語集	124

表 記

本文中の記号

本書ではユーザーズガイドの「本書と警告ラベルで使用する記号とその内容」に記載している注意記号のほかに3種類の記号を使用しています。これらの記号は、次のような意味があります。

	ハードウェアの取り扱い、ソフトウェアの操作などにおいて、守らなければならないことについて示しています。記載の手順に従わないときは、ハードウェアの故障、データの損失など、 <u>重大な不具合が起きるおそれがあります。</u>
	ハードウェアの取り扱い、ソフトウェアの操作などにおいて、確認しておかなければならないことについて示しています。
	知っておくと役に立つ情報、便利なことについて示しています。

「光ディスクドライブ」の表記

本製品は、購入時のオーダーによって以下のいずれかのドライブを装備できます。本書では、これらのドライブを「光ディスクドライブ」と記載しています。

- DVD-ROM ドライブ
- DVD Super MULTI ドライブ

「ハードディスクドライブ」の表記

本書で記載のハードディスクドライブとは、特に記載のない限り以下の両方を意味します。

- ソリッドステートドライブ(SSD)
- NVMe ソリッドステートドライブ

「リムーバブルメディア」の表記

本書で記載のリムーバブルメディアとは、特に記載のない限り以下の両方を意味します。

- USB メモリ
- Flash FDD

オペレーティングシステムの表記

本書では、Windows オペレーティングシステムを次のように表記します。

本製品でサポートしている OS の詳細は、インストレーションガイド(Windows 編)の「1 章(1.2 インストール可能な Windows OS)」を参照してください。

本書の表記	Windows OSの名称
Windows 11	Windows 11 Pro Standard

※ Windows 11 は 64 ビット版 のみとなります。

商 標

ESMPRO、ExpressUpdateは日本電気株式会社の登録商標です。

Microsoft、Windowsは米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Intel、インテル、Intel Core、Intel SpeedStepは、アメリカ合衆国およびその他の国における Intel Corporation またはその子会社の商標です。

NVIDIA、NVIDIAロゴ、NVIDIA RTX、Quadroは、米国および/または他国のNVIDIA Corporationの商標および/または登録商標です。

PCI EXPRESSはPeripheral Component Interconnect Special Interest Groupの商標です。

その他、記載の会社名および商品名は各社の商標または登録商標です。

本書に関する注意と補足

1. 本書について誤記、記載漏れなどお気づきの点があった場合、お買い求めの販売店まで連絡してください。
2. 運用した結果の影響については、上記 1 項に関わらず弊社は一切責任を負いません。
3. 本書の説明で用いられているサンプル値は、すべて架空のものです。

使用する前に本書をよく読み、製品の取り扱いについて十分にご理解ください。
本書は必要なときすぐに参照できるよう、お手元に置いてください。

最新版

本書は作成日時点の情報をもとに作られており、画面イメージ、メッセージ、または手順などが実際のものと異なることがあります。変更されているときは、適宜読み替えてください。また、説明書の最新版は、次の Web サイトからダウンロードできます。

<https://jpn.nec.com/dl/index.html>

NEC Express5800 シリーズ Express5800/53Xm, Y53Xm

1

保 守

本製品の運用などにおいて、点検、保守、またはトラブルが起きたときの対処について説明します。

1. 譲渡・移動・廃棄

第三者への譲渡、廃棄、移動、および保管方法について説明しています。

2. 日常の保守

日常使う上で確認しなければならない点、ファイルの管理、およびクリーニングについて説明しています。

3. ユーザーサポート

本製品に関するさまざまなサービスについて説明しています。サービスは、弊社、および弊社が認定した保守サービス会社が提供します。

4. 障害情報の採取

本製品が故障したとき、故障の箇所、原因について、情報を採取する方法を説明しています。故障が起きたときに参照してください。

5. トラブルシューティング

故障かな？と思ったときに参照してください。トラブルの原因とその対処方法について説明しています。

6. Windowsシステムの回復

Windowsを回復させるための手順について説明しています。Windowsが破損したときに参照してください。

7. リセットとクリア

本製品のリセットとクリアについて説明しています。本製品が動作しなくなったとき、またはBIOSの設定を出荷時に戻すときに参照してください。

8. システム診断

本製品のハードウェア診断と接続チェックについて説明しています。

1. 譲渡・移動・廃棄

1.1 第三者への譲渡

本製品、または本製品に添付されているものを第三者に譲渡(または売却)するときは、次の注意を守ってください。

● 本製品について

第三者へ譲渡(または売却)するときは、添付されている説明書一式(電子マニュアルも含む)と一緒にお渡しください。

● ハードディスクドライブ内のデータについて

ハードディスクドライブに保存されている大切なデータ(例えば顧客情報や企業の経理情報など)が第三者へ漏洩することのないよう、お客様の責任において確実にデータを消去してください。



データの消去をしないまま、譲渡(または売却)し、大切なデータが漏洩したとき、弊社はその責任を負いません。

「ゴミ箱を空にする」操作や「フォーマット」コマンドによってファイルを消去しても、実際のデータがハードディスクドライブに残っていることがあります。完全に消去されていないデータは、特殊なソフトウェアによって復元されるおそれがあります。



市販のソフトウェア(有償)またはサービス(有償)を利用し、確実にデータを消去することをお勧めします。データ消去についての詳細は、お買い求めの販売店または保守サービス会社にお問い合わせください。

● バンドルソフトウェアについて

バンドルソフトウェアを第三者に譲渡(売却)するときは、次の注意事項を守ってください。

- 本製品とともにお渡しください。
- 添付されたすべてのものを譲渡し、譲渡した側は、それらの複製物を持たないでください。
- 各ソフトウェアに添付されている「ソフトウェアのご使用条件」の譲渡、移転に関する条件を守ってください。
- 本製品以外の PC にインストールしたソフトウェアは、削除(アンインストール)してください。

1.2 消耗品・本製品の廃棄

- 本製品、ハードディスクドライブ、オプションボード、バッテリー(電池)などの廃棄については、各自治体の廃棄ルールに従ってください。詳しくは、各自治体へお問い合わせください。添付の電源コードは、他の製品への誤用を防ぐため、本製品と一緒に廃棄してください。



- マザーボード上にあるバッテリー(電池)の廃棄(または交換)については、お買い求めの販売店または保守サービス会社までお問い合わせください。
- ハードディスクドライブ、バックアップデータカートリッジ、その他書き込み可能なメディア(CD-R/CD-RW など)に保存されているデータは、第三者によって復元、再生、再利用されないようお客様の責任において確実に消去してから廃棄してください。

- 部品の中には、寿命により交換が必要なものがあります。安定して稼働させるために、これらの部品を定期的に交換することをお勧めします。寿命部品についての情報は弊社 Web サイトに掲載しています。

NEC コーポレートサイト : <https://jpn.nec.com/>

[サポート・ダウンロード] – [サポートポータル] – [ワークステーション] – [型番選択]
– [技術情報]

1.3 航空・海上輸送上の注意

本製品と一部のオプションは、リチウム金属電池またはリチウムイオン電池を使っています。リチウム電池の輸送は、航空・海上輸送規制が適用されます。本製品またはオプションを航空機、船舶などで輸送するときは、お買い求めの販売店、または保守サービス会社へお問い合わせください。

1.4 移動と保管

本製品を移動、保管するときは次の手順に従ってください。



本製品を安全にお使いいただくために、添付のスタートアップガイドおよびユーザーズガイドに記載している「使用上のご注意」を必ずお読みください。「使用上のご注意」では、本製品を安全に、正しくお使いになるために大切な注意事項が記載されています。



- フロアのレイアウト変更など大掛かりな作業を行うときはお買い上げの販売店または保守サービス会社にお問い合わせください。
- 本製品を保管するときは、保管環境条件(温度：-10℃～55℃、湿度：10%～80%(結露なし))を守ってください。
- 長期保管する場合は、定期的に動作確認を行ってください。



ハードディスクドライブに保存されている大切なデータはバックアップをとっておくことをお勧めします。

1. 光ディスクドライブからメディアを取り出しておきます。
2. 電源を OFF(POWER/SLEEP ランプ消灯)にします。
3. 電源コードをコンセントから抜きます。
4. 接続されているケーブルをすべて取り外します。
5. 傷がついたり、衝撃や振動を受けたりしないようしっかりと梱包します。



本製品と内蔵型のオプション機器は、寒い場所から暖かい場所に急に持ち込むと結露が発生し、そのまま使用すると誤作動や故障の原因になります。移動後や保管後、再び運用するときは、使用環境に十分なじませてからお使いください。



- 輸送後や保管後、本製品を再び運用するときは、運用の前にシステム時計の確認、調整をしてください。
- システム時計を調整しても時間の経過とともに著しい遅れや進みが生じるときは、お買い求めの販売店、または保守サービス会社に保守を依頼してください。

2. 日常の保守

本製品を常にベストな状態でお使いになるために、次のように定期的に確認、保守してください。万一、異常が見られたときは、無理な操作をせずに保守サービス会社へ保守を依頼してください。

2.1 アップデートの確認・適用

Express5800 シリーズでは、本製品および周辺機器の BIOS、ファームウェア(FW)、ドライバーなどのアップデート情報を弊社 Web サイトに掲載しています。システムの安定稼働のため、常に最新のアップデートを適用することをお勧めいたします。

NEC コーポレートサイト：<https://jpn.nec.com/>

[サポート・ダウンロード] - [ドライバ・ソフトウェア] - [ワークステーション]

本製品の BIOS、ファームウェアにつきましては、アップデートの検出、ダウンロードおよび適用をサポートする「ExpressUpdate」を提供しています。

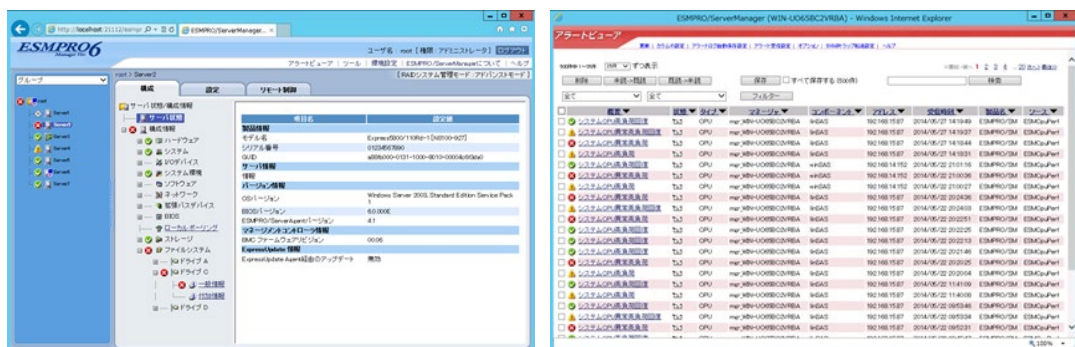


- 最新アップデートのダウンロードおよび適用作業は、お客様自身で実施ください。
- 万一の場合に備えて、アップデート適用前にデータをバックアップすることをお勧めします。

2.2 アラートの確認

ESMPRO/ServerManager (Windows 版) を使い、監視対象装置に異常がないこと、アラートが通報されていないことを常に確認してください。

ESMPRO/ServerManager の画面例



ESMPRO/ServerManager

アラートビューアー

2.3 バックアップ

定期的にハードディスクドライブ内のデータをバックアップすることをお勧めします。最適なバックアップ用ストレージデバイスやバックアップツールについては、お買い求めの販売店または保守サービス会社にお問い合わせください。

2.4 クリーニング

本製品を良い状態に保つため、定期的にクリーニングしてください。定期的なクリーニングはさまざまな故障を未然に防ぐ効果があります。



本製品を安全にお使いいただくために、添付のスタートアップガイドおよびユーザーズガイドに記載している「使用上のご注意」を必ずお読みください。「使用上のご注意」では、本製品を安全に、正しくお使いになるために大切な注意事項が記載されています。

2.4.1 本製品のクリーニング

外観の汚れは、柔らかい乾いた布でふき取ってください。汚れが落ちにくいときは、次のような方法できれいになります。



- シンナー、ベンジンなどの揮発性の溶剤は使わないでください。材質のいたみや変色の原因になります。
- コンセント、ケーブル、コネクタ、および装置内部は絶対に水などでぬらさないでください。

1. 電源が OFF (POWER/SLEEP ランプ消灯) になっていることを確認します。
2. 電源コードをコンセントから抜きます。
3. 電源コードの電源プラグ部分についているほこりを乾いた布でふき取ります。
4. 中性洗剤をぬるま湯または水で薄めて柔らかい布を浸し、よく絞ります。
5. 汚れた部分は、手順 4 の布で少し強めにこすって取ります。
6. 真水でぬらしてよく絞った布でもう一度ふきます。
7. 乾いた布でふきます。
8. 乾いた布で側面にあるファンの排気口に付着しているほこりをふき取ります。

内部は、長時間使用するとほこりがたまるので、定期的にクリーニングしてください。クリーニングについては、お買い求めの販売店または保守サービス会社にお問い合わせください。

2.4.2 キーボード／マウスのクリーニング

キーボードは、本製品と周辺機器を含むシステム全体の電源が OFF (POWER/SLEEP ランプ消灯) になっていることを確認した後、キーボードの表面を乾いた布でふいてください。

マウスは光センサー部が汚れていると正常に機能しません。光センサー部に付いた汚れは、乾いた布でふき取ってください。

2.4.3 光ディスクドライブのクリーニング

光ディスクドライブは、定期的にトレーをクリーニングしてください。ただし、クリーニングの際にレンズに触れないよう注意してください。

1 か月に 1 回程度、バックアップ Disc 等のディスクの読み込みが正常に行えるかどうかを確認してください。

3. ユーザーサポート

アフターサービスをお受けになる前に、保証とサービスの内容について確認してください。

3.1 製品の保証

本製品には「保証書」が添付されています。「保証書」は、販売店で所定事項を記入してお渡ししますので、記載内容を確認の上、大切に保管してください。保証期間中に故障が起きたときは、「保証書」の内容にもとづき無償修理いたします。詳しくは「保証書」と本書の「1 章(3.2 保守サービス)」を参照してください。

保証期間後の修理については、お買い求めの販売店または保守サービス会社に連絡してください。



弊社製以外(サードパーティー)の製品、または弊社が認定していない装置やケーブルを使ったために起きた故障については、無償期間中であっても有償での対応になります。

本製品には、製品の製造番号などが記載された銘板や、保守ラベルが貼ってあります。**銘板に記載の製造番号と保証書の番号が一致しているか確認してください。**これらが一致していませんと、保証期間内に故障したときでも保証を受けられないことがあります。万一違うときは、販売店まで連絡してください。

3.2 保守サービス

保守は、弊社の保守サービス会社、および弊社が認定した保守サービス会社によって実施され、サービス契約の有無によって、次のような違いがあります。

契約保守サービス	サービスごとに契約していただき、契約期間中は、サービス内容に応じて保守するものです。さまざまな保守サービスメニューを用意しておりますので、弊社営業または販売店へ問い合わせてください。
未契約修理	保守または修理料金はその都度精算する方式で、作業の内容によって異なります。

3.3 修理に出す前に

「故障かな？」と思ったら、次の確認をしてください。

1. 電源コードおよび他の製品と接続しているケーブルが正しく接続されているか確認します。
2. 本書の「1 章(5. トラブルシューティング)」を参照し、該当する症状に応じて対処します。
3. ソフトウェアが正しくインストールされているか確認します。
4. 市販のウィルス検出プログラムなどでウィルスチェックします。

以上の確認をしてもなお異常があるときは、無理な操作をせず、お買い求めの販売店、最寄りの弊社または保守サービス会社まで連絡してください。故障時のランプ表示、画面表示は、修理のときに有用な情報となりますので記録しておいてください。保守サービス会社の連絡先については、本書の「3 章(3. 保守サービス会社)」を参照してください。

保証期間中の修理は、必ず保証書を添えてお申し込みください。



本製品は日本国内仕様のため、弊社の海外拠点で修理することはできません。

3.4 修理に出すときは

修理に出すときは、次のものを用意してください。

- ☐ 保証書
- ☐ ディスプレイに表示されたメッセージのメモ
- ☐ 障害情報
(本書の「1章(4. 障害情報の採取)」に記載している情報などが該当します。障害情報は保守サービス会社から指示があったときのみ用意してください)
- ☐ 銘板に記載の情報(製品名、型番、製造番号(SERIAL No.))

3.5 補修用部品

本製品の補修用部品の最低保有期間は、製造打ち切り後 5 年です。

3.6 情報サービス

本製品に関するご質問・ご相談は「ファーストコンタクトセンター」でお受けしています。

※ 電話番号のかけ間違いが増えております。番号をよくお確かめの上、おかけください。

ファーストコンタクトセンター

TEL. 0120-5800-72

受付時間／9:00～12:00、13:00～17:00 月曜日～金曜日(除祝日、弊社休日)

「エクスプレス通報サービス/エクスプレス通報サービス(HTTPS) /エクスプレス通報サービス(MG)」のお申し込みに関するご質問・ご相談は「エクスプレス受付センター」でお受けしています。

※ 電話番号のかけ間違いが増えております。番号をよくお確かめの上、おかけください。

エクスプレス受付センター

TEL. 0120-22-3042

受付時間／9:00～17:00 月曜日～金曜日(祝祭日を除く)

インターネットでも情報を提供しています。

[NEC コーポレートサイト]

<https://jpn.nec.com/>

製品情報やサポート情報など、本製品に関する最新情報を掲載しています。

[NEC フィールドイング]

<https://www.fielding.co.jp/>

メンテナンス、ソリューション、用品、施設工事などの情報を掲載しています。

4. 障害情報の採取

本製品が故障したとき、次のような方法で障害情報を採取することができます。

以降で説明する障害情報の採取については、保守サービス会社の保守員から情報採取の依頼があったときのみ採取してください。



故障が起きた後に再起動すると、仮想メモリが不足していることを示すメッセージが表示されることがありますが、そのまま起動してください。途中でリセットすると、障害情報が正しく保存できないことがあります。

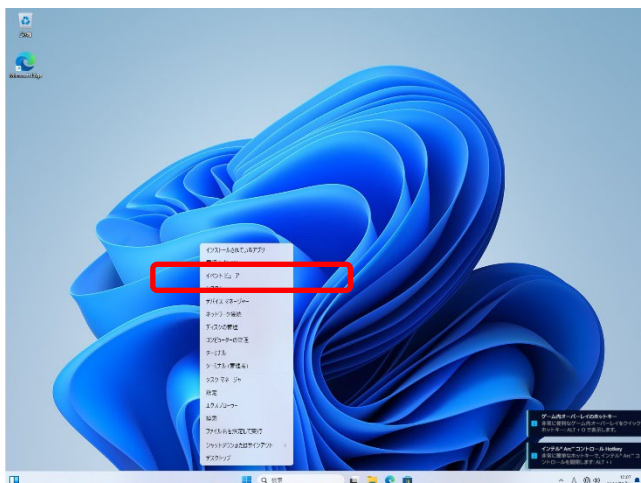
4.1 イベントログの採取

本製品に起きたさまざまな事象(イベント)のログを採取します。

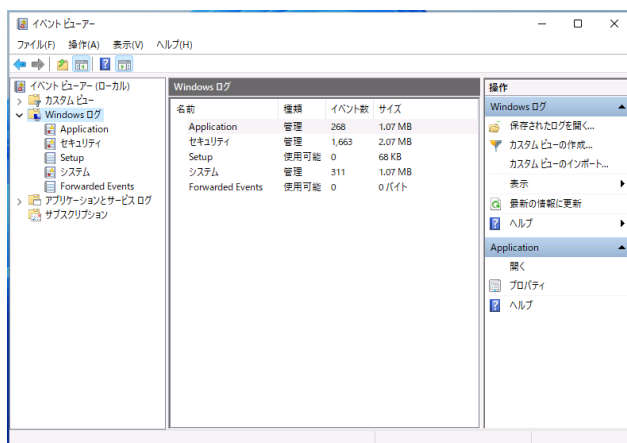


STOP エラー、システムエラー、またはストールしているときは、いったん再起動してから作業を始めます。

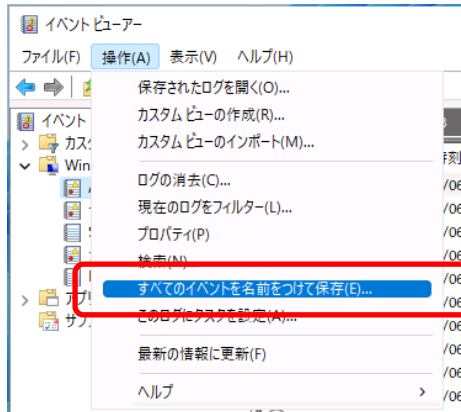
1. スタートメニューを右クリックし、[イベントビューアー]を選択します。



2. [Windows ログ]内でログの種類を選択します。
[Application]には、アプリケーションに関連するイベントが記録されています。
[セキュリティ]には、セキュリティに関連するイベントが記録されています。
[システム]には、Windows のシステム構成要素で発生したイベントが記録されています。



3. [操作]メニューの[すべてのイベントを名前をつけて保存]をクリックします。



4. 保存するログファイルの名前を[ファイル名]に入力します。
5. 保存するログファイルの形式を[ファイルの種類]で選択し、[保存]をクリックします。

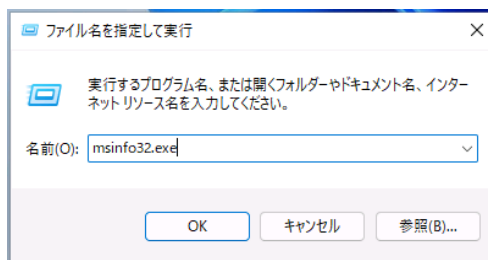
4.2 構成情報の採取

ハードウェア構成や設定などを採取します。



STOP エラー、システムエラー、またはストールしているときは、いったん再起動してから作業を始めます。

1. <Windows ロゴ>+<R>キーを押し、[ファイル名を指定して実行]をクリックします。
2. 「msinfo32.exe」と入力し、<Enter>キーを押します。



[システム情報]が起動します。

3. [ファイル]から[エクスポート]をクリックします。
4. 保存するファイルの名前を[ファイル名]に入力し、[保存]をクリックします。

4.3 ユーザーモードプロセスダンプの採取

アプリケーションエラーに関連する診断情報を採取します。

詳しくは、インストレーションガイド(Windows 編)の「1 章(4.2 ユーザーモードプロセスダンプの取得方法)」を参照してください。

4.4 メモリダンプの採取

エラーが起きたときのメモリの内容を採取します。保存先は任意に設定できます。

詳しくはインストレーションガイド(Windows 編)の「1 章(4.1 メモリダンプ(デバッグ情報)の設定)」を参照してください。

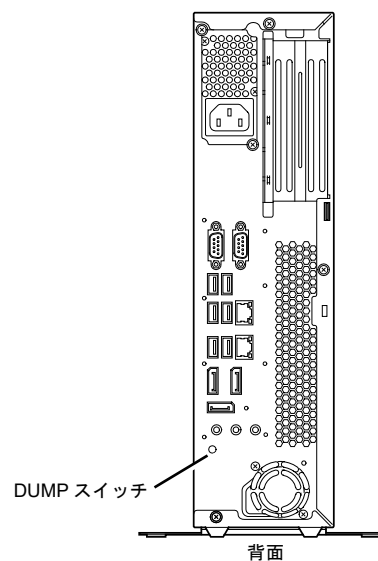
メモリダンプは、保守サービス会社の保守員と相談した上で採取してください。**正常に動作しているときに操作すると、システムの運用に支障をきたすおそれがあります。**



エラーが起きた後に再起動すると、仮想メモリが不足していることを示すメッセージが表示されることがありますが、そのまま起動してください。途中でリセットすると、メモリダンプが正しく保存できないことがあります。

エラーが発生し、メモリダンプを採取したいときに DUMP スイッチを押してください。スイッチを押すときには、金属製のピン(太めのゼムクリップを引き伸ばして代用可)をスイッチ穴から斜めに差し込んでスイッチを押します。

スイッチを押すと、設定されている保存先にメモリダンプが保存されます(CPU がストールした場合、メモリダンプが採取できない場合があります)。



5. トラブルシューティング

本製品が思ったように動作しないときは、修理に出す前に、次のチェックリストを参照して本製品をチェックしてください。リストに該当するような項目があるときは、記載の対処方法を試してください。また、本書の「1 章(2.1 アップデートの確認・適用)」を参照し、BIOS、ファームウェア(FW)、ドライバーのアップデート情報についても確認してください。

それでも正常に動作しないときは、ディスプレイに表示されたメッセージを記録してから、保守サービス会社に連絡してください。

5.1 電源 ON から POST 終了にかけてのトラブル

[?] 電源がONにならない

- ☐ 電源が本製品に正しく供給されていますか？
 - 本製品前面にあるPOWER/SLEEPスイッチを押して電源をON(POWERランプ点灯)にしてください。
 - 電源コードを本製品の電源規格に合ったコンセント(またはUPS (無停電電源装置))に接続していることを確認してください。
 - 本製品に添付の電源コードを使用してください。また、電源コードの被覆が破れていたり、プラグ部分が折れていないことを確認してください。
 - 接続したコンセントのブレーカーがONになっていることを確認してください。
 - UPSに接続しているときは、UPSの電源がONになっていること、およびUPSから電力が出力されていることを確認してください。詳細は、UPSに添付の説明書を参照してください。

[?] 画面が出ない、ビープ音が鳴る

- ☐ DIMMが確実に実装されていますか？
 - DIMMをマザーボードに確実に取り付けてください。
- ☐ ケーブルを確実に接続していますか？また、オプションのグラフィックスアクセラレータを使用の場合、グラフィックスアクセラレータボードを正しく取り付けていますか？
 - ケーブルの接続およびグラフィックスアクセラレータボードの取り付けが正しいか確認してください。
- ☐ ディスプレイを接続していますか？
 - ディスプレイの取り付けが正しいか確認してください。
 - ディスプレイを使用しない場合は、BIOSの「System Hardware」メニューの[CONOUT Monitoring]を[Disabled]に設定することでビープ音を消すことができます。
- ☐ ディスプレイの電源がONになっていますか？
 - ディスプレイの電源がONになっていることを確認してください。
 - ディスプレイの電源がOFFのまま起動する場合は、BIOSの「System Hardware」メニューの[CONOUT Monitoring]を[Disabled]に設定することでビープ音を消すことができます。

[?] POSTのメモリカウントやBIOSセットアップメニュー、OSのシステム情報で表示するメモリ容量が

物理メモリと一致しない

- 搭載しているPCIeボードなどの構成によっては、実際に搭載している総物理メモリ容量より少なく表示する場合があります。故障ではありません。ただし、メモリを増設しても以前と情報が変わらなかったり、普段の容量よりも少なくなっていた場合は、DIMMが故障している可能性があります。

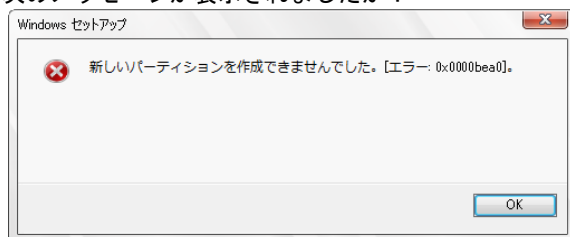
[?] POSTが終わらない

- 大容量のメモリを搭載していますか？
 - 搭載しているメモリサイズによってはメモリチェックで時間がかかる場合があります。しばらくお待ちください。
- 本製品で使用できるメモリ、PCIデバイスを搭載していますか？
 - 弊社が指定する機器以外は、動作の保証ができません。

5.2 OS インストール時のトラブル

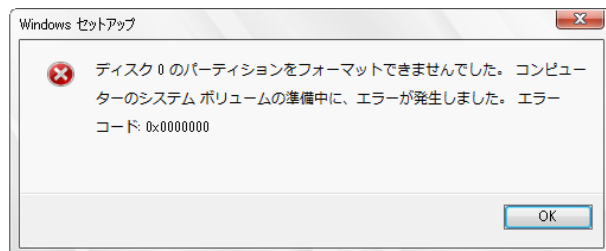
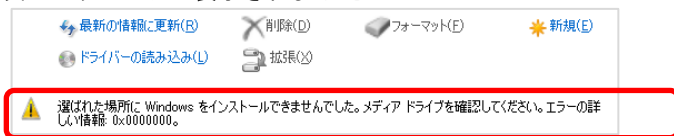
[?] Windows 11 をインストールするときに、パーティションが作成できない

- 次のメッセージが表示されましたか？



- パーティションの作成に失敗しています。
作成したパーティションをいったん削除してから、再度パーティションを作成してください。
データディスクなどを接続しているときは、削除するパーティションに十分注意してください。

- 次のメッセージが表示されましたか？

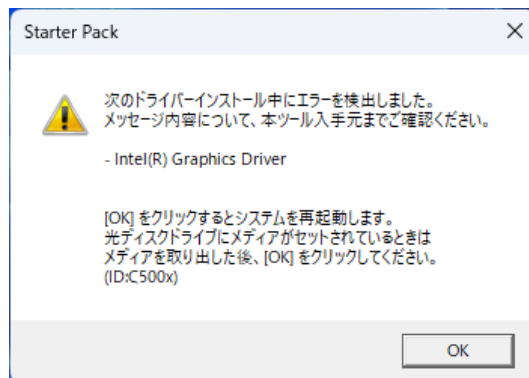


- パーティションが正しく作成されていない状態でインストールしようとしています。いったんインストールを中断し、最初からOSをインストールしてください。そのとき、OSインストール時に作成したパーティションは削除し、再度パーティションを作成してください。
データディスクなどを接続しているときは、削除するパーティションに十分注意してください。

[?] キーボードやマウスが動作しない

□ 正しいポートに接続していますか？

→ ユーザーズガイドの「1章(5. 各部の名称と機能)」を参照して正しいポートに接続してください。

[?] Starter Pack 適用時 次のメッセージが表示される。

→ 本メッセージが表示された場合、再度 Starter Pack を適用してください。

5.3 OS 起動時のトラブル

[?] 電源がONにならない

- 高速スタートアップが有効になっていませんか？
 - リモートパワーオン機能を使っている場合、高速スタートアップが有効状態で、OSからのシャットダウンを使用して電源をOFFにしたときは、以下の機能が利用できません。これらの機能を利用するには、高速スタートアップを無効にしてください。
 - ・ Wake On LAN/PME
 - ・ Wake On RTC Alarm

[?] OSが起動できない

- RAIDコントローラーのBIOS設定が変更されていませんか？
 - RAIDコンフィグレーションユーティリティ(Intel® Rapid Storage Technology)を使って正しく設定してください。
- Flash FDDを本製品にセットしていませんか？
 - Flash FDDを本製品から取り外して再起動してください。
- OSが破損していませんか？
 - Windowsの修復プロセスを使って修復を試みてください。詳細は、本書の「1章(6. Windowsシステムの回復)」を参照してください。

5.4 RAID システム運用時のトラブル

[?] リビルドができない

- リビルドするハードディスクドライブの容量が少なくありませんか？
→ 故障したハードディスクドライブと同じ容量のハードディスクドライブを使用してください。
- 論理ドライブがRAID0ではありませんか？
→ RAID0には冗長性がないため、リビルドできません。

[?] ハードディスクドライブが「不明ハードディスク」になった

- 保守サービス会社または販売店へ連絡してください。

[?] ブルー画面(STOPエラー画面)となった

- Intel(R) Rapid Storage TechnologyでRAID1を構築している環境において、以下の条件下でブルー画面(STOPエラー画面)となる場合があります。この場合、復旧することはできないため、OSの再インストールが必要となります。
 1. RAID1を構成している2台のディスクそれぞれの同一セクターにメディアエラーが発生している状態で、そのセクターにアクセスした場合
 2. ディスクにアクセスした際に大量のメディアエラーを検出した場合

<判断方法>

Intel(R) Rapid Storage Technologyは、メディアエラー発生時のログは登録されない仕様であるため、ログから上記事象かどうかの判断はできません。リビルドを実行しても再発する場合は、本現象が発生していると判断してください。

<復旧方法>

 1. 必要なデータを可能な限りバックアップする(メディアエラーが発生しているため、全てのデータをバックアップできない可能性があります)
 2. ディスクを2台とも交換する
 3. RAID1を構築し、OSを再インストールする
 4. バックアップしたデータをリストアする

[?] NVMe SSDを実装するとSATA SSDを認識しなくなった

- SetupMenuに入り、"Save Changes and Exit"で再起動してください。
再起動後、SATA SSDが認識されます。

5.5 内蔵デバイス、その他ハードウェア使用時のトラブル

[?] 内蔵デバイスや外付けデバイスにアクセスできない(または正しく動作しない)

- ☐ ケーブルを正しく接続していますか？
 - ケーブルや電源コードが確実に接続されているか確認してください。また、接続順序が正しいか確認してください。
- ☐ 電源ONの順番を間違っていないですか？
 - 外付けデバイスを接続しているときは、外付けデバイス、本製品の順に電源をONにします。
- ☐ ドライバーをインストールしていますか？
 - 接続したオプションのデバイスによっては専用のデバイスドライバーが必要です。デバイスに添付の説明書を参照してドライバーをインストールしてください。
- ☐ オプションボードの設定を間違えていませんか？
 - PCIeボードには、特別な設定が必要なものがあります。詳細は、ボードに添付の説明書を参照してください。
 - Serial PortおよびUSBポートに接続しているデバイスには、I/Oポートアドレスや動作モードの設定が必要なものがあります。詳細は、デバイスに添付の説明書を参照してください。
 - 接続しているデバイスにはジャンパー設定が必要なものがあります。詳細は、デバイスに添付の説明書を参照してください。

[?] キーボードやマウスが正しく機能しない

- ☐ ケーブルを正しく接続していますか？
 - 本製品背面や前面にあるUSBコネクタに正しく接続しているか確認してください。

[?] ハードディスクドライブにアクセスできない

- ☐ 本製品で利用できるハードディスクドライブですか？
 - 弊社が指定する機器以外は、動作の保証ができません。
- ☐ ハードディスクドライブを正しく取り付けられていますか？
 - ハードディスクドライブの取り付け状態やケーブルの接続状態を確認してください。

[?] ブルー画面(STOPエラー画面)でPauseFrameが継続して送信される

- ☐ LAN コントローラーのフロー制御の設定は確認しましたか？
 - フロー制御 (Flow Control) を「受信/送信 有効」、「送信 有効」に設定している場合、受信負荷が高い状態においてシステムハングなどの要因でOSのパケット処理が停止するとPauseFrameが継続して送信されることがあります。
このときスイッチ側には大量のパケットが滞留するためスイッチ内のバッファが不足し、スイッチに接続されたすべての通信機器に影響が出ることがあります。
このようなケースを回避するためには、フロー制御を「無効」に設定してください。

5.6 OS 運用時のトラブル

[?] OSの動作が不安定

- Starter Packを適用しましたか？
 - OSをインストールした後にネットワークドライバーをインストールすると、動作が不安定になることがあります。インストレーションガイド（Windows編）を参照してStarter Packを適用してください。

[?] ブルー画面(STOPエラー画面)で電源OFFできない

- スイッチを4秒以上押し続けましたか？
 - ブルー画面で電源をOFFにするには、スイッチを4秒以上押し続け、強制的に電源をOFFにしてください。

[?] スリープ機能が働かない

- オプションボードを実装していますか？
 - オプションボードを実装しているときは、オプションボードがスリープ機能に対応していることを確認してください。
- 「次の時間が経過後、ディスプレイの電源を切る」の時間設定をしていますか？
 - タイマーによるスリープへの移行を行う場合、「次の時間が経過後、ディスプレイの電源を切る」の設定でディスプレイをオフしないと、スリープ状態に移行しません。
「次の時間が経過後、ディスプレイの電源を切る」の時間設定を「次の時間が経過後、PCをスリープ状態にする」の時間設定より同じか短い時間に設定してください。

[?] 休止状態に移行しない

- 「次の時間が経過後、ディスプレイの電源を切る」の時間設定をしていますか？
 - タイマーによる休止状態への移行を行う場合、「次の時間が経過後、ディスプレイの電源を切る」の設定でディスプレイをオフしないと、休止状態に移行しません。
「次の時間が経過後、ディスプレイの電源を切る」の時間設定を「次の時間が経過後、PCを休止状態にする」の時間設定より同じか短い時間に設定してください。

[?] ネットワーク上で認識されない

- ケーブルを接続していますか？
 - 本製品背面にあるLANポートに確実に接続してください。また、使用するケーブルがLANのプロトコルに準拠したものであるか確認してください。
- BIOSの設定を間違えていませんか？
 - BIOSセットアップユーティリティで内蔵のLANコントローラーを無効にできます。BIOSセットアップユーティリティで設定を確認してください。
- プロトコルやサービスのセットアップを済ませていますか？
 - 本製品標準のLANドライバーをインストールしてください。また、TCP/IPなどのプロトコルや各種サービスが正しく設定されているか確認してください。
- 転送速度の設定を間違えていませんか？
 - 本製品標準のLANコントローラーは、1Gbps、100Mbps、および10Mbpsの転送速度で使用できます。この転送速度に切り替えるか、またはOS上から、接続しているハブに設定を合わせてください。
- Starter Packを適用しましたか？
 - Starter Packを適用し、LANドライバーをインストールしてください。

[?] メモ帳やペイントなど一部のアプリケーションが英語で表示される

- Microsoft Store からアプリケーションをアップデートしてください。
アップデート後、日本語で表示されます。

[?] PC をリセット後、Microsoft Edge が起動できない

- 「1章（6.1 PC を初期状態に戻す）」の方法で PC をリセットすると、Microsoft Edge が削除される場合があります。削除されたときは、Microsoft Store または 次のWebサイトから Microsoft Edge のインストーラーをダウンロードして、Microsoft Edge を再インストールしてください。

<https://www.microsoft.com/ja-jp/edge/business/download>

[?] Magic Packetによる起動後画面が点灯しない

- マウスやキーボードを操作してください。
画面が点灯します。

5.7 Windows 上でバックアップ Disc を動作させたときのトラブル

[?] 説明書が読めない

- ☐ Adobe Reader を正しくインストールしていますか？
 - 説明書は、PDF ファイル形式で提供しています。あらかじめ Adobe Reader をインストールしてください。

5.8 バンドルソフトウェアのトラブル

[?] ESMPRO/ServerAgentService (Windows版)について

- ESMPRO/ServerAgentService (Windows版)の詳細は、バックアップ Disc 内の「ESMPRO/ServerAgentService インストールガイド(Windows編)」を参照してください。

[?] ESMPRO/ServerManagerについて

- ESMPRO/ServerManagerの詳細は、バックアップ Disc 内の「ESMPRO/ServerManager インストールガイド」、または ESMPRO のオンラインヘルプを参照してください。

5.9 光ディスクドライブのトラブル

[?] 動作しない

- ☐ 電源が入っていますか？
 - 電源コネクタに電源コードを正しく接続しているか確認してください。
- ☐ SATA ケーブルを正しく接続していますか？
 - SATA ケーブルを正しく接続しているか確認してください。ケーブルのピンにへこみ、曲がり、破損がないか確認してください。

[?] 光ディスクドライブの回転音大きい

- ☐ いったん、ディスクを取り出し、セットし直してください。
 - 光ディスクドライブのオートバランスを再度機能させることで、回転音を抑えます。

[?] トレイが出ない

- ☐ トレーにメディアが正しくセットされていますか？
 - ユーザーズガイドの「1章(5.6.3 メディアが取り出せないときの手順)」を参照してトレイを出してください。
- ☐ ソフトウェアでイジェクトロックしていませんか？
 - 光ディスクドライブのプロパティでイジェクトロックしていないか確認してください。

5.10 メディア(CD/DVD)の認識に関するトラブル

[?] 光ディスクドライブにアクセスできない

- ☐ 光ディスクドライブのトレーに確実にセットしていますか？
→ トレーに確実にセットしていることを確認してください。
- ☐ 本製品で利用できる光ディスクドライブですか？
→ CD規格に準拠しない「コピーガード付きCD」などのディスクは、再生を保証できません。
→ Macintosh専用のCD-ROMは使えません。

[?] メディアが認識されない

- ☐ SATAケーブルを正しく接続していますか？
→ SATAケーブルを正しく接続しているか確認してください。ケーブルのピンにへこみ、曲がり、破損がないか確認してください。
- ☐ 電源が入っていますか？
→ 本製品の電源を入れたとき、光ディスクドライブのアクセスランプが点灯するか確認してください。点灯しないときは、電源コードを正しく接続しているか確認してください。

5.11 メディア(CD/DVD)の読み込みに関するトラブル

[?] 読み出し時に異音が発生する

- ☐ メディアに不良がありませんか？
→ 他のメディアをご使用ください。
- ☐ メディアの表面にシールを貼っていませんか？
→ 表面のシールをはがしてください。はがすときは、メディアに傷が付かないように注意してください。

[?] リードエラー(読み出しエラー)が発生する

- ☐ メディアに不良がありませんか？
→ メディアの表面に指紋などの汚れや傷がないか確認してください。汚れがある場合は、メディアをクリーニングしてください。
- ☐ 音楽CDをセットしていませんか？
→ 音楽CDにはデータが入っていないため、エラーメッセージを表示します。データCDを入れてください。
- ☐ メディアの裏表を間違えてセットしていませんか？
→ トレーからメディアを出し、メディアのレーベル面を上にしてセットし直してください。
- ☐ パケットライトで書き込まれていませんか？
→ パケットライトで書き込まれたデータを読むためには、専用のソフトウェアが必要です。
- ☐ レンズにほこりが付着していませんか？
→ カメラ用のレンズブローアなどを使ってレンズをクリーニングしてください。

[?] 音楽CDを再生できない

- ☐ デジタル再生の設定にしていますか？
→ 本製品に標準装備の光ディスクドライブではデジタル再生のみをサポートしています。

5.12 メディア(CD/DVD)の書き込みに関するトラブル

[?] 書き込みができない

- ☐ 推奨以外のメディアを使っていますか？
→ 弊社推奨または弊社指定のメディアを使用してください。
- ☐ メディアの裏表を間違えてセットしていませんか？
→ トレーからメディアを出し、メディアのレーベル面を上にしてセットし直してください。
- ☐ ハードディスクドライブの容量が不足していませんか？
→ 書き込む方式によってハードディスクドライブの使用量は異なりますが、一般的には書き込むデータ量の1.2倍～2倍の空き容量が必要です。
- ☐ 電源が入っていますか？
→ 電源コネクタに電源コードを正しく接続しているか確認してください。
- ☐ SATAケーブルを正しく接続していますか？
→ SATAケーブルを正しく接続しているか確認してください。ケーブルのピンにへこみ、曲がり、破損がないかを確認してください。
- ☐ レンズにほこりが付着していませんか？
→ カメラ用のレンズブローなどを使ってレンズをクリーニングしてください。

[?] 書き込みエラー(バッファアンダーラン)が発生する

- ☐ ネットワーク環境下で書き込みを行ったり、マウスやウィンドウ、スクリーンセーバーを動かしたり、他のアプリケーションが立ち上がっていて、コンピューターのリソースが不足していませんか？
→ ネットワークからログオフし、書き込みしてください。
→ スクリーンセーバー、省電力モードを解除してください。
→ ライティングソフト以外のアプリケーションを終了してください。
- ☐ ハードディスクドライブの容量が不足していませんか？
→ 書き込む方式によってハードディスクドライブの使用量は異なりますが、一般的には書き込むデータ量の1.2倍～2倍の空き容量が必要です。
- ☐ メディアに傷、品質不良はありませんか？
→ メディアを交換して確認してください。弊社推奨または動作確認済みメディアを使用してください。

[?] 書き込み可能なメディアのデータを消去したのに書かれた跡がある

- ☐ 問題ありません。
→ 書き込み可能なメディアは、一度書き込みすると、消去しても書き込んだ跡が残ります。

[?] 高速倍速での書き込みができない

- ☐ メディアが対応している倍速ですか？
→ CD/DVDドライブがサポートしている倍速に合ったメディアを使用してください。
- ☐ バッファアンダーランが起きていませんか？
→ 「書き込みエラー(バッファアンダーラン)が発生する」を参照してください。
- ☐ メディアに傷、品質不良はありませんか？
→ メディアを交換して確認してください。弊社推奨または動作確認済みメディアを使用してください。

5.13 メディア(CD/DVD)の追記に関するトラブル

[?] メディアに追記できない

- ライティングソフトが違っていませんか？
 - 先に書き込んだライティングソフトと、今回使用するライティングソフトが異なると書き込めないことがあります(ライティングソフト互換性による)。書き込むライティングソフトは、同じものを使用してください。
- 追記データに対して、空き容量が足りていますか？
 - 追記するデータに対して空き容量が不足する場合は、新たに別のメディアを使用してください。
- 他社の光ディスクドライブで記録したメディアを使用していませんか？
 - 本製品で書き込んだメディアを使用してください。
- ディスクアットワンスで書き込まれたメディア、またはトラックアットワンスで書き込み後セッションクローズされたメディアを使っていますか？
 - 以前の書き込み時に追記ができないよう設定しています。新たに別のメディアを使用してください。

[?] 2回以上書き込んだメディアの前のセッションが読み出しできない

- ライティングソフトで前のセッションを読み出していますか？
 - ライティングソフトで前のセッションを読み出していない状態で記録したメディアは、原則として最後のセッションしか読み出しできません。
2回目以降に書き込むときは、前のセッションを読み出し、マルチセッションとして書き込んでください。前のセッションを読み出さないと、以前に書いたセッションが無効となります。前回書き込んだデータのセッションが閉じられており、追記されたセッションが読めなくなっています。新たな別のメディアにデータを書き直してください。
- メディアに不良がありませんか？
 - メディアの表面に指紋などの汚れや傷がないか確認してください。汚れがある場合は、メディアをクリーニングしてください。
- 音楽CDをセットしていませんか？
 - 音楽CDはコンピューターのデータと異なります。セッションの読み出しを実行するとき、音楽CDを挿入していると、エラーメッセージを表示します。
- メディアの裏表を間違えてセットしていませんか？
 - トレーからメディアを出し、メディアのレーベル面を上にしてセットし直してください。

6. Windows システムの回復

Windows を動作させるために必要なファイルが破損したときは、次の手順に従って Windows システムを回復してください。この方法は、詳しい知識のあるユーザーや管理者のもとで実施してください。

**チェック**

- 回復後、インストレーションガイド(Windows 編)の「1 章(3.6 デバイスドライバーのセットアップ)」および「1 章(3.5 Starter Pack の適用)」を参照して、各種ドライバーおよび Starter Pack を適用してください。
- ハードディスクドライブが認識できないときは、Windows システムの回復はできません。

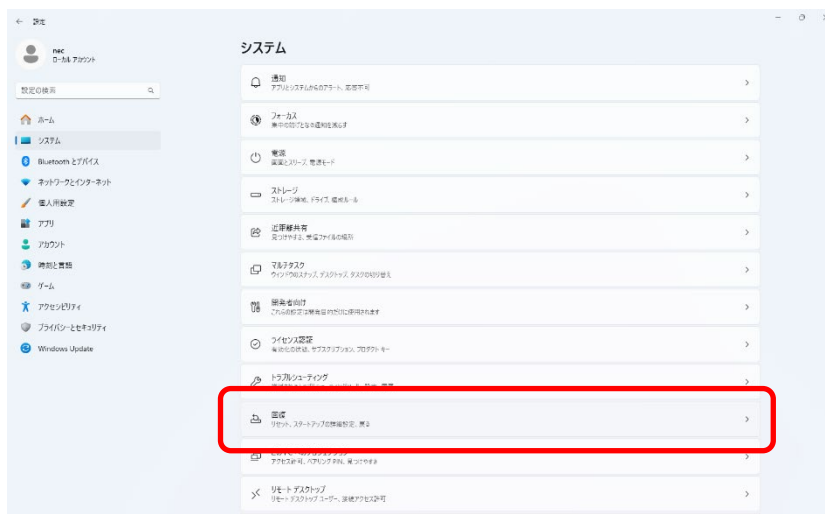
6.1 PC を初期状態に戻す

Windows システムの回復を試みる場合、インストール済みのドライバーおよびアプリケーションなどが削除されます。本機能を使用する前に、バックアップしておくことを推奨します。

**チェック**

オンボードの RAID コントローラー(Intel(R) Rapid Storage Technology)環境の場合、プリインストールモデル以外では本手順を実施できません。
「6.2 その他の回復機能」で Windows システムを回復してください。

1. スタートメニューから、[設定]をクリックします。
2. [回復]をクリックします。



3. [PC をリセットする]をクリックします。



4. 回復オプションを選択します。

各オプションの詳細は「1 章(6.2.4 回復オプションについて)」を参照してください。

Windows の回復後、自動的に再起動します。



PC をリセット後、Microsoft Edge が削除されることがあります。

削除されたときは、Microsoft Store または 次の Web サイトから Microsoft Edge のインストーラーをダウンロードして、Microsoft Edge を再インストールしてください。

→ <https://www.microsoft.com/ja-jp/edge/business/download>

以上で完了です。

6.2 その他の回復機能

「6.1 PC を初期状態に戻す」以外の方法で Windows システムの回復を試みる場合、次の方法で実施してください。

各種回復機能の詳細は、Microsoft 社の Web サイトを参照してください。

<https://support.microsoft.com/windows/31ce2444-7de3-818c-d626-e3b5a3024da5>

6.2.1 Microsoft 社製 OS インストールメディアの Windows 回復環境を使用する場合

次の手順で Windows 回復環境を起動します。

1. Microsoft 社製 OS インストールメディアから起動し、Windows のセットアップウィザードの「コンピューターを修復する」を選択してください。
2. オンボードの RAID コントローラー(Intel(R) Rapid Storage Technology)をご使用の場合は、「6.2.3 ドライバーの読み込み手順」を参照してドライバーを適用します。
3. いずれかの回復オプションで Windows システムを回復します。

以上で完了です。

6.2.2 ハードディスクドライブ上の回復機能を使用する場合

Windows が起動できるときは、ハードディスクドライブ上の回復機能を使用し、次の手順で Windows 回復環境を起動します。

1. スタートメニューを右クリックし、[設定]を選択します。
2. [回復]をクリックします。



3. [今すぐ再起動]をクリックします。



4. [トラブルシューティング]を選択します。
5. [詳細オプション]をクリックします。
6. オンボードの RAID コントローラー(Intel(R) Rapid Storage Technology)をご使用の場合は、「6.2.3 ドライバーの読み込み手順」を参照してドライバーを適用します。



プリインストールモデルでは、ドライバーの読み込みは不要です。

7. いずれかの回復オプションで Windows システムを回復します。

以上で完了です。

6.2.3 ドライバーの読み込み手順

オンボードの RAID コントローラー(Intel(R) Rapid Storage Technology)をご使用の場合は、次の手順でドライバーを適用してください。

1. 内蔵の光ディスクドライブをご使用の場合は、リムーバブルメディアからドライバーを読み込みます。
事前にバックアップ Disc から次のフォルダーをリムーバブルメディアにコピーします。

```
<ドライブレター>:\$starter_pack\drivers¥01_storage¥5_bf_01
```

2. Windows 回復環境を起動した後、[トラブルシューティング]をクリックします。
3. [コマンドプロンプト]をクリックします。
4. 次の手順でドライバーを読み込みます。

□ 内蔵の光ディスクドライブをご使用の場合

手順 1 でドライバーをコピーしたリムーバブルメディアをセットし、次のコマンドを入力します。
(以下の例では、リムーバブルメディアを E:としています。システムに応じて適宜変更してください)

```
drvload E:\$5_bf_01¥iaStorVD.inf
```

□ 外付けの光ディスクドライブをご使用の場合

バックアップ Disc を外付けの光ディスクドライブにセットした後、次のコマンドを入力します。
(以下の例では、外付けの光ディスクドライブを D:としています。システムに応じて適宜変更してください)

```
drvload D:¥starter_pack¥drivers¥01_storage¥5_bf_01¥iaStorVD.inf
```

5. コマンドプロンプトを終了します。

以上で完了です。

6.2.4 回復オプションについて

各オプションの詳細は、次のとおりです。適切なオプションを選択し、Windows を回復してください。

(1) 個人用ファイルを保持する

現在の個人用ファイルを保持したまま Windows 11 を初期状態へ戻します。

インストール済みのドライバーおよびアプリケーションはすべて削除され、Windows 11 がクリーンな状態になります。削除したドライバーおよびアプリケーションは、元に戻すことができません。必要に応じて、ドライバーおよびアプリケーションをインストールしてください。



本機能を使用しても、システム購入時の状態へ復元することはできません。

(2) すべて削除する

Windows 11 を初期状態へ戻します。

個人用ファイル、インストール済みのドライバー、およびアプリケーションがすべて削除され、Windows 11 がクリーンな状態になります。

削除したドライバーおよびアプリケーションは、元に戻すことができません。必要に応じて、ドライバーおよびアプリケーションをインストールしてください。



本機能を使用しても、システム購入時の状態へ復元することはできません。



初期状態に戻したとき、タイムゾーンに [(UTC-08:00) 太平洋標準時(米国およびカナダ)] が選択されている場合があります。[(UTC+09:00) 大阪、札幌、東京]を選択してください。

6.3 Windows 11 を購入時の状態に戻す

お使いの Windows 11 をシステム購入時の状態へ戻すときは、インストールガイド(Windows 編)の「1 章(4.3 リカバリーメディアの作成)」で作成したメディアを使用してください。



OS インストール先のディスクの内容はすべてクリアされます。
システムを回復する前にユーザーデータのバックアップを取ることを推奨します。

1. 作成したリカバリーメディアを接続します。
2. ディスプレイ、本製品の順に電源を ON するか、再起動します。
3. BIOS 設定メニューの[Boot]-[Boot Option Priorities]でリカバリーメディアを Boot Option #1 に設定します。

【設定例】

- Boot Option #1 [UEFI: リカバリーメディア]
 - Boot Option #2 [Windows Boot Manager]
4. リカバリーメディアから起動します。
 5. [Microsoft IME] をクリックします。
 6. [トラブルシューティング] をクリックします。
 7. [ドライブから回復する] をクリックします。
以降は画面の指示に従い、回復を開始してください。
 8. 次のメッセージが 100%に達すると、自動的に再起動します。
接続したリムーバブルメディアを取り外します。

この PC を回復しています (xx%)

以降は画面の指示に従い、システムを回復してください。

以上で完了です。

7. リセットとクリア

本製品が動作しなくなったとき、または BIOS 設定を出荷時に戻したいとき、以下を参照して対処してください。

7.1 リセット

OS 起動前に動作しなくなったときは、<Ctrl>キーと<Alt>キーを押しながら<Delete>キーを押してください。メモリに記憶されている処理中のデータをすべてクリアして再起動します。

**チェック**

ストール時を除き、本製品が何も処理していないことを確認してからリセットしてください。

7.2 強制電源 OFF

OS からシャットダウンできなくなったとき、POWER/SLEEP スイッチを押しても電源を OFF にできなくなったとき、またはリセットが機能しないときなどで使用します。

本製品の POWER/SLEEP スイッチを 4 秒以上押し続けてください。電源が強制的に OFF になります(電源を再び ON にするときは、電源 OFF から 10 秒以上待ってから電源を ON にしてください)。

**チェック**

リモートパワーオン機能を使っている場合、強制電源 OFF したときは、強制電源 OFF 後に一度 OS を起動させ、OS からのシャットダウンにて電源を OFF にしてください。

7.3 BIOS 設定のクリア

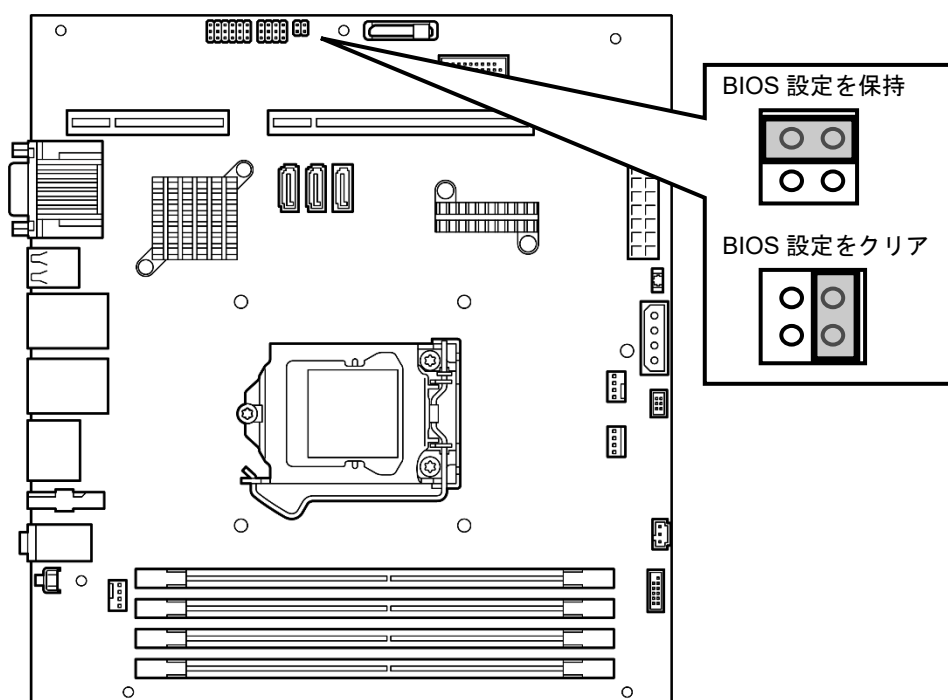
BIOS の設定を出荷時に戻すときは、内部のジャンパースイッチを操作します。



その他のジャンパースイッチは変更しないでください。本製品が故障したり、誤動作したりする原因となります。



BIOS セットアップユーティリティが起動できるときは、ユーティリティを使って出荷時の設定に戻してください。



ジャンパースイッチは、次の手順にて設定してください。



- 本製品を安全にお使いいただくために、添付のスタートアップガイドおよびユーザーズガイドに記載している「使用上のご注意」を必ずお読みください。「使用上のご注意」では、本製品を安全に、正しくお使いになるために大切な注意事項が記載されています。
- 静電気への対策をした上で操作してください。静電気に関する説明は、ユーザーズガイドの「2 章(1.2 静電気対策)」で詳しく説明しています。

1. 本製品に添付のスタートアップガイドまたはユーザーズガイドの「2 章(1. 内蔵オプションの取り付け／取り外し)」を参照し、マザーボードの設定ができるよう準備します。
2. 「BIOS 設定をクリア」の位置にジャンパースイッチを変更します。
3. 5 秒以上待ち、「BIOS 設定を保持」の位置に戻します。
4. 取り外した部品を元どおり組み立て、電源を ON にします。
5. 以下のエラーメッセージで POST が停止します。ここで、いったん電源を OFF にしてください。

ERROR
8006 : System Configuration data cleared by Jumper.
Press<F1> to resume, <F2> to Setup

6. 電源を ON にし、POST でエラーがなく正常に起動することを確認します。

8. システム診断

「システム診断」は、本製品が正常に動作しているか確認するための各種テストを行います。

8.1 システム診断の内容

システム診断には、次の項目があります。

- 本製品に取り付けられているメモリのチェック
- CPU キャッシュメモリのチェック
- ハードディスクドライブのチェック



実行前に、本製品に接続している LAN ケーブルと外部入出力装置（Fibre Channel や iStorage など）を外してください。接続したままシステム診断を行うと、ネットワークや運用中のストレージシステムに影響を及ぼすおそれがあります。



ハードディスクドライブのチェックでは、ディスクへの書き込みは行いません。

8.2 システム診断の起動と終了

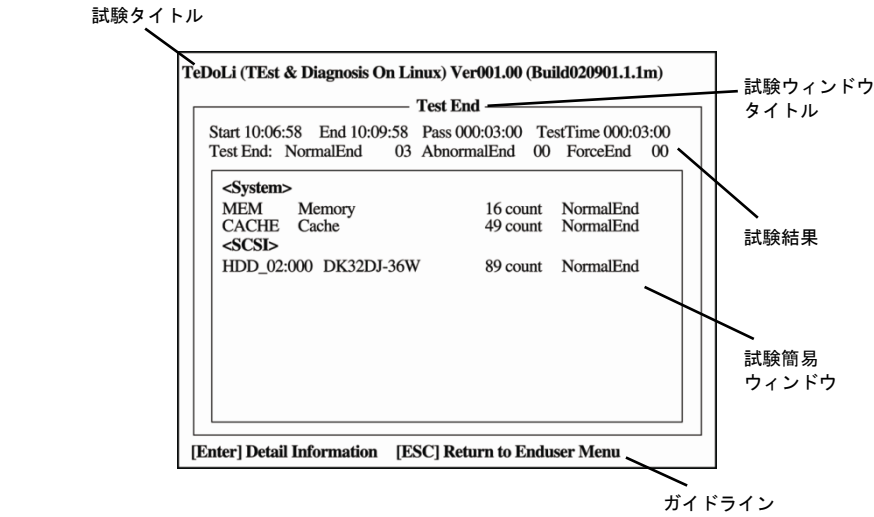
次の手順でシステム診断を起動します(本製品が運用中のときは、いったんシャットダウンしてください)。

1. バックアップ Disc を起動し、ブートメニューから[Tool menu]を選択します。
2. [Test and diagnostics]を選択します。
3. [End-User Mode (Basic)]を選択するとシステム診断が始まり、約 3 分で終了します。

診断を終了すると画面が次ページのような表示に変わります。

[End-User Mode (Professional)]については、バックアップ Disc の¥isolinux フォルダー内の eupro_ug_jp.pdf を参照してください。

[Supervisor-Mode]は保守員向けです。



試験タイトル

診断ツールの名称およびバージョン情報を表示します。

試験ウィンドウタイトル

診断状態を表示します。試験終了時には Test End と表示します。

試験結果

診断開始、終了、経過時間、および終了時の状態を表示します。

ガイドライン

ウィンドウを操作するキーの説明を表示します。

試験簡易ウィンドウ

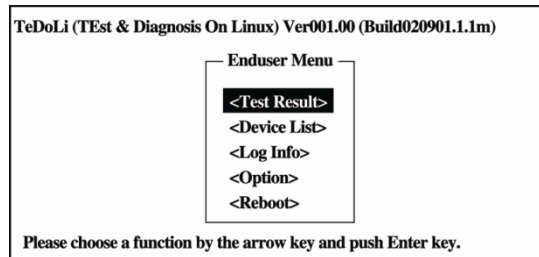
各試験の結果を表示します。カーソル行で<Enter>キーを押すと試験の詳細を表示します。

システム診断でエラーを検出した場合、試験簡易ウィンドウの該当する試験結果が赤く反転表示し、右側の結果に「Abnormal End」を表示します。

エラーを検出した試験にカーソルを移動して<Enter>キーを押してください。出力されたエラーメッセージは、内容を記録し、お問い合わせの販売店、または保守サービス会社に連絡してください。

4. 画面最下段の「ガイドライン」に従い<Esc>キーを押します。

以下のエンドユーザーメニューを表示します。



<Test Result>

手順 3 の画面を表示します。

<Device List>

接続されているデバイス一覧を表示します。

<Log Info>

試験ログを表示します。試験ログを保存できます。試験ログを保存する場合、FAT フォーマット済みのリムーバブルメディアをセットし、[Save(F)]を選択してください。

<Option>

オプション機能が利用できます。

<Reboot>

本製品を再起動します。

5. 手順 4 のエンドユーザーメニューから[Reboot]を選択します。

本製品が再起動しますので、バックアップ Disc を取り出してください。

以上でシステム診断は終了です。

NEC Express5800 シリーズ Express5800/53Xm, Y53Xm

2

便利な機能

本製品を使う上で便利な機能について説明します。お客様の目的や必要に応じてこの章を参照してください。

1. システム BIOS の詳細

BIOS の設定方法、パラメーターについて説明しています。

2. RAID システムのコンフィグレーション

本製品に組み込まれている RAID コンフィグレーションユーティリティについて説明しています。

3. ESMPRO

管理／監視用アプリケーションの ESMPRO について説明しています。

4. Intel Optane Memory and Strage Management

RAID コントローラーの管理／監視用アプリケーション Intel Optane Memory and Strage Management について説明しています。

5. エクスプレス通報サービス/エクスプレス通報サービス(HTTPS)

本製品の障害情報を自動通報するエクスプレス通報サービス/エクスプレス通報サービス(HTTPS)について説明しています。

6. エクスプレス通報サービス(MG)

本製品の障害情報を自動通報するエクスプレス通報サービス(MG)について説明しています。

1. システム BIOS の詳細

システム BIOS は、BIOS セットアップユーティリティ(SETUP)を使ってパラメーターの確認と変更ができます。

1.1 SETUP の起動

本製品の電源を ON にして、POST を進めます。

しばらくすると、次のメッセージが画面左下に表示されます。

Press <F2> SETUP, <F7> B00T Menu

ここで<F2>キーを押すと、POST 終了後に SETUP が起動して Main メニューが表示されます(オプション ROM の展開中に<F2>キーを押しても SETUP が起動します)。

1.2 パラメーターと説明

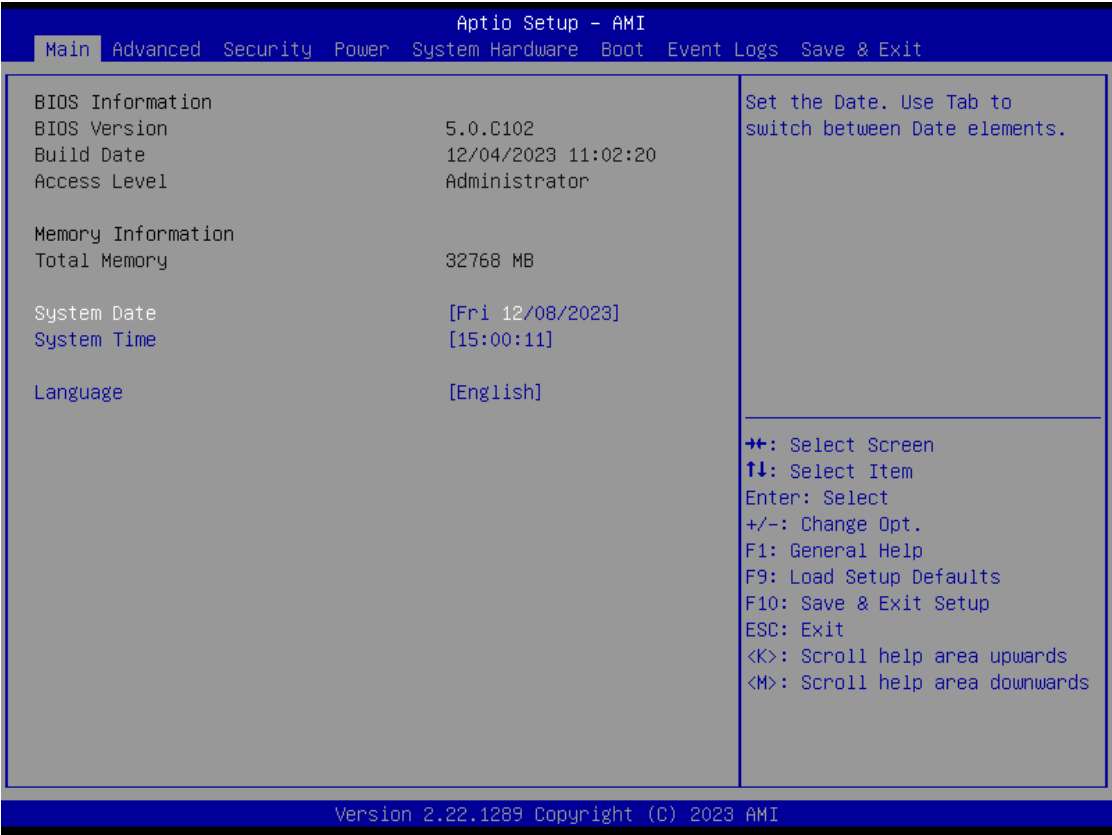
SETUP には大きく 8 種類のメニューがあります。

- Main メニュー
- Advanced メニュー
- Security メニュー
- Power メニュー
- System Hardware メニュー
- Boot メニュー
- Event Logs メニュー
- Save & Exit メニュー

これらのメニューには、関連する項目ごとにサブメニューがあります。サブメニューを選択することで、多くのパラメーターを設定できます。

1.2.1 Main メニュー

SETUP を起動すると、はじめに Main メニューが表示されます。



各項目については次の表を参照してください。

項 目	パラメーター	説 明
BIOS Information	—	—
BIOS Version	—	BIOSのバージョンです。(表示のみ)
Build Date	MM/DD/YYYY	BIOSの作成日です。(表示のみ)
Access Level	[Administrator] User	管理者(Administrator)／ユーザー(User)のどちらで起動したか表示します。(表示のみ) パスワードが設定されていないときは[Administrator]になります。
Memory Information	—	—
Total Memory	—	搭載されたメモリの容量です。(表示のみ)
System Date	MM/DD/YYYY	日付を設定します。
System Time	HH:MM:SS	時刻を設定します。
Language	[English] 日本語(JP)	表示言語を設定します。

[]: 出荷時の設定



時刻や日付が正しく設定されているか確認してください。次の条件に当てはまるときは、運用の前にシステム時計の確認・調整をしてください。

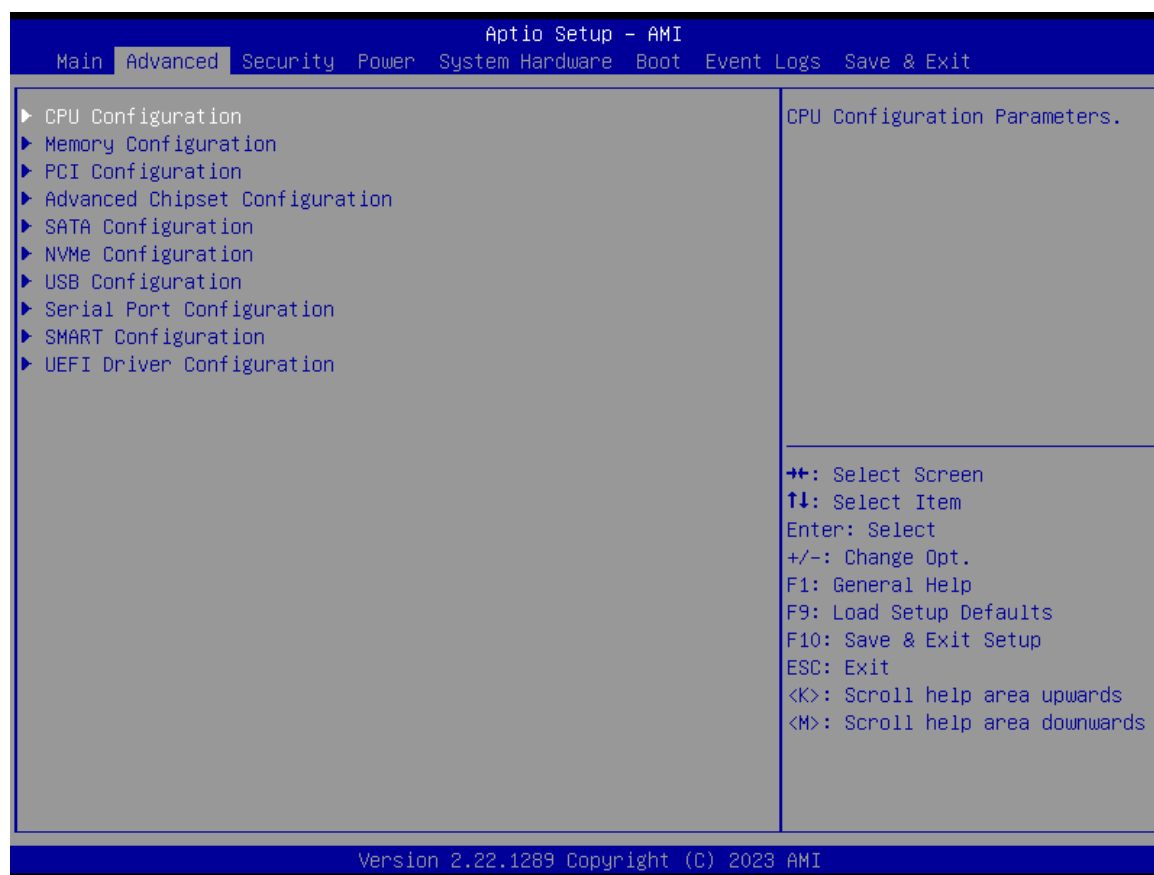
- 輸送した後
- 長期に保管した後
- 動作保証の環境条件(温度：5°C～40°C・湿度：20%～80%(結露なし))から外れた条件下で休止状態にした後

システム時計は毎月 1 回程度の割合で確認してください。また、高精度で運用したいときは、タイムサーバー(NTP サーバー)などを利用することをお勧めします。

1.2.2 Advanced メニュー

カーソルを「Advanced」の位置に移動させると、Advanced メニューが表示されます。

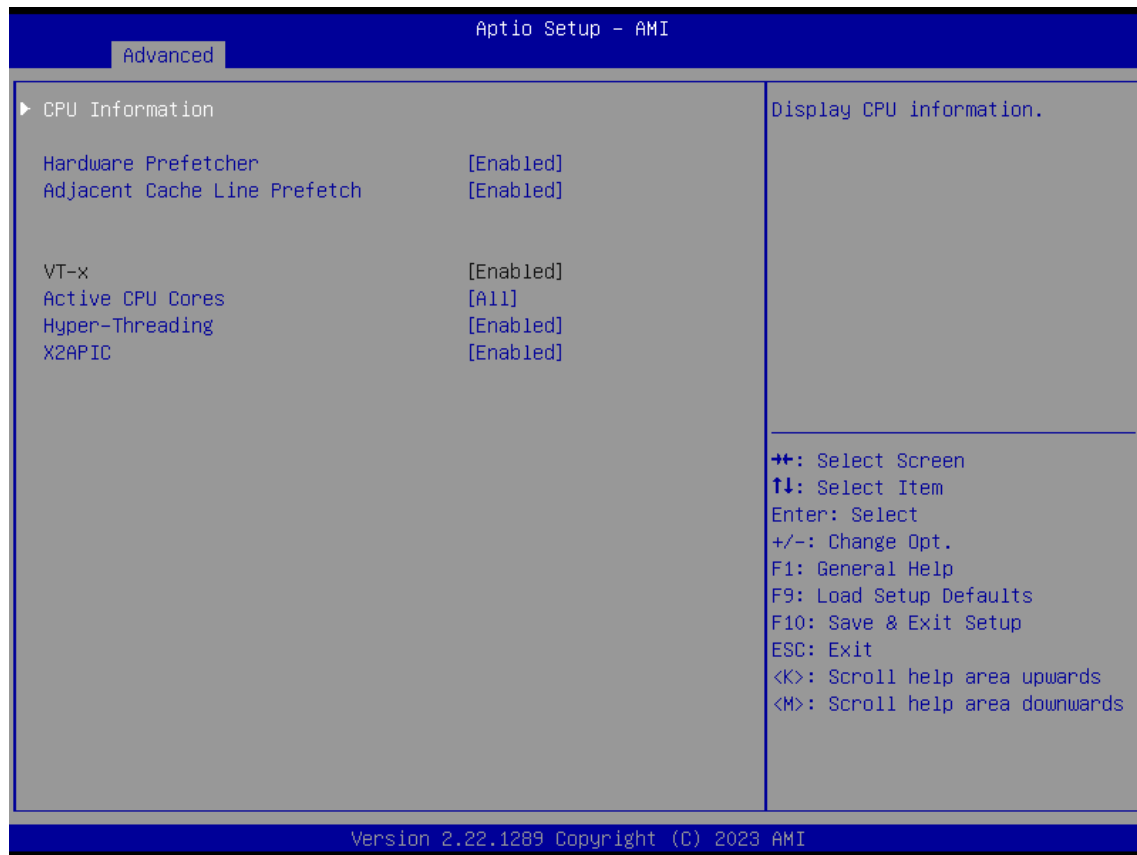
「▶」が付いている項目は、選択して<Enter>キーを押すとサブメニューが表示されます。



(1) CPU Configuration サブメニュー

Advanced メニューで[CPU Configuration]を選択して<Enter>キーを押すと、次の画面が表示されます。

「▶」が付いている項目は、選択して<Enter>キーを押すとサブメニューが表示されます。

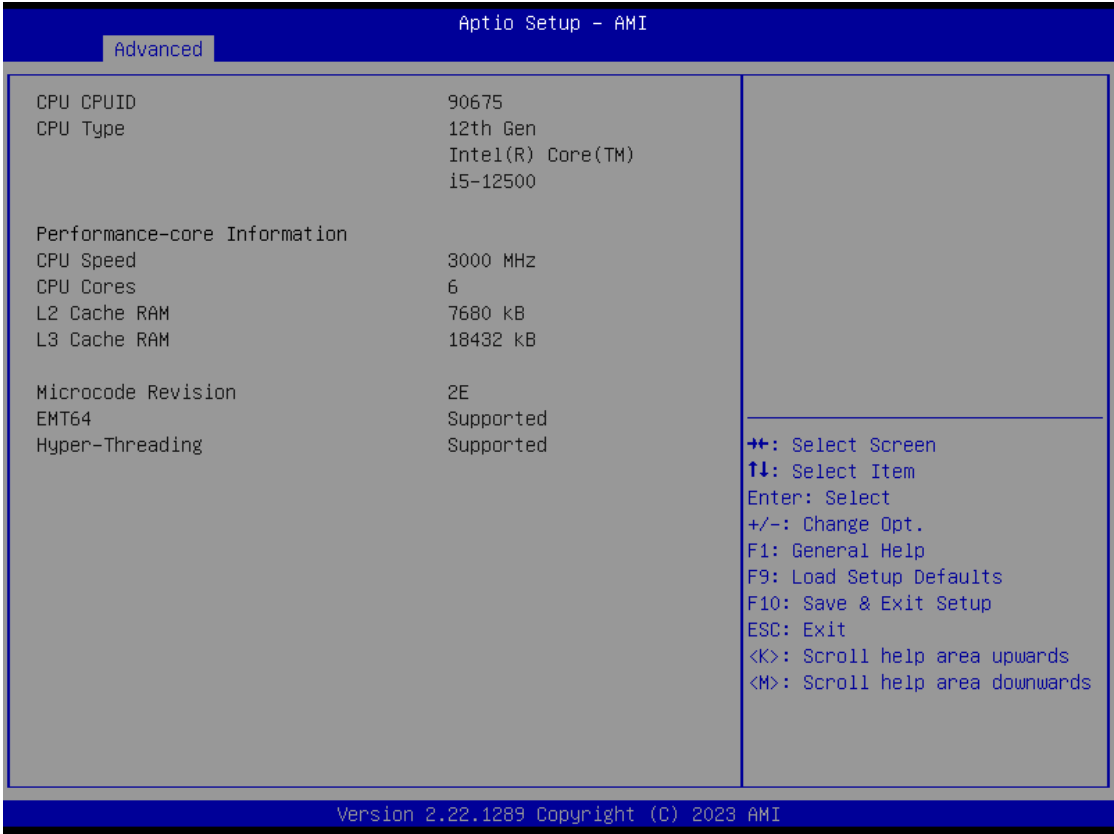


各項目については次の表を参照してください。

項 目	パラメーター	説 明
CPU Information	—	—
Hardware Prefetcher	Disabled [Enabled]	ハードウェア・プリフェッチャーの有効／無効を設定します。
Adjacent Cache Line Prefetch	Disabled [Enabled]	メモリからキャッシュへのアクセス最適化の有効／無効を設定します。
VT-x	Disabled [Enabled]	Intel(R)Virtualization Technology機能(プロセッサの仮想化支援機能)の有効／無効を設定します。 本機能をサポートしたプロセッサが搭載されたときのみ表示されます。 本項目は「X2APIC」、「TXT Support」が [Disabled]のときに[Disabled]を選択できます。
Active CPU Cores	[All] - x	プロセッサ内部で有効なコア数を設定します。搭載するプロセッサによって選択できるコア数が変わります。 本項目は「TXT Support」が[Disabled]のときに選択できます。
Hyper-Threading	Disabled [Enabled]	1つのコアで2つのスレッドを同時に実行する機能の有効／無効を設定します。本機能をサポートしているプロセッサが搭載されたときのみ表示します。 本項目は「TXT Support」が[Disabled]のときに選択できます。
X2APIC	Disabled [Enabled]	X2APICの有効／無効を設定します。本項目は「VT-x」および「VT-d」が[Enabled]のときに選択できます。

[]: 出荷時の設定

(a) CPU Information サブメニュー



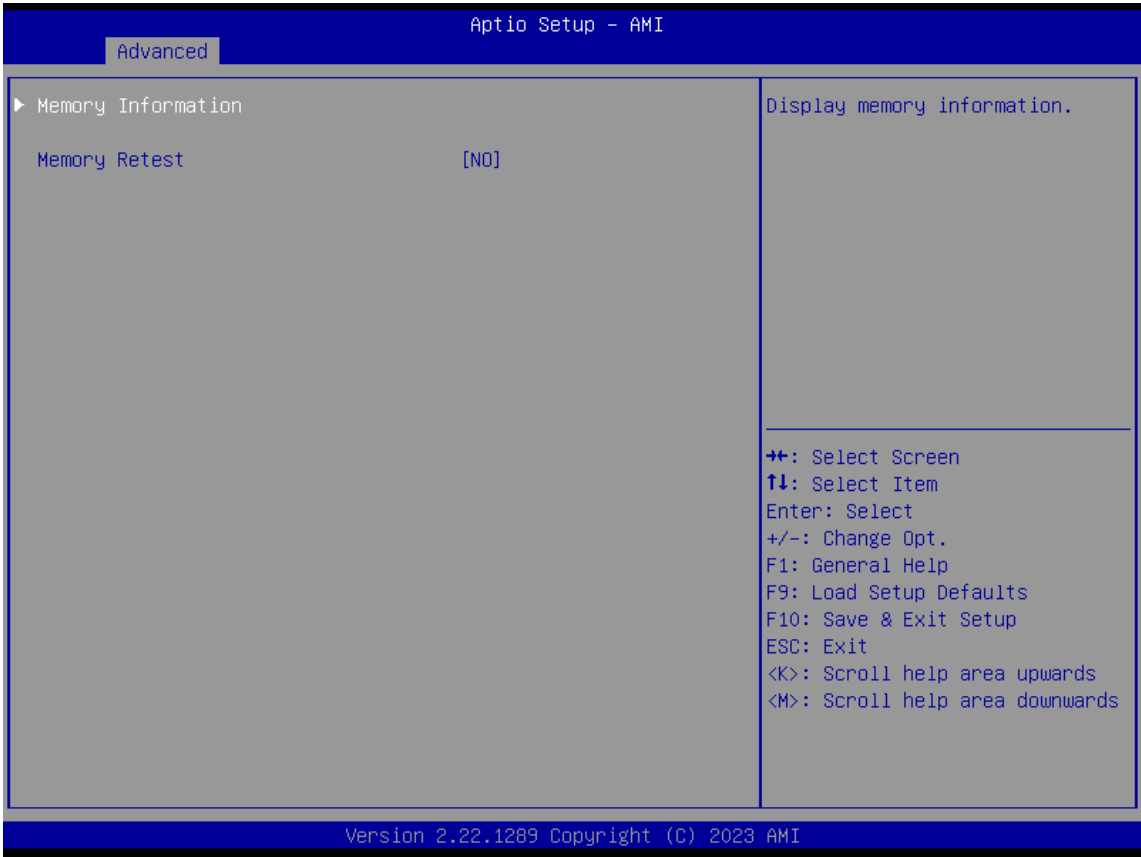
各項目については次の表を参照してください。(表示のみ)

項 目	パラメーター	説 明
CPU CPUID	数値(xxxxx)	プロセッサのIDです。
CPU Type	—	プロセッサのタイプです。
CPU Speed	—	プロセッサのクロック速度です。
CPU Cores	—	プロセッサ内部のコア数です。
L2 Cache RAM	—	プロセッサの二次キャッシュサイズです。
L3 Cache RAM	—	プロセッサの三次キャッシュサイズです。
Microcode Revision	—	プロセッサに適用されているマイクロコードのレビジョンです。
EMT64	Supported Not Supported	プロセッサのインテル64アーキテクチャのサポート状態です。
Hyper-Threading	Supported Not Supported	プロセッサのHyper-Threading Technology機能の状態です。

[]: 出荷時の設定

(2) Memory Configuration サブメニュー

Advanced メニューで[Memory Configuration]を選択して<Enter>キーを押すと、次の画面が表示されます。
「▶」が付いている項目は、選択して<Enter>キーを押すとサブメニューが表示されます。

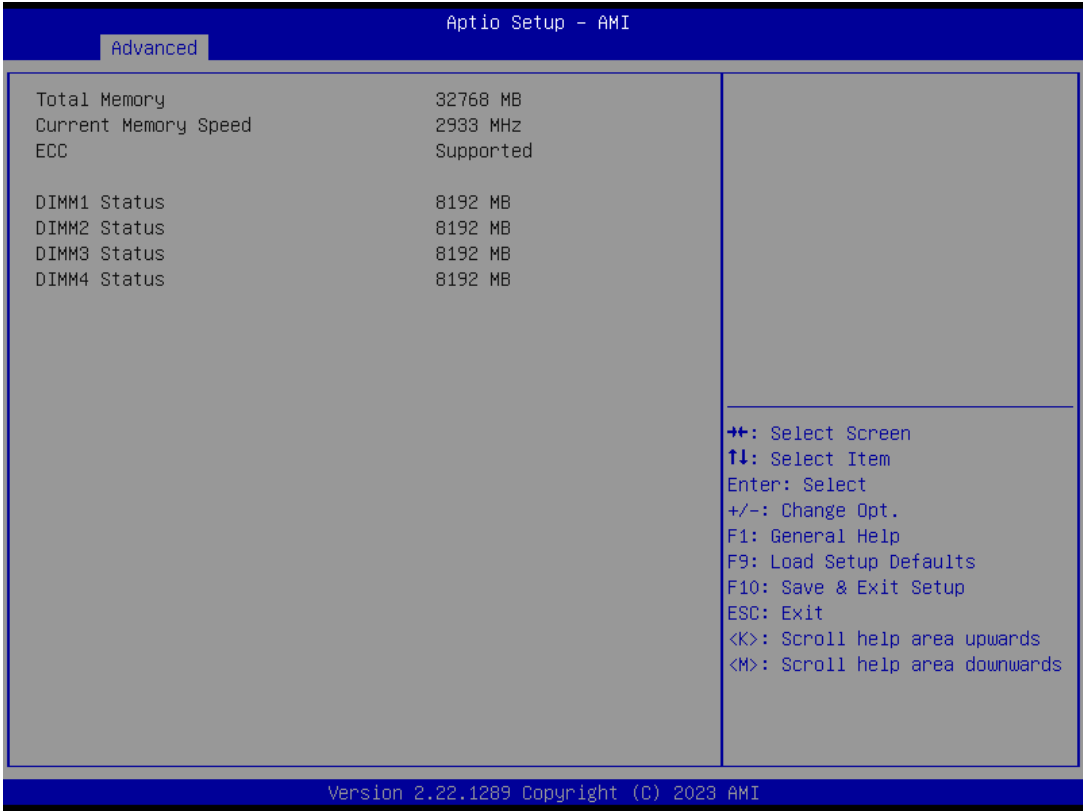


各項目については次の表を参照してください。

項 目	パラメーター	説 明
Memory Information	—	—
Memory Retest	[NO] YES	[YES]に設定すると、メモリのエラー情報をクリアして、次回POST時にすべてのメモリを再構成します。このパラメーターは、メモリ再構成後に自動的に[NO]へ戻ります。

[]: 出荷時の設定

(a) Memory Information サブメニュー



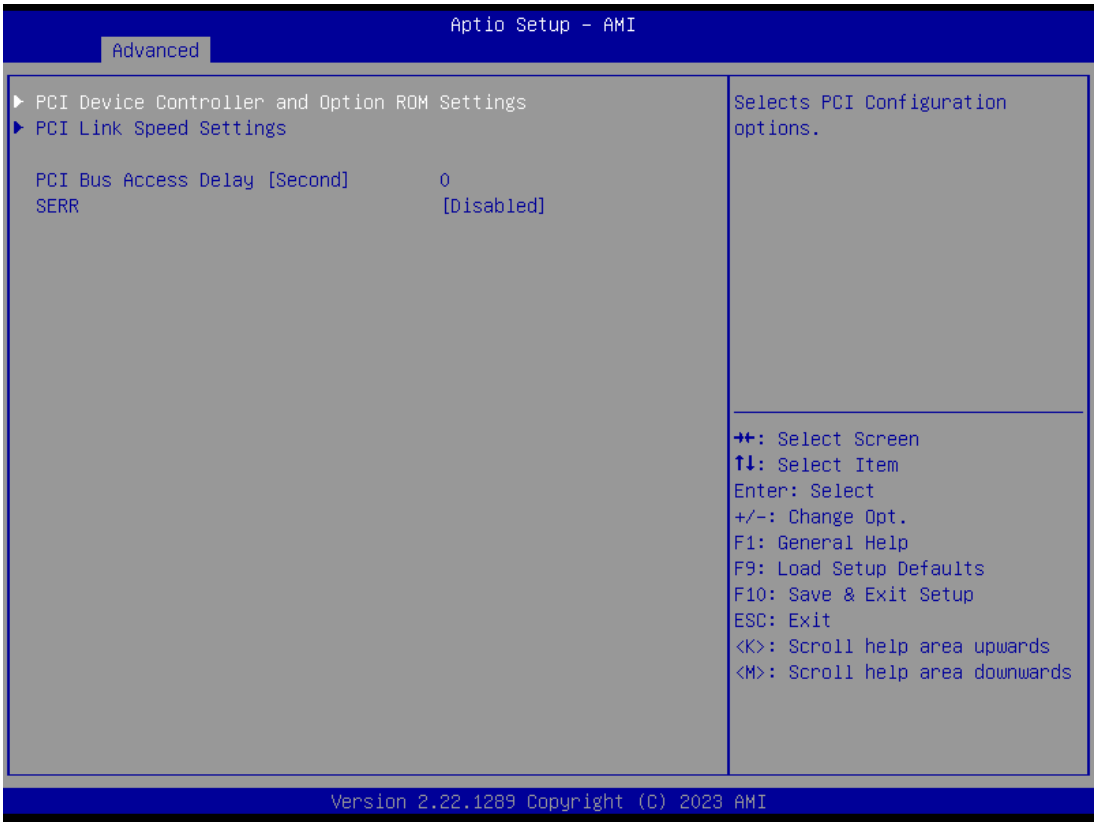
各項目については次の表を参照してください(表示のみ)。

項 目	パラメーター	説 明
Total Memory	—	搭載されたメモリの物理容量です。
Current Memory Speed	—	メモリの動作周波数です。
ECC	Supported Not Supported	メモリのECCサポート状態を表示します。
DIMM1 Status DIMM2 Status DIMM3 Status DIMM4 Status	数値 Disabled Not Present Error	メモリの状態を表示します。 数値のときは、メモリが正常であり、そのメモリの容量を意味します。その他の意味は次のとおりです。 Disabled : 故障している Not Present : メモリが取り付けられていない Error : メモリの強制起動

[]: 出荷時の設定

(3) PCI Configuration サブメニュー

Advanced メニューで[PCI Configuration]を選択して<Enter>キーを押すと、次の画面が表示されます。
「▶」が付いている項目は、選択して<Enter>キーを押すとサブメニューが表示されます。

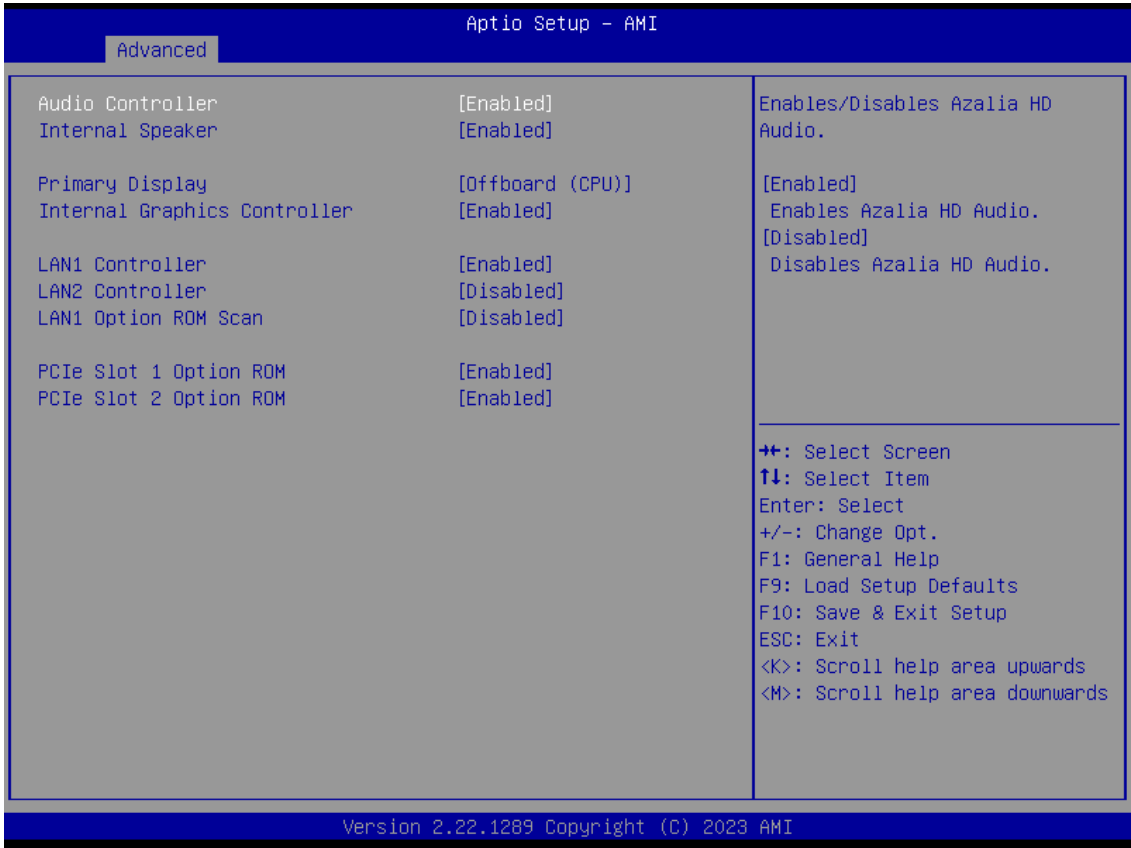


各項目については次の表を参照してください。

項 目	パラメーター	説 明
PCI Device Controller and Option ROM Settings	—	—
PCI Link Speed Settings	—	—
PCI Bus Access Delay [Second]	[0] ~ 10	PCIのアクセス遅延を設定します。(単位：秒)
SERR	[Disabled] Enabled	PCI SERR検出を有効/無効に設定します。

[]: 出荷時の設定

(a) PCI Device Controller and Option ROM Settings サブメニュー

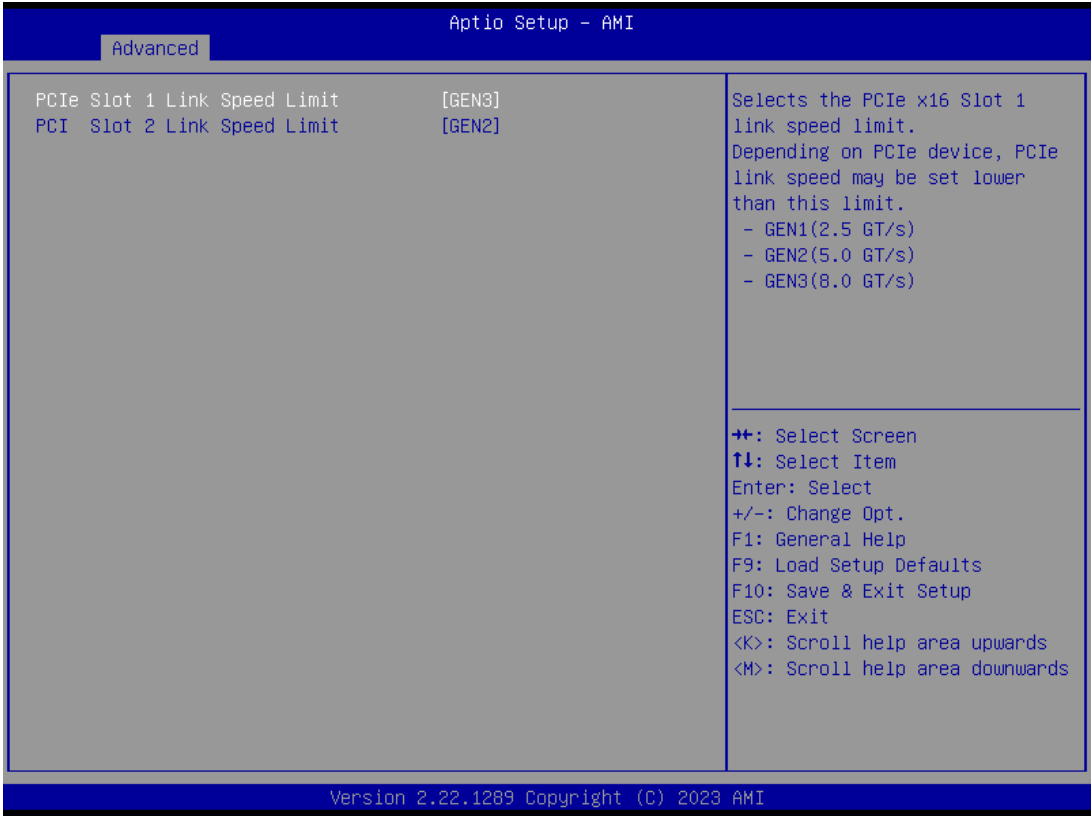


各項目については次の表を参照してください。

項 目	パラメーター	説 明
Audio Controller	Disabled [Enabled]	内蔵オーディオコントローラーの有効／無効を設定します。
Internal Speaker	Disabled [Enabled]	内蔵スピーカの有効／無効を設定します。
Primary Display	Onboard [Offboard(CPU)] Offboard(PCH)	内蔵グラフィックスアクセラレータと拡張グラフィックスアクセラレータの優先順位を設定します。
Internal Graphics Controller	Disabled [Enabled]	内蔵グラフィックスの有効／無効を設定します。
LAN1 Controller	Disabled [Enabled]	内蔵のLANコントローラー1の有効／無効を設定します。
LAN2 Controller	[Disabled] Enabled	内蔵のLANコントローラー2の有効／無効を設定します。
LAN1 Option ROM Scan	[Disabled] Enabled	内蔵のLANコントローラー1でのブート機能の有効／無効を設定します。 本項目は「LAN Controller 1」を[Enabled]にしたときに表示されます。
LAN 2 Option ROM Scan	[Disabled] Enabled	内蔵のLANコントローラー2でのブート機能の有効／無効を設定します。 本項目は「LAN Controller 2」を[Enabled]にしたときに表示されます。
PCIe Slot 1 Option ROM PCIe Slot 2 Option ROM	Disabled [Enabled]	PCIeボード上のオプションROM展開の有効／無効を設定します。

[]: 出荷時の設定

(b) PCI Link Speed Settings サブメニュー



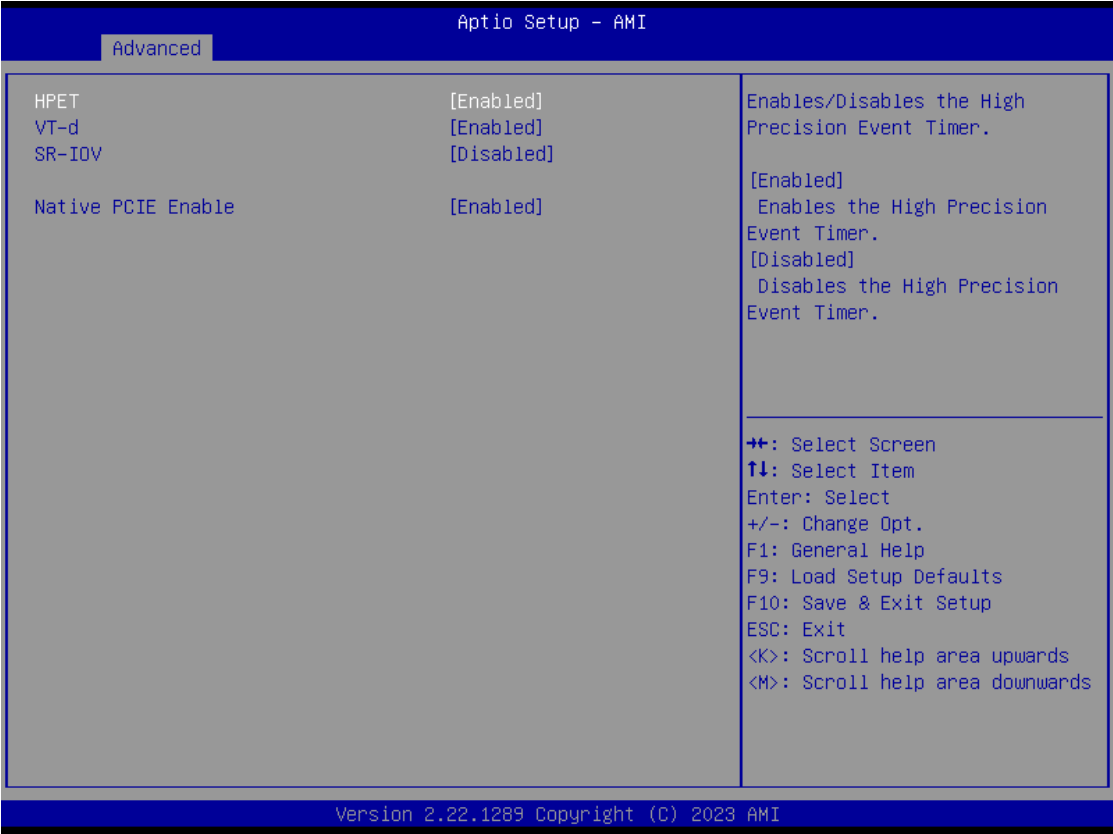
各項目については次の表を参照してください。

項 目	パラメーター	説 明
PCIe Slot 1 Link Speed Limit	GEN1 GEN2 [GEN3]	PCI Expressスロット1のLinkスピードの上限値を設定します。
PCIe Slot 2 Link Speed Limit	GEN1 [GEN2] GEN3	PCI Expressスロット2のLinkスピードの上限値を設定します。

[]: 出荷時の設定

(4) Advanced Chipset Configuration サブメニュー

Advanced メニューで[Advanced Chipset Configuration]を選択して<Enter>キーを押すと、次の画面が表示されます。



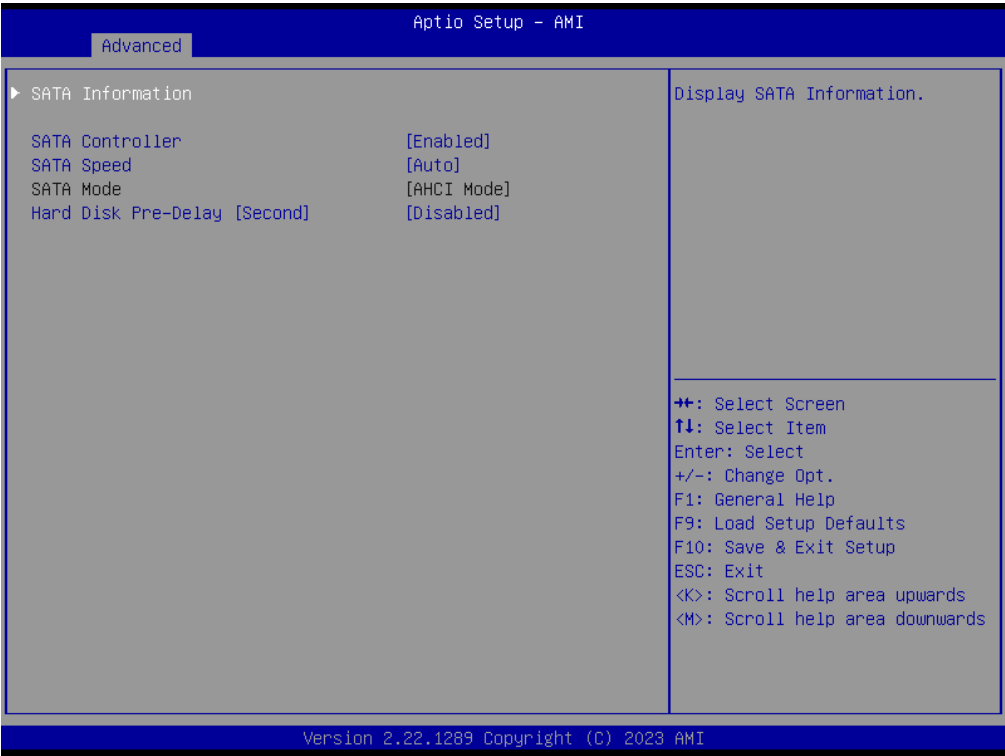
各項目については次の表を参照してください。

項 目	パラメーター	説 明
HPET	Disabled [Enabled]	高精度イベントタイマー(HPET)の有効／無効を設定します。
VT-d	Disabled [Enabled]	Intel(R)Virtualization Technology for Directed I/O機能(I/Oの仮想化支援機能)の有効／無効を設定します。本機能をサポートしたプロセッサが搭載されたときのみ表示します。 本項目は「X2APIC」、「TXT Support」が[Disabled]のときに[Disabled]を選択できます。
SR-IOV	[Disabled] Enabled	Single Root I/O Virtualizationの有効／無効を設定します。
Native PCIE Enable	Disabled [Enabled]	PCI Expressネイティブ制御機能の有効／無効を設定します。

[]: 出荷時の設定

(5) SATA Configuration サブメニュー

Advanced メニューで[SATA Configuration]を選択して<Enter>キーを押すと、次の画面が表示されます。
「▶」が付いている項目は、選択して<Enter>キーを押すとサブメニューが表示されます。

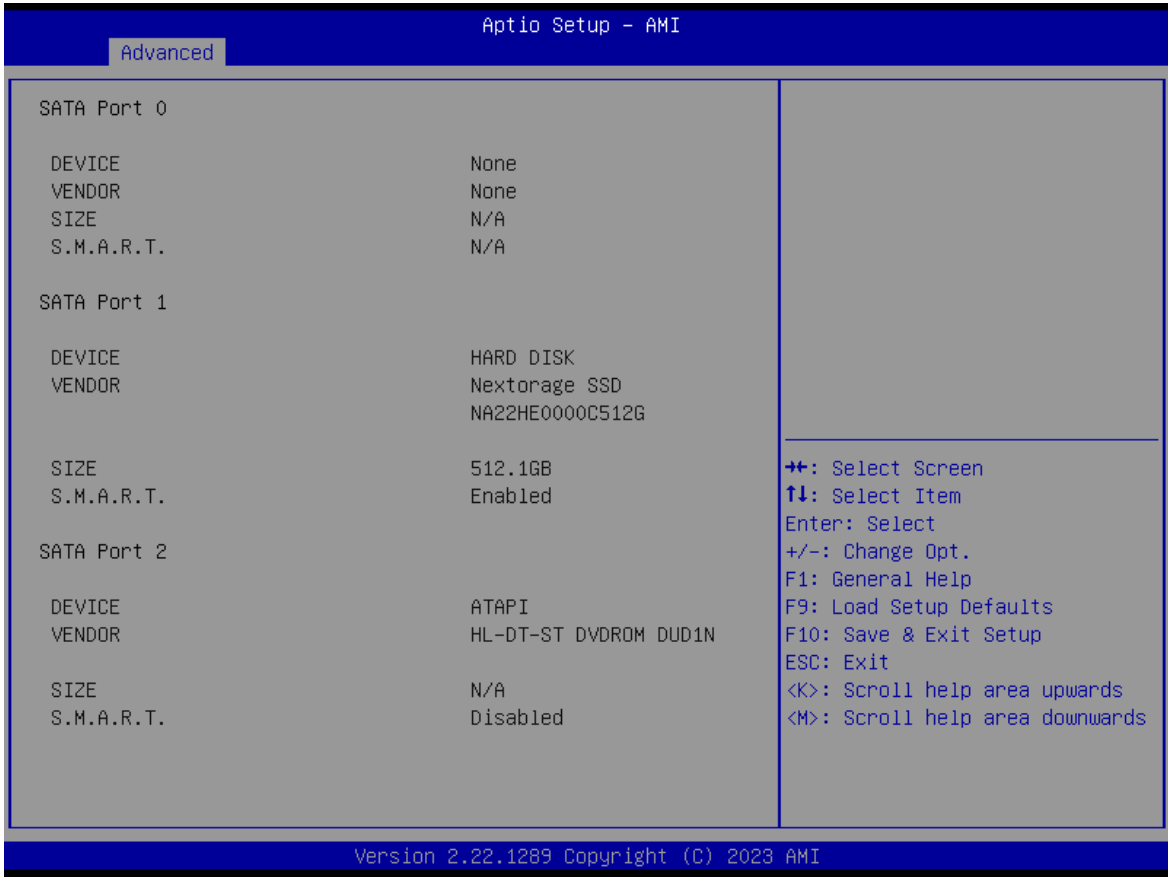


各項目については次の表を参照してください。

項 目	パラメーター	説 明
SATA Information	—	本項目は「SATA Mode」が[RAID Mode]のときは表示されません。
SATA Controller	Disabled [Enabled]	SATAコントローラーの有効／無効を設定します。
SATA Speed	[Auto] GEN1 GEN2 GEN3	SATAコントローラーの動作スピードを設定します。
SATA Mode	AHCI Mode RAID Mode	SATAコントローラーの動作モードを表示します。RAIDモデルのときは、[RAID Mode]と表示します。
Hard Disk Pre-Delay	[Disabled] 3 6 9 12 15 21 30	POST中のHDDアクセスの遅延時間を設定します。 本項目は「SATA Mode」が[RAID Mode]のときは表示されません。

[]: 出荷時の設定

(a) SATA Information サブメニュー

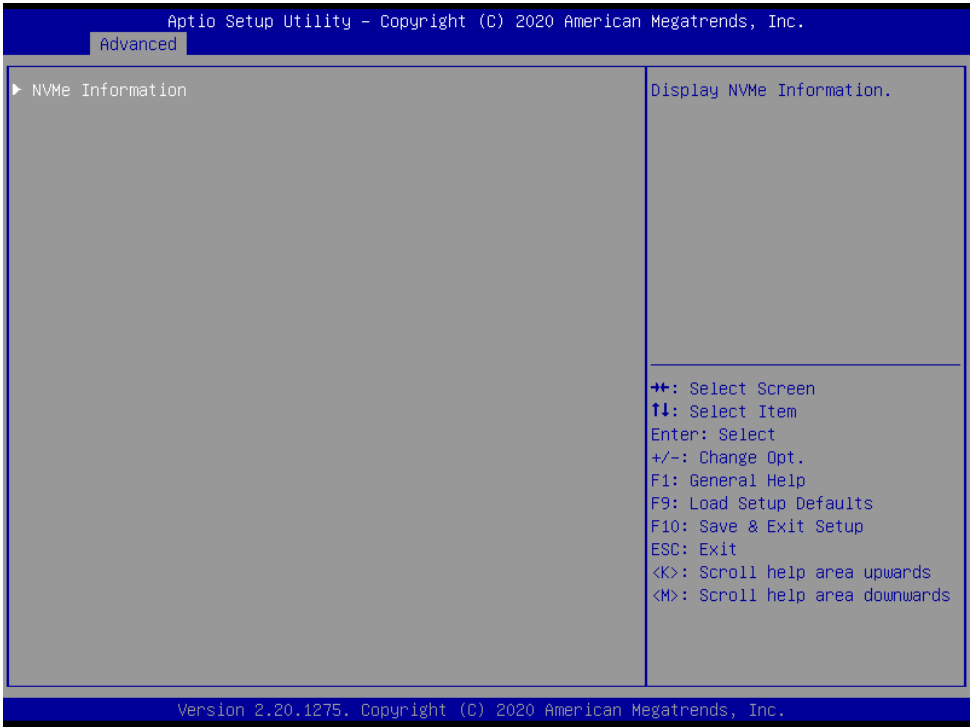


各項目については次の表を参照してください (表示のみ)。

項 目	パラメーター	説 明
SATA Port 0 SATA Port 1 SATA Port 2	(表示のみ)	各ポートへ接続しているデバイスの情報を表示します。

(6) NVMe Configuration サブメニュー

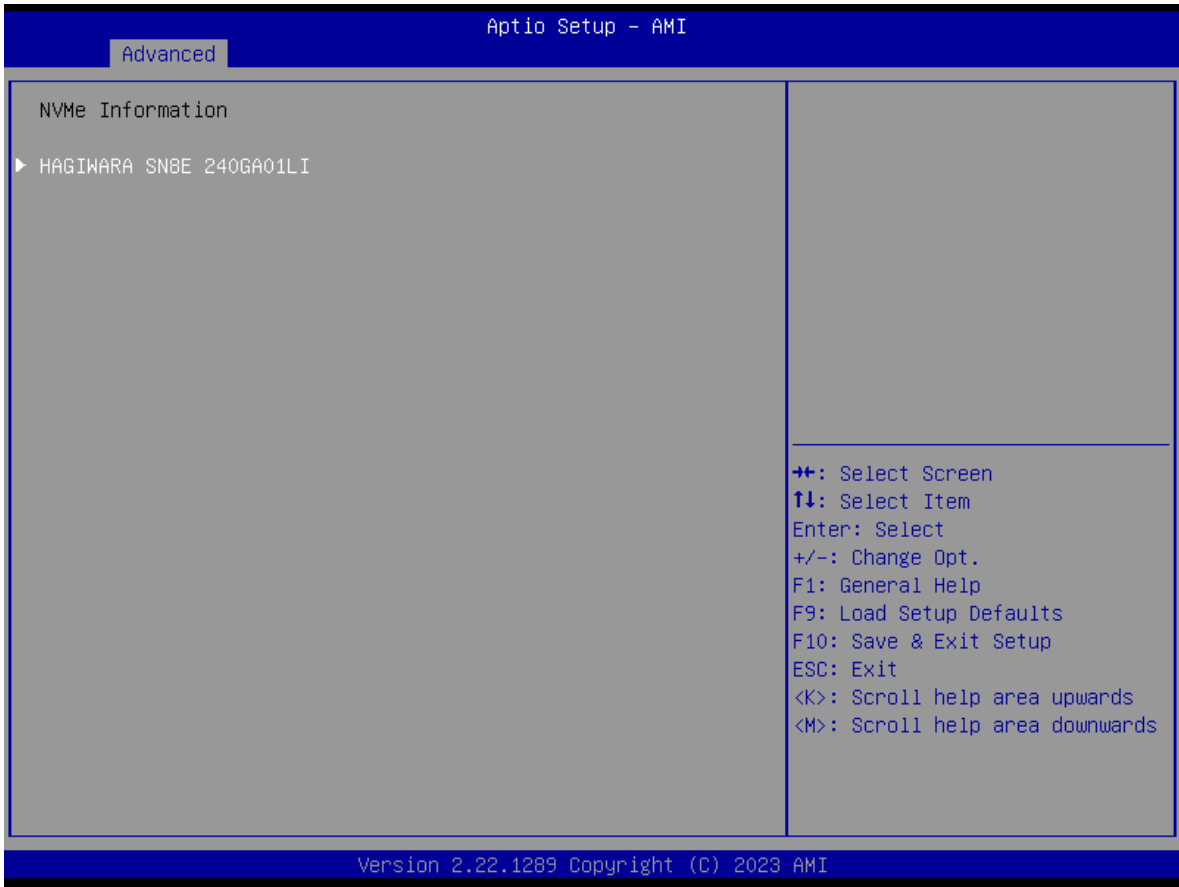
Advanced メニューで[NVMe Configuration]を選択して<Enter>キーを押すと、次の画面が表示されます。
「▶」が付いている項目は、選択して<Enter>キーを押すとサブメニューが表示されます。



各項目については次の表を参照してください。

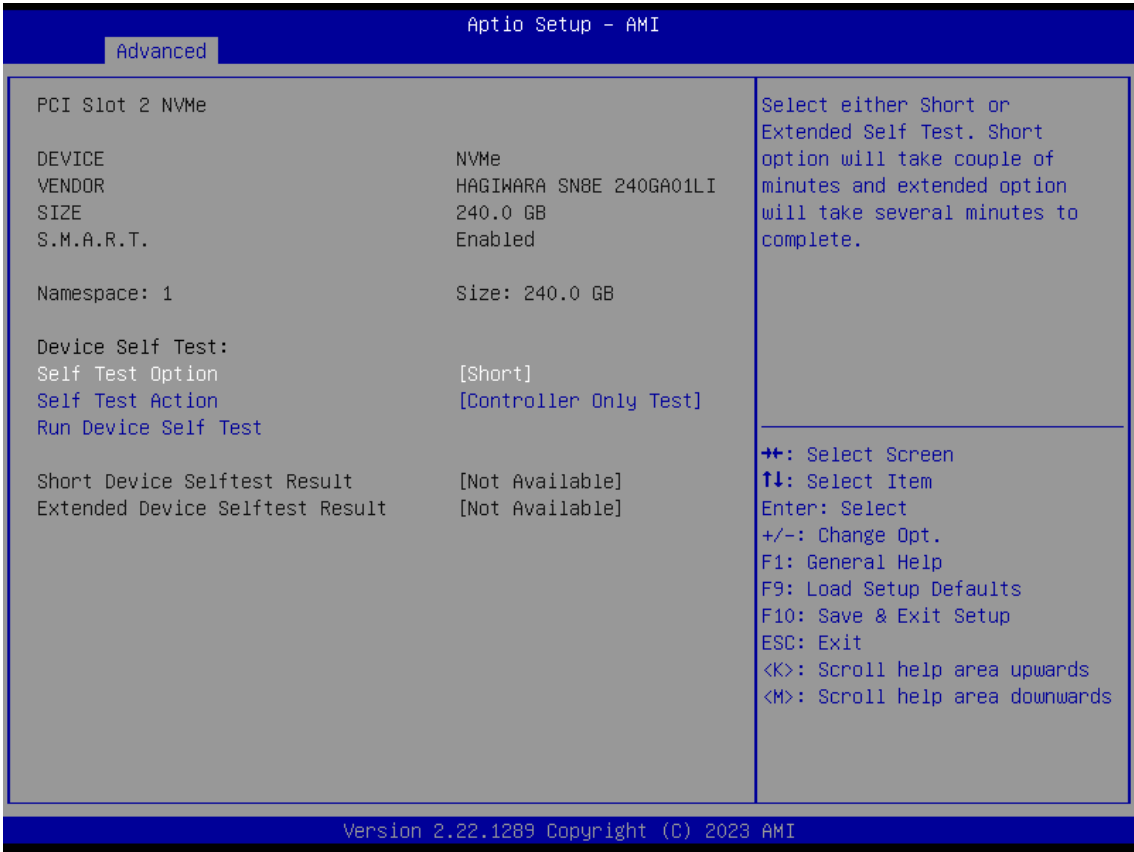
項 目	パラメーター	説 明
NVMe Information	—	—

(a) NVMe Information サブメニュー



各項目については次の表を参照してください。

項 目	パラメーター	説 明
NVMe Information	—	—
(Device Name)	—	Deviceがない場合は、"No NVMe Device Found"

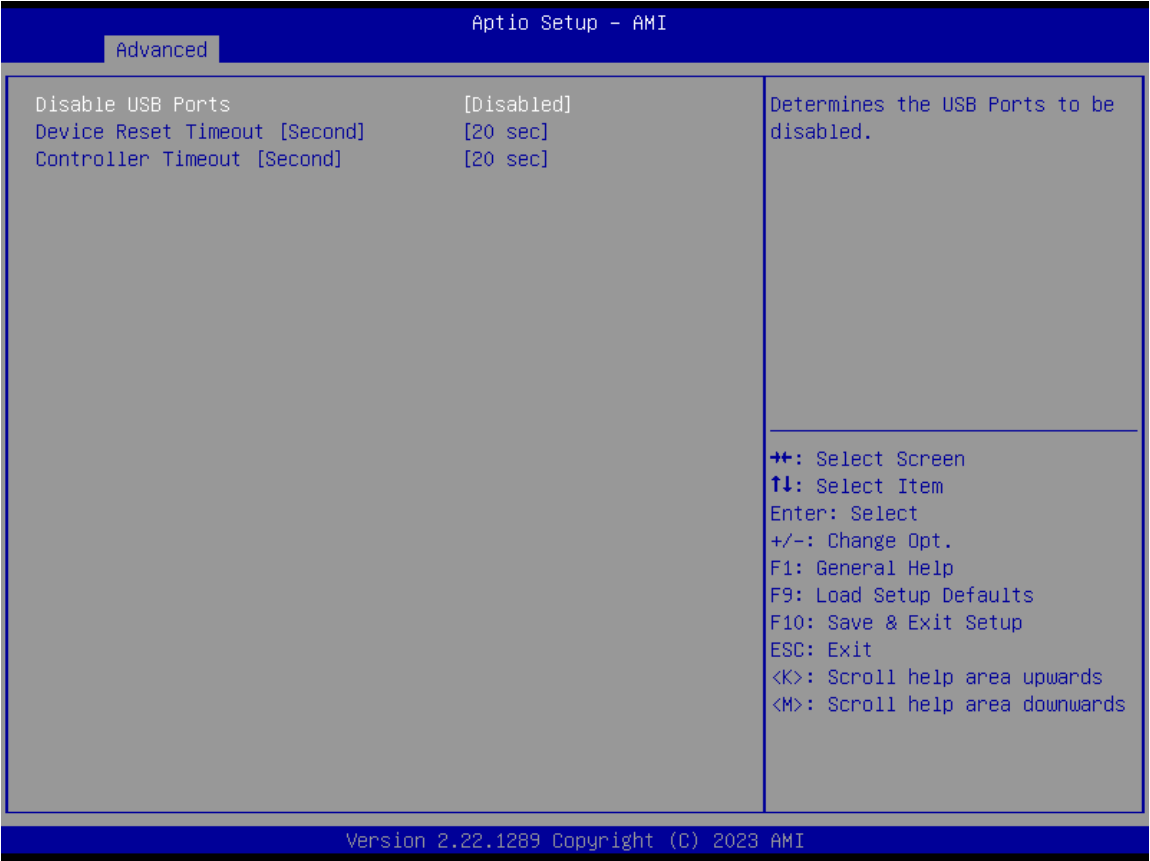


各項目については次の表を参照してください (表示のみ)。

項 目	パラメーター	説 明
PCI Slot 2 NVMe	(表示のみ)	ポートへ接続しているデバイスの情報を表示します。

(7) USB Configuration サブメニュー

Advanced メニューで[USB Configuration]を選択して<Enter>キーを押すと、次の画面が表示されます。



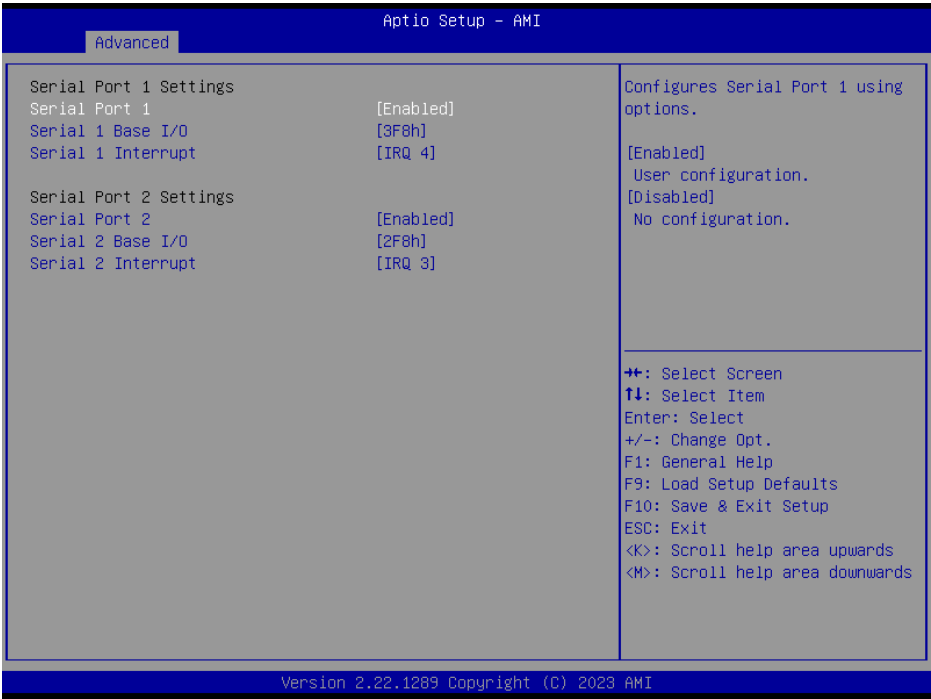
各項目については次の表を参照してください。

項 目	パラメーター	説 明
Disable USB Ports	[Disabled] Front Rear Front + Rear	無効にするUSBポートを設定します。 [Disabled]のときはすべてのUSBポートが有効になります。
Device Reset Timeout [Second]	10 [20] 30 40	USB Mass Storage DeviceへStart Unitコマンドを発行したときのタイムアウト時間を設定します。
Controller Timeout [Second]	1 5 10 [20]	USBコントローラーへControl, BulkおよびInterrupt Transferコマンドを発行したときのタイムアウト時間を設定します。

[]: 出荷時の設定

(8) Serial Port Configuration サブメニュー

Advanced メニューで[Serial Port Configuration]を選択して<Enter>キーを押すと、次の画面が表示されます。



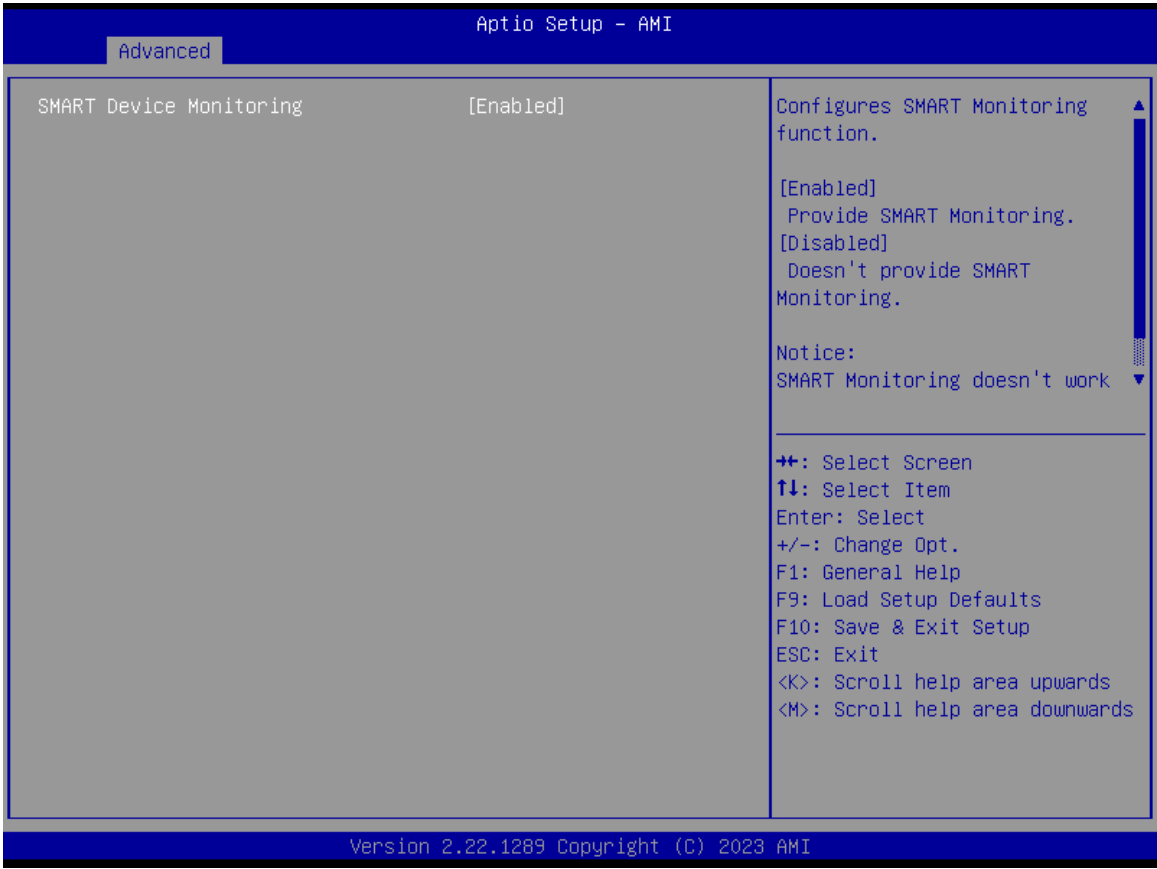
各項目については次の表を参照してください。

項 目	パラメーター	説 明
Serial Port 1 Settings	—	—
Serial Port 1	Disabled [Enabled]	Serial Port 1の有効／無効を設定します。
Serial 1 Base I/O	[3F8h] 2F8h 3E8h 2E8h	Serial Port 1のためのベースI/Oアドレスを設定します。 本項目は「Serial Port 1」が[Enabled]のときに表示されます。
Serial 1 Interrupt	IRQ 3 [IRQ 4]	Serial Port 1のための割り込みを設定します。 本項目は「Serial Port 1」が[Enabled]のときに表示されます。
Serial Port 2 Settings	—	—
Serial Port 2	Disabled [Enabled]	Serial Port 2の有効／無効を設定します。
Serial 2 Base I/O	3F8h [2F8h] 3E8h 2E8h	Serial Port 2のためのベースI/Oアドレスを設定します。 本項目は「Serial Port 2」が[Enabled]のときに表示されます。
Serial 2 Interrupt	[IRQ 3] IRQ 4	Serial Port 2のための割り込みを設定します。 本項目は「Serial Port 2」が[Enabled]のときに表示されます。

[]: 出荷時の設定

(9) SMART Configuration サブメニュー

Advanced メニューで[SMART Configuration]を選択して<Enter>キーを押すと、次の画面が表示されます。



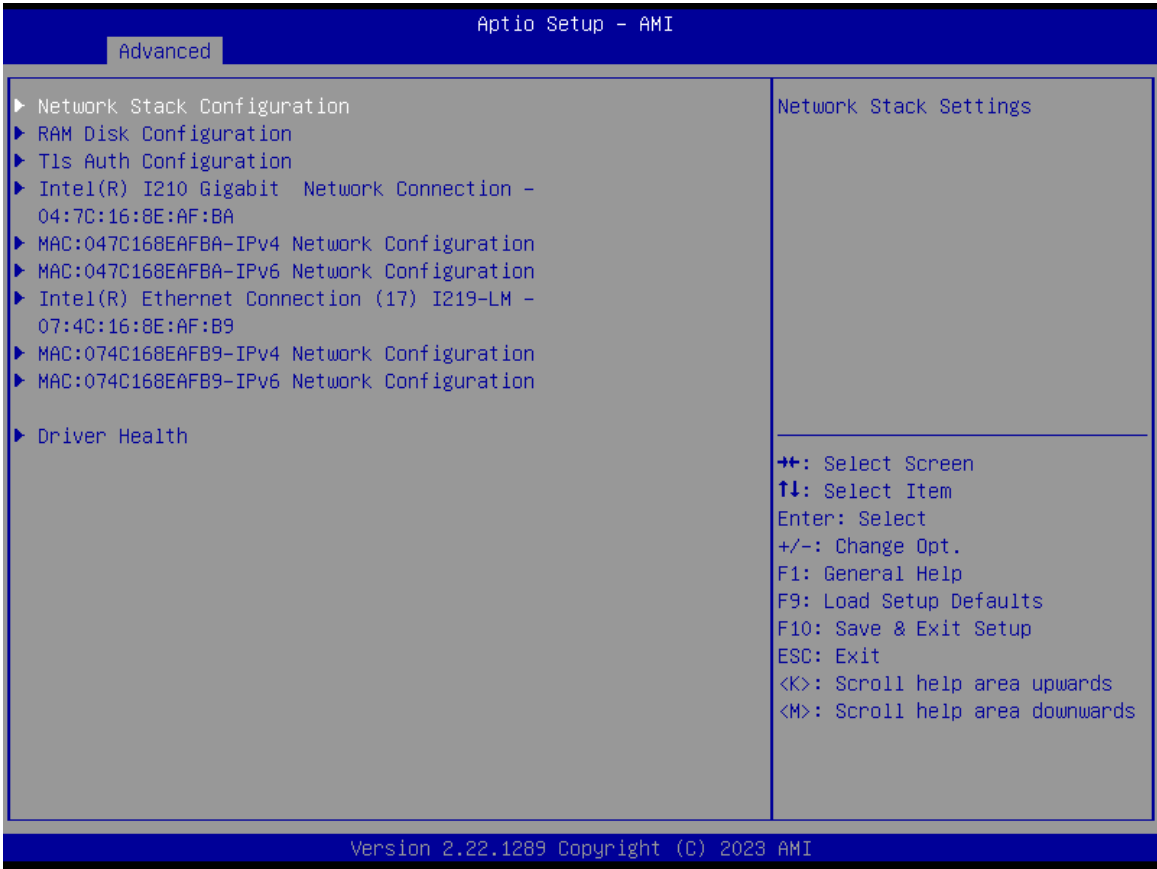
各項目については次の表を参照してください。

項 目	パラメーター	説 明
SMART Device Monitoring	Disabled [Enabled]	SATA/NVMeデバイスに対するSMART監視の有効 / 無効を設定します。 「SATA Mode」が[RAID Mode]のときは、SATA Portデバイスは、監視の対象外となります。

[]: 出荷時の設定

(10) UEFI Driver Configuration サブメニュー

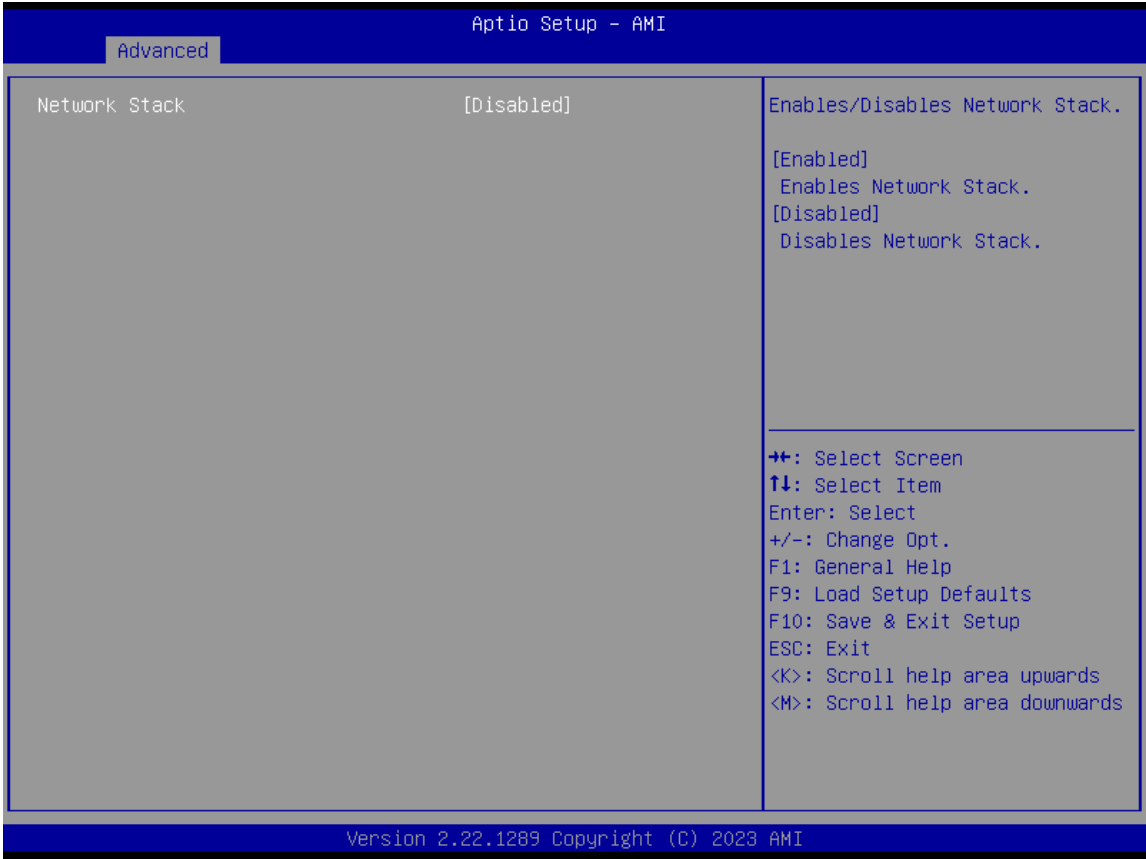
Advanced メニューで[UEFI Driver Configuration]を選択して<Enter>キーを押すと、次の画面が表示されます。



各項目については次の表を参照してください。

項 目	パラメーター	説 明
Network Stack Configuration	—	—
(UEFI Driver Name)	—	本項目は内蔵LANコントローラー、または各PCIデバイスのUEFIドライバーがロードされたときに表示されます。本サブメニューはUEFIドライバーによってメニューが異なります。 詳細は、本書の「2章(2. RAID システムのコンフィグレーション)」を参照してください。
Driver Health	—	—

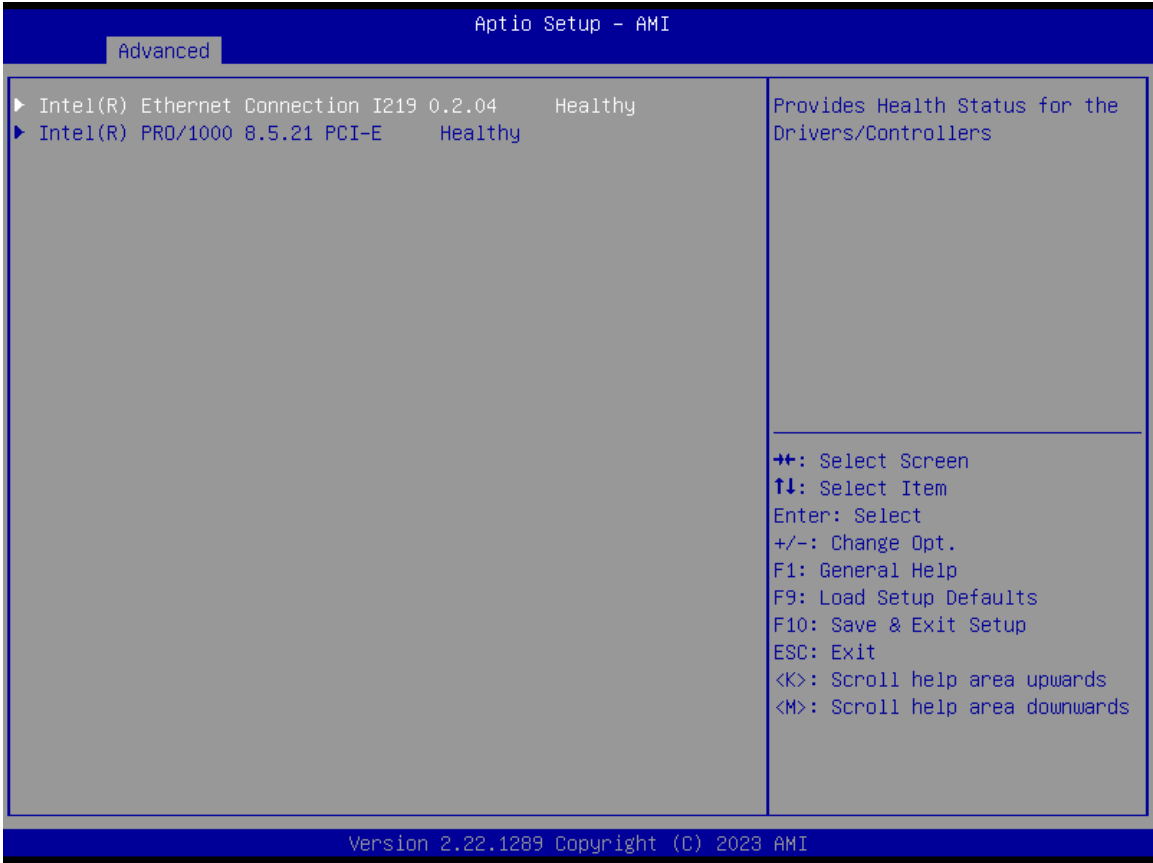
(a) Network Stack Configuration サブメニュー



各項目については次の表を参照してください。

項 目	パラメーター	説 明
Network Stack	[Disabled] Enabled	内蔵のLANコントローラーを用いてのブート機能の有効／無効を設定します。
Ipv4 PXE Support	[Disabled] Enabled	内蔵のLANコントローラーを用いてのブート機能をIpv4で行うときの有効／無効を設定します。 本項目は「Network Stack」を[Enabled]にしたときに表示されます。
Ipv6 PXE Support	[Disabled] Enabled	内蔵のLANコントローラーを用いてのブート機能をIpv6で行うときの有効／無効を設定します。 本項目は「Network Stack」を[Enabled]にしたときに表示されます。

(b) Driver Health サブメニュー



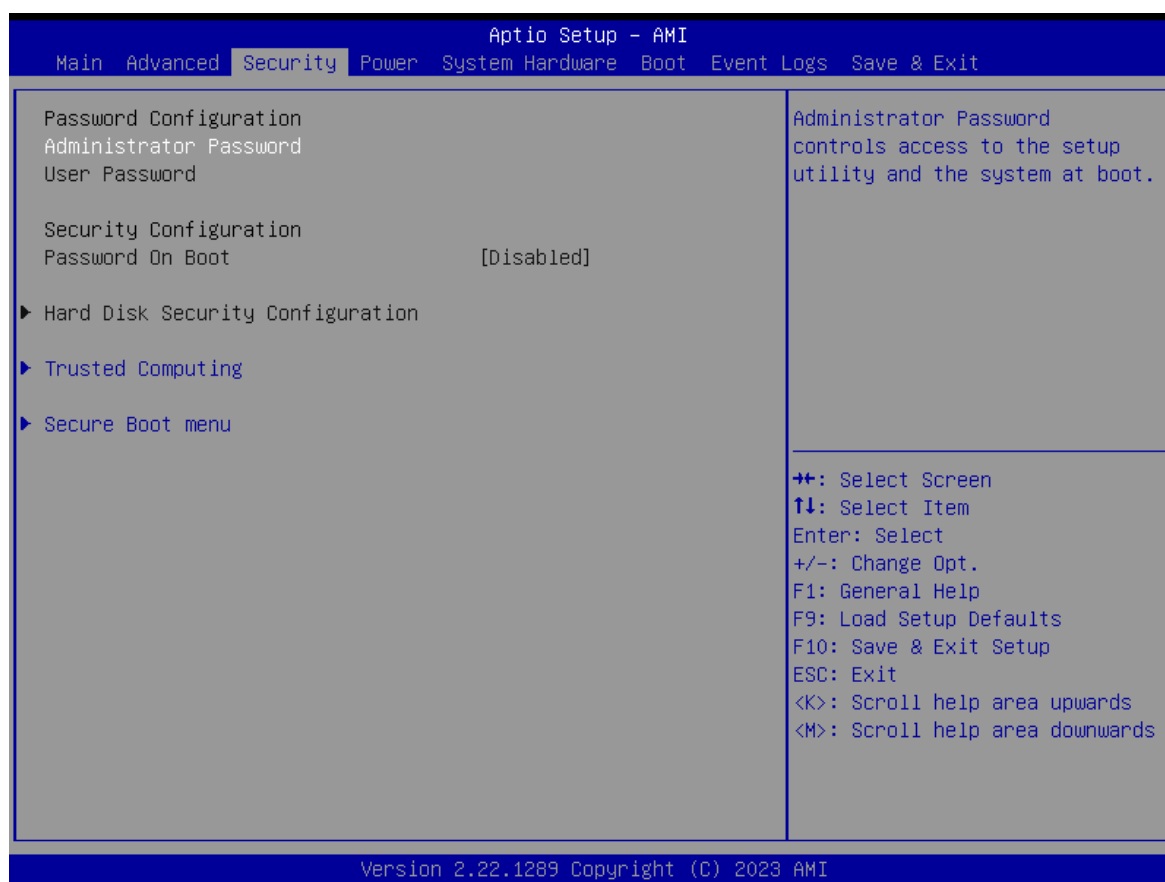
各項目については次の表を参照してください。

項 目	パラメーター	説 明
(UEFI Driver Name)	—	UEFIドライバーの状態を表示します。本項目は内蔵LANコントローラー、または各PCIデバイスのUEFIドライバーがロードされたとき、かつ、UEFIドライバーがDriver Health Protocolに対応するときに表示されます。

1.2.3 Security メニュー

カーソルを[Security]の位置に移動させると、Security メニューが表示されます。

「▶」が付いている項目は、選択後<Enter>キーを押してサブメニューを表示させてから設定します。



「Administrator Password」または「User Password」のどちらかで<Enter>キーを押すと、パスワードの登録/変更画面が表示されます。



- 「User Password」は、「Administrator Password」を設定していないと設定できません。
- OS のインストール前にパスワードを設定しないでください。
- パスワードを忘れてしまった場合は、お買い求めの販売店または保守サービス会社にお問い合わせください。

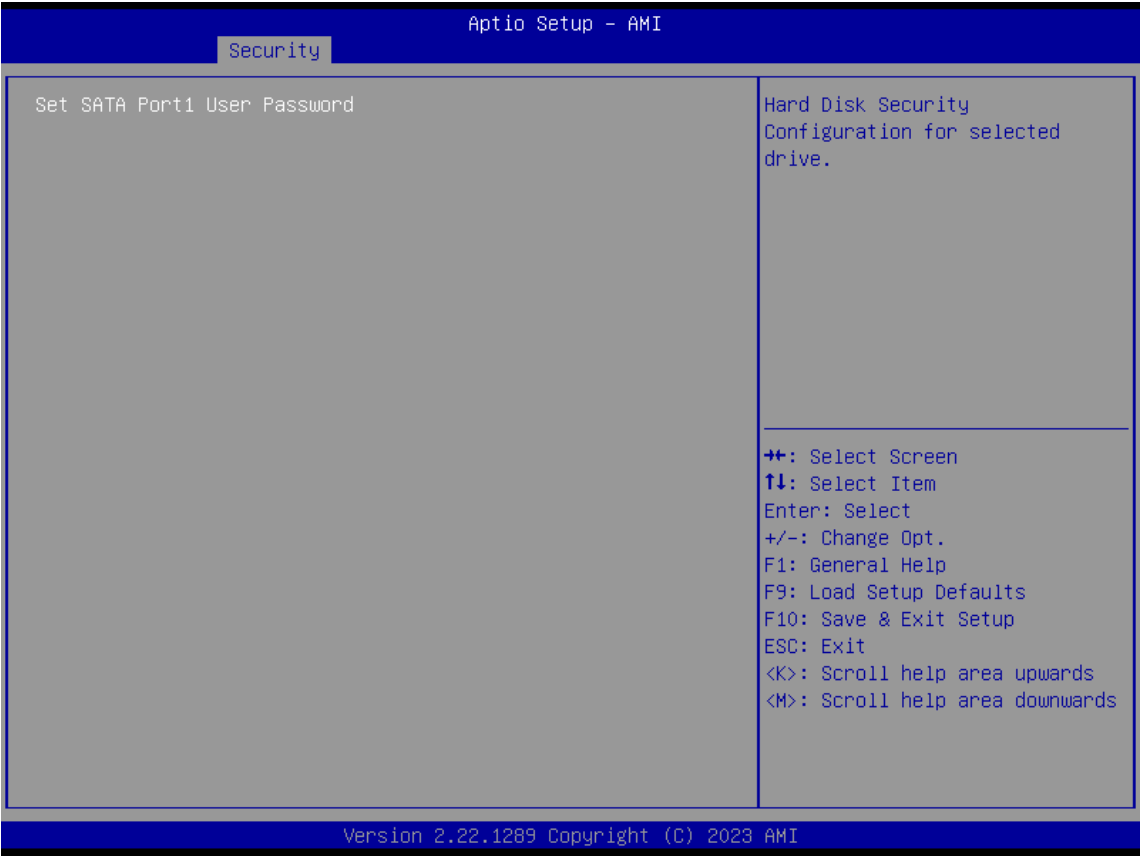
各項目については次の表を参照してください。

項 目	パラメーター	説 明
Password Configuration	—	—
Administrator Password	3文字から20文字までの英数字	<Enter>キーを押すと、管理者権限でアクセスするためのパスワード入力画面が表示されます。 管理者権限ではSETUPの項目をすべて設定できます。 パスワードは管理者権限でSETUPを起動したとき設定できます。 パスワードを設定していないときは管理者権限になります。
User Password	3文字から20文字までの英数字	<Enter>キーを押すと、ユーザー権限でアクセスするためのパスワード入力画面が表示されます。 ユーザー権限ではSETUPの設定範囲に制限があります。パスワードは管理者権限またはユーザー権限でSETUPを起動したとき設定できます。 本項目は「Administrator Password」を設定すると選択できます。
Security Configuration	—	—
Password on Boot	[Disabled] Enabled	パスワードによるブート制限機能の有効／無効を設定します。 本項目は「Administrator Password」を設定し、「USB Support」が[Enabled]のときに選択できます。
Hard Disk Security Configuration	—	本項目は「Administrator Password」を設定すると選択できます。
Trusted Computing	—	—
Secure Boot menu	—	—

[]: 出荷時の設定

(1) Hard Disk Security Configuration サブメニュー

Security メニューで[Hard Disk Security Configuration]を選択して<Enter>キーを押すと、次の画面が表示されます。



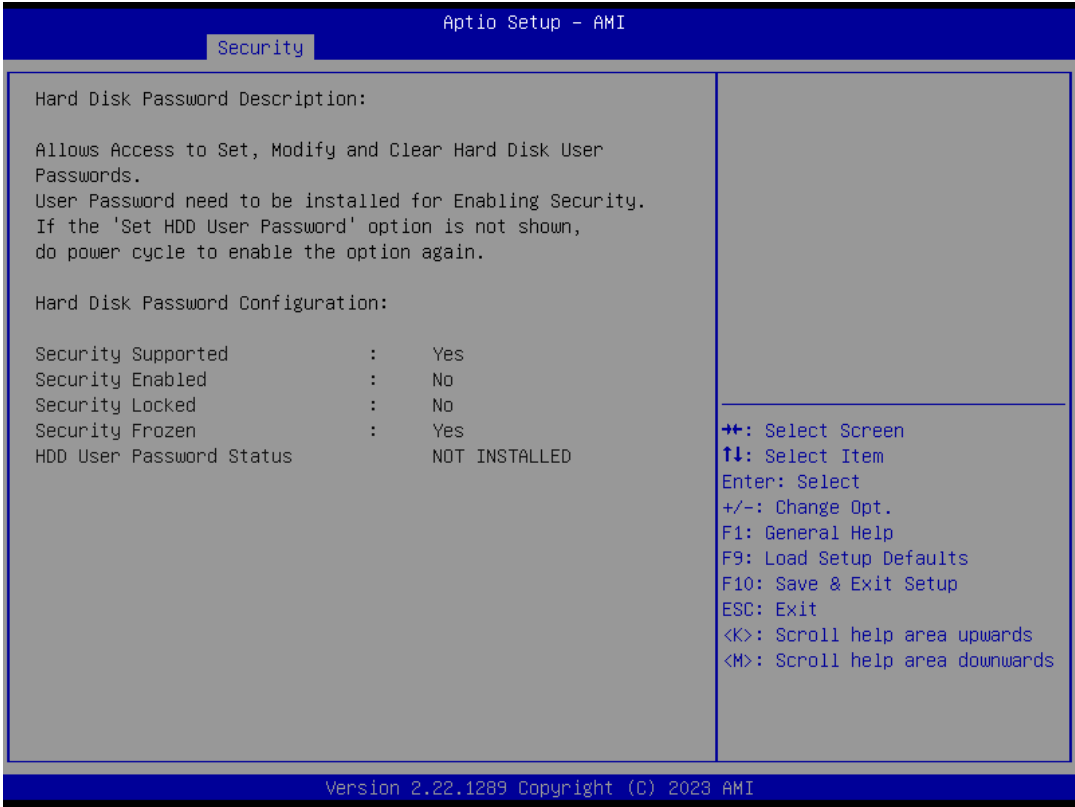
各項目については次の表を参照してください。

項 目	パラメーター	説 明
Set SATA PortX User Password	—	—



NVMe SSD は Hard Disk Security Configuration 機能をサポートしていません。

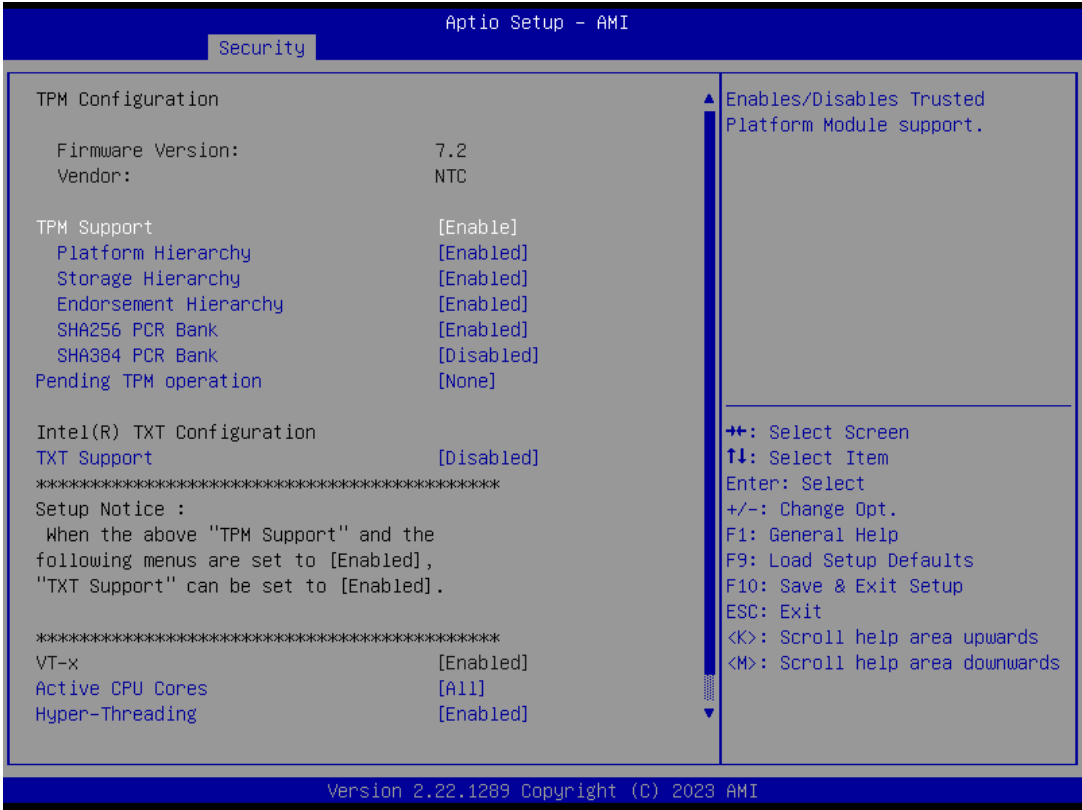
(a) Set SATA PortX User Password サブメニュー



各項目については次の表を参照してください。

項 目	パラメーター	説 明
Hard Disk Password Description:	—	—
Hard Disk Password Configuration:	—	—
Security Supported	Yes No	接続されたハードディスクのセキュリティ機能のサポート状態を示します。
Security Enabled	Yes No	接続されたハードディスクのセキュリティ機能の有効／無効状態を示します。
Security Locked	Yes No	接続されたハードディスクのロック状態を示します。 [Yes]の場合、パスワード不一致によりロックされており使用できません。
Security Frozen	Yes No	接続されたハードディスクのFrozen状態を示します。 [Yes]の場合、パスワードの設定、変更、解除はできません。本製品の電源をOFFし、再度電源をONするとFrozen状態が解除されます。
HDD User Password Status	NOT INSTALLED INSTALLED	接続されたハードディスクのパスワード設定状態を示します。
Set HDD User Password	1文字から32文字までの英数字	<Enter>キーを押すと、接続されたハードディスクに対するパスワード入力画面が表示されます。

(2) Trusted Computing サブメニュー



各項目については次の表を参照してください。

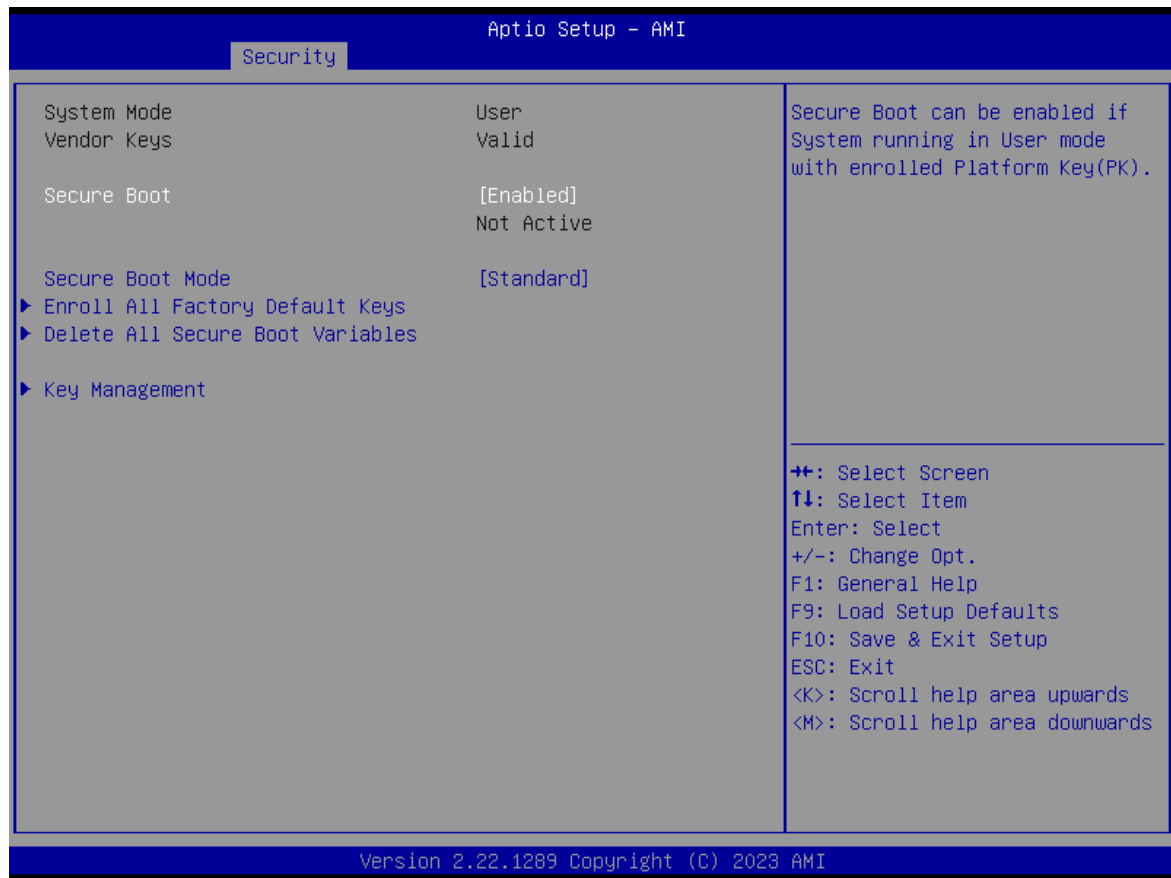
項 目	パラメーター	説 明
TPM Configuration	—	—
Firmware Version	(表示のみ)	Firmware Versionを示します。 本項目は「TPM Support」を[Enabled]に設定、保存した後、再起動すると表示されます。
Vendor	(表示のみ)	Vendorを示します。 本項目は「TPM Support」を[Enabled]に設定、保存した後、再起動すると表示されます。
TPM Support	Disabled [Enabled]	Trusted Platform Moduleの有効／無効を設定します。 本項目は[Enabled]に設定、保存した後、再起動すると有効となります。 本項目は「TXT Support」が[Disabled]のときに選択できます。
TPM State	Disabled [Enabled]	TPM Stateの有効／無効を設定します。 本項目は「TPM Support」が[Enabled]かつ「TXT Support」が[Disabled]のときに選択できます。
Platform Hierarchy	Disabled [Enabled]	Platform Hierarchyの有効／無効を設定します。 本項目は「TPM Support」が[Enabled]のときに表示、「TPM State」が[Enabled]のときに選択できます。
Storage Hierarchy	Disabled [Enabled]	Storage Hierarchyの有効／無効を設定します。 本項目は「TPM Support」が[Enabled]のときに表示、

項 目	パラメーター	説 明
		「TPM State」が[Enabled]のときに選択できます。
Endorsement Hierarchy	Disabled [Enabled]	Endorsement Hierarchyの有効／無効を設定します。 本項目は「TPM Support」が[Enabled]のときに表示、 「TPM State」が[Enabled]のときに選択できます。
SHA256 PCR Bank	Disabled [Enabled]	SHA256 PCR Bankの有効／無効を設定します。 本項目は「TPM Support」が[Enabled]のときに表示、 「TPM State」が[Enabled]のときに選択できます。
SHA384 PCR Bank	[Disabled] Enabled	SHA384 PCR Bankの有効／無効を設定します。 本項目は「TPM Support」が[Enabled]のときに表示、 「TPM State」が[Enabled]のときに選択できます。
Pending TPM operation	[None] TPM Clear	TPMオペレーションを設定します。 本項目は「TPM Support」が[Enabled]のときに表示、 「TPM State」が[Enabled]のときに選択できます。
Intel(R) TXT Configuration	—	—
TXT Support	[Disabled] Enabled	Intel Trusted Execution Technologyの有効／無効を設定します。 本機能をサポートしたプロセッサが搭載されたときのみ表示されます。 本項目は「VT-x」、「VT-d」、「TPM Support」および「TPM State」が[Enabled]のときに選択できます。
VT-x	Disabled [Enabled]	Intel Virtualization Technology(プロセッサの仮想化支援機能)の有効／無効を設定します。 本機能をサポートしたプロセッサが搭載されたときのみ表示されます。 本項目は「X2APIC」、「TXT Support」が[Disabled]のときに[Disabled]を選択できます。
Active CPU Cores	[All] - x	プロセッサ内部で有効なコア数を設定します。搭載するプロセッサによって選択できるコア数が変わります。 本項目は「TXT Support」が[Disabled]のときに選択できます。
Hyper-Threading	Disabled	1つのコアで2つのスレッドを同時に実行する機能の有効／無効を設定します。本機能をサポートしているプロセッサが搭載されたときのみ表示します。 本項目は「TXT Support」が[Disabled]のときに選択できます。
VT-d	Disabled [Enabled]	Intel Virtualization Technology for Directed I/O(I/Oの仮想化支援機能)の有効／無効を設定します。本機能をサポートしたプロセッサが搭載されたときのみ表示されます。 本項目は「X2APIC」、「TXT Support」が[Disabled]のときに[Disabled]を選択できます。

[]: 出荷時の設定

(3) Secure Boot menu サブメニュー

Security メニューで[Secure Boot menu]を選択して<Enter>キーを押すと、次の画面が表示されます。

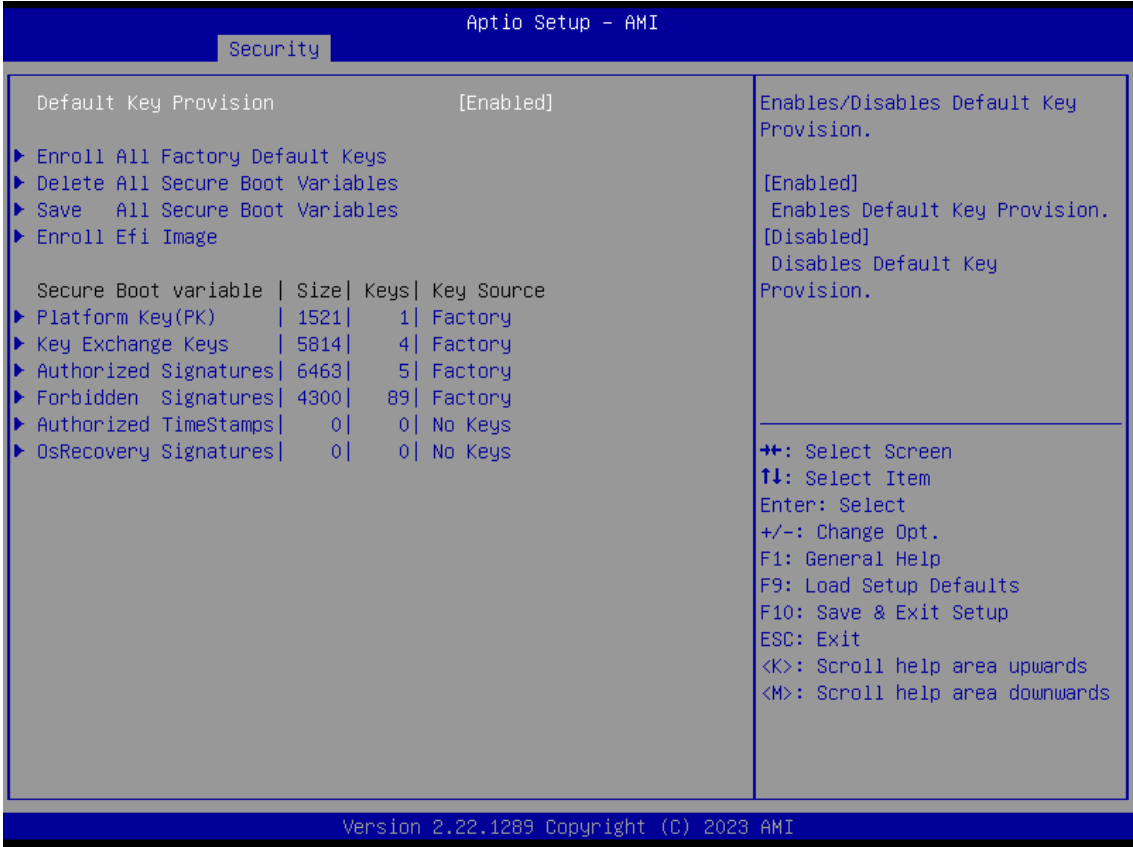


各項目については次の表を参照してください。

項 目	パラメーター	説 明
System Mode	(表示のみ)	Platform Key(PK)の登録状態を示します。 [Setup]のときは未登録で、[User]のときは登録されています。
Vendor Keys	(表示のみ)	デフォルトのキーが登録されたとき[Active]になります。
Secure Boot	Disabled [Enabled]	Secure Boot機能の有効／無効を設定します。
	(表示のみ)	Secure Boot機能の有効な状態で、SETUPを起動したとき[Active]になります。
Secure Boot Mode	[Standard] Custom	本項目は「Administrator Password」を設定すると選択できます。
Enroll All Factory Default Keys	—	「System Mode」を[User]にします。デフォルトのキーと署名データベース(PK、KEK、DB、DBX、DBT)を登録します。 本項目は「Secure Boot Mode」を[Custom]に設定したときのみ実行できます。
Delete All Secure Boot Variables	—	「System Mode」を[Setup]にします。その場合、「Secure Boot」は無効にします。すべてのキーと署名データベース(PK、KEK、DB、DBX、DBT)が削除されます。 本項目は「Secure Boot Mode」を[Custom]に設定したときのみ実行できます。
Key Management	—	本項目は「Administrator Password」を設定し、「Secure Boot Mode」が[Custom]のときに選択できます。

[]: 出荷時の設定

(a) Key Management サブメニュー



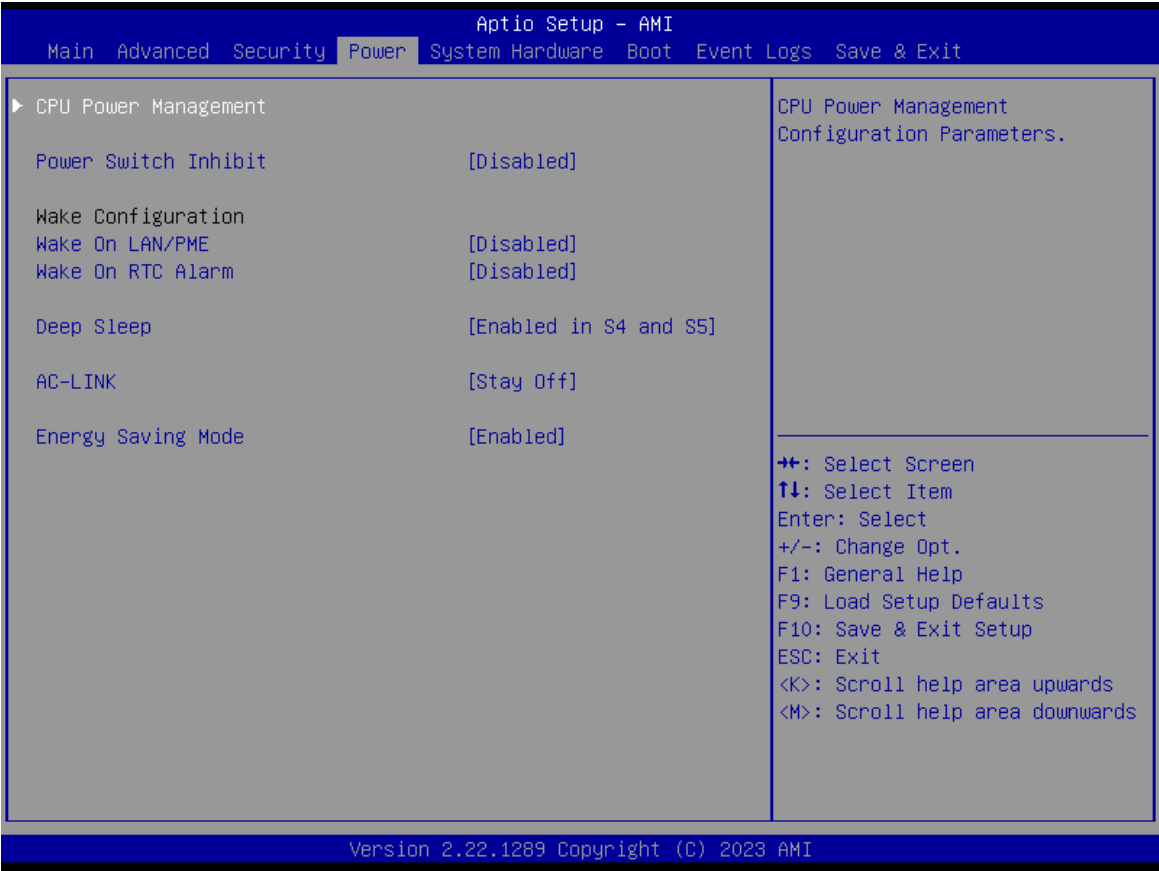
各項目については次の表を参照してください。

項 目	パラメーター	説 明
Default Key Provision	Disabled [Enabled]	デフォルトのキーの有効／無効を設定します。
Enroll All Factory Default Keys	—	「System Mode」を[User]にします。デフォルトのキーと署名データベース(PK、KEK、DB、DBX、DBT)を登録します。
Delete All Secure Boot Variables	—	「System Mode」を[Setup]にします。その場合、「Secure Boot」は無効にします。すべてのキーと署名データベース(PK、KEK、DB、DBX、DBT)が削除されます。
Save All Secure Boot Variables	—	すべてのキーと署名データベース(PK、KEK、DB、DBX、DBT)を外部メディアに保存します。
Enroll Efi Image	—	セキュアブートを許可するEFIイメージを登録します。
Device Guard Ready	—	—
Remove 'UEFI CA' from DB	—	DBから” Microsoft UEFI CA” を削除します。
Restore DB defaults	—	DBを工場出荷値に復元します。
Secure Boot variable Size Key# Key source	(表示のみ)	キーと署名データベース(PK、KEK、DB、DBX、DBT)の状態を表示します。
Platform Key(PK)	—	Platform Key(PK)の状態を表示します。また、PKを登録／削除します。
Key Exchange Keys	—	Key Exchange Keys(KEK)の状態を表示します。また、KEKを登録／削除します。
Authorized Signatures	—	Authorized Signatures(DB)の状態を表示します。また、DBを登録／削除します。
Forbidden Signatures	—	Forbidden Signatures(DBX)の状態を表示します。また、DBXを登録／削除します。
Authorized Timestamps	—	Authorized Timestamps(DBT)の状態を表示します。また、DBTを登録／削除します。
OsRecovery Signatures	—	OsRecovery Signatureの状態を表示します。また、OsRecovery Signatureを登録／削除します。

[]: 出荷時の設定

1.2.4 Power メニュー

カーソルを[Power]の位置に移動させると、Power メニューが表示されます。
「▶」が付いている項目は、選択して<Enter>キーを押すとサブメニューが表示されます。



各項目については次の表を参照してください。

項 目	パラメーター	説 明
CPU Power Management	—	—
Power Switch Inhibit	[Disabled] Enabled	POWERスイッチの抑止機能の有効／無効を設定します。
Wake Configuration	—	—
Wake On LAN/PME	Disabled [Enabled]	ネットワーク経由のリモートパワーオン機能の有効／無効を設定します。
Wake On RTC Alarm	[Disabled] Enabled	リアルタイムクロックのアラーム機能を使ったリモートパワーオン機能の有効／無効を設定します。
RTC Alarm [Day]	[0] ～ 31	リアルタイムクロックのアラーム機能を使ったリモートパワーオン機能の時刻の設定をします。 本項目は「Wake On RTC Alarm」が[Enabled]のときに表示されます。
RTC Alarm [Hour]	[0] ～ 23	
RTC Alarm [Minute]	[0] ～ 59	
RTC Alarm [Second]	[0] ～ 59	
Deep Sleep	Disabled [Enabled in S4-S5]	Deep Sleep機能の有効／無効を設定します。 [Enabled]に設定したときは、電源スイッチでのみ電源を入れることができます。 本項目は「Wake On Ring」が[Disabled]のときに選択できます。 本項目は「Energy Saving Mode」が[Enabled]のときは[Enabled in S4-S5]の設定となり、選択不可となります。
AC-LINK	Stay Off [Last State] Power On	ACリンク機能を設定します。AC電源がOFFになり、再度供給されたときの電源の状態を設定します(別表参照)。 UPS制御のときは、[Power On]に設定してください。
Energy Saving Mode	Disabled [Enabeld]	省電力モードの有効／無効を設定します。

[]: 出荷時の設定



Power Switch Inhibit による POWER スwitchの抑止機能で、POWER スwitchを数秒間押し続けた場合の強制電源 OFF は抑止されません。

「AC-LINK」の設定と、AC 電源が OFF になってから再度電源が供給されたときの動作は、次のとおりです。

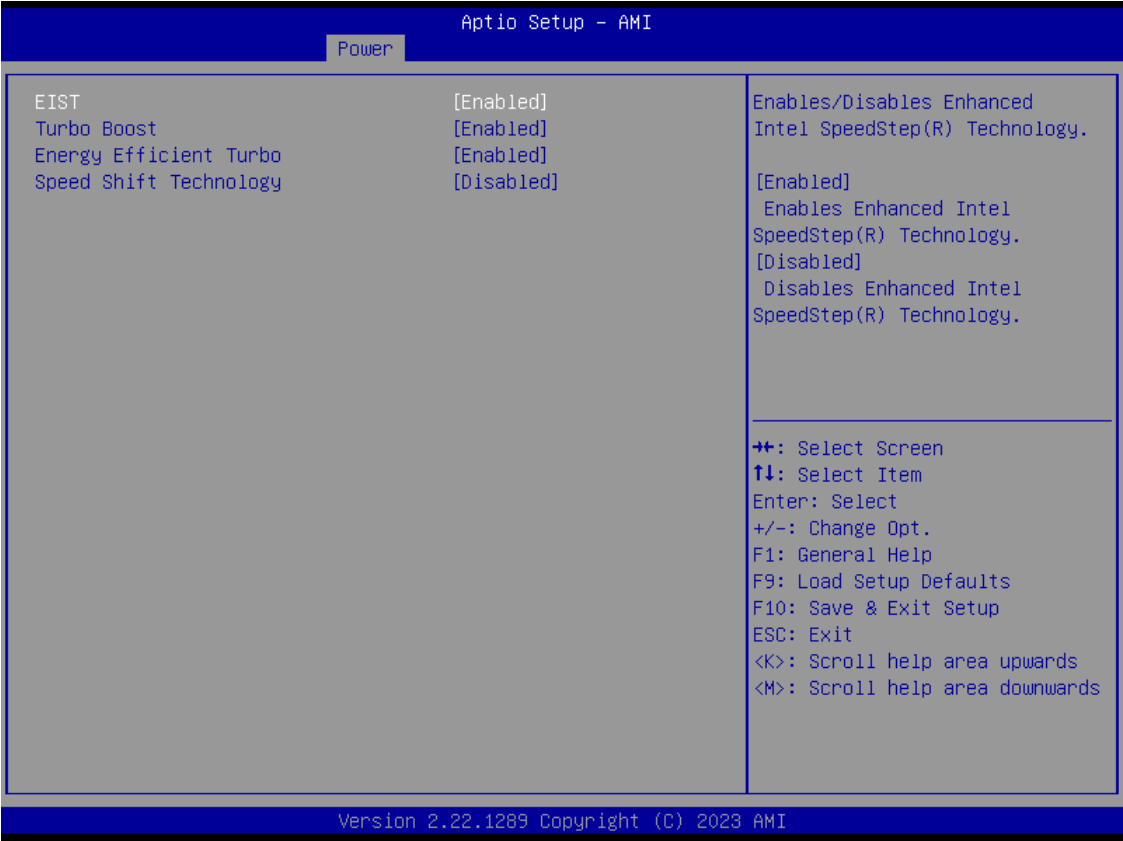
パラメーター	Shut Down(DC-Off)後のAC-OFF	突然のAC-OFF
Stay Off	DC-OFF(待機)	DC-OFF(待機)
Last State	DC-OFF(待機)	DC-Onして起動
Power On	DC-Onして起動	DC-Onして起動



- AC リンクを正しく動作させるためには、SETUP で設定後、POST の実行を完了させてください。
- POST または OS が動作しているときに強制電源 OFF した後は、いったん OS を起動し、OS のシャットダウン機能にて本製品の電源を OFF にしてください。

(1) CPU Power Management サブメニュー

Power メニューで[CPU Power Management]を選択して<Enter>キーを押すと、次の画面が表示されます。



項目については次の表を参照してください。

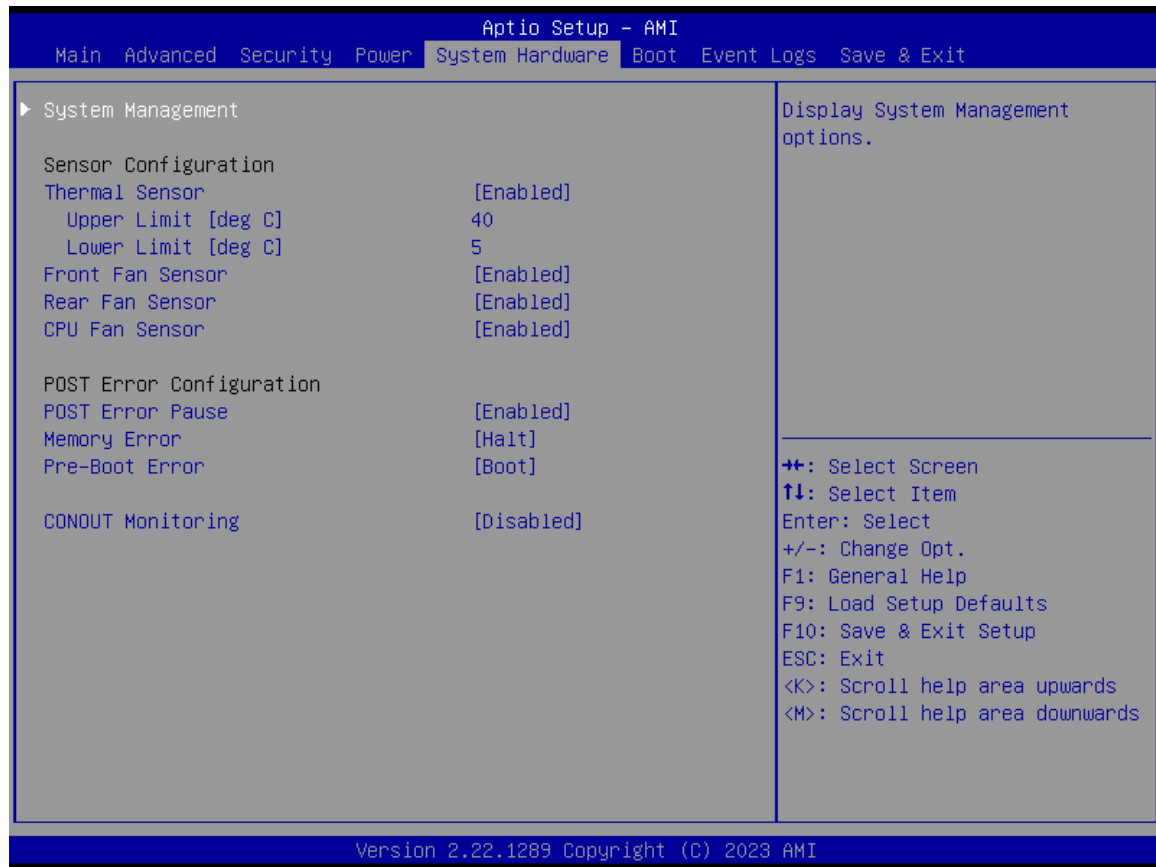
項 目	パラメーター	説 明
EIST	Disabled [Enabled]	Enhanced Intel SpeedStep(R) Technology機能の有効／無効を設定します。 搭載したプロセッサが機能をサポートしない場合は非表示となります。
Turbo Boost	Disabled [Enabled]	Intel® Turbo Boost Technologyの有効 / 無効を設定します。 Intel® Turbo Boost Technologyの有効時は、CPU過負荷時に定格周波数を超えて動作します。 搭載したプロセッサが機能をサポートしない場合は非表示となります。 本項目は「EIST」を[Enabled]に設定したときのみ表示および選択できます。
Energy Efficient Turbo	Disabled [Enabled]	省エネルギーターボ機能の有効／無効を設定します。 搭載したプロセッサが機能をサポートしない場合は非表示となります。 本項目は「EIST」、「Turbo Boost」を[Enabled]に設定したときのみ表示および選択できます。
Speed Shift Technology	[Disabled] Enabled	CPU周波数変動の制御方式を切り替えることができます。 本項目は「EIST」を[Enabled]に設定したときのみ表示および選択できます。

[]: 出荷時の設定

1.2.5 System Hardware メニュー

カーソルを[System Hardware]の位置に移動させると、System Hardware メニューが表示されます。

「▶」が付いている項目は、選択して<Enter>キーを押すとサブメニューが表示されます。



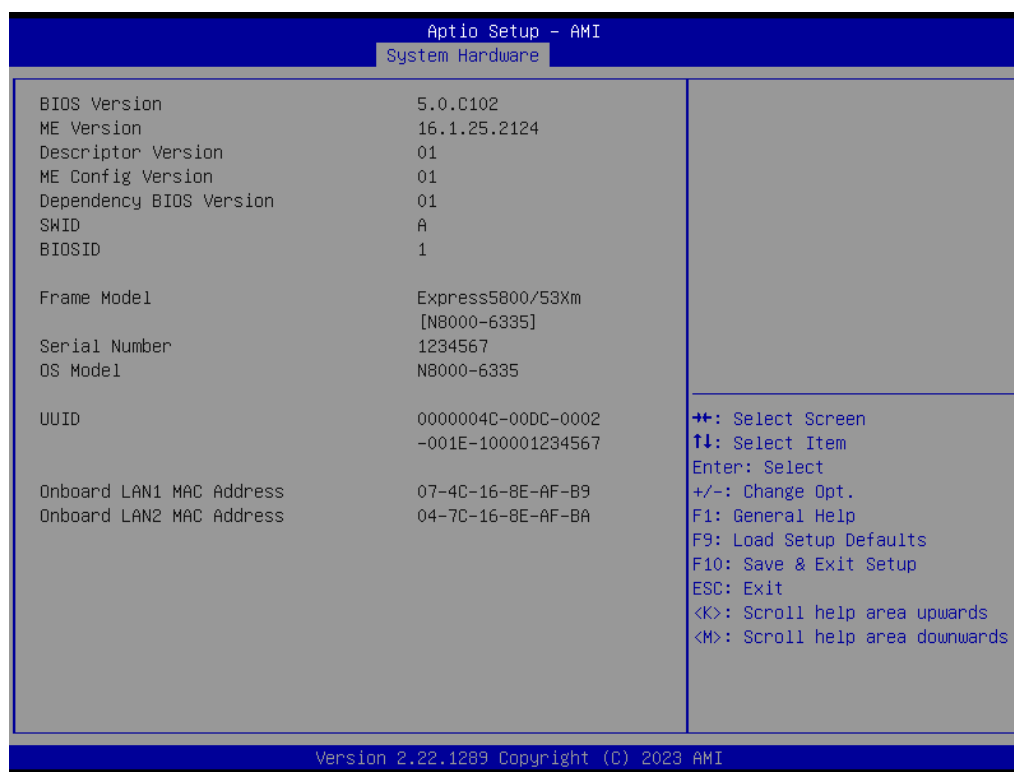
各項目については次の表を参照してください。

項 目	パラメーター	説 明
System Management	—	—
Sensor Configuration	—	—
Thermal Sensor	Disabled [Enabled]	温度センサー監視機能の有効／無効を設定します。 [Enabled]にすると、温度の異常が検出されたとき、OSを起動する前にPOSTを停止して温度が正常に戻るのを待ちます。
Upper Limit [deg C]	30 ~ [40] ~ 60	正常温度(外気温度)の上限値を設定します(単位は「℃」)。本項目は「Thermal Sensor」を[Enabled]に設定したときのみ表示および選択できます。
Lower Limit [deg C]	[0] ~ 10	正常温度(外気温度)の下限値を設定します(単位は「℃」)。本項目は「Thermal Sensor」を[Enabled]に設定したときのみ表示および選択できます。
Front Fan Sensor	Disabled [Enabled]	POST時のフロントファン監視の有効 / 無効を設定します。
Rear Fan Sensor	Disabled [Enabled]	POST時のリアファン監視の有効 / 無効を設定します。
CPU Fan Sensor	Disabled [Enabled]	POST時のCPUファン監視の有効 / 無効を設定します。
POST Error Configuration	—	—
Post Error Pause	Disabled [Enabled]	POST中にエラーを検出したとき、ユーザー入力があるまでOSの起動を抑止する機能の有効／無効を設定します。 [Disabled]に設定すると、POSTエラーを検出しても、ユーザーの指示を待つことなくOS起動を試みます。
Memory Error	[Boot] Halt	POST中にメモリリソースの縮退エラーを検出したとき、ユーザー入力があるまでOSの起動を抑止する機能の有効／無効を設定します。「POST Error Pause」が[Enabled]に設定されているとき、本機能は有効になります。 [Boot]に設定していても、すべてのメモリリソースで縮退しているときはPOSTを停止してOS起動を抑止します。
Pre-Boot Error	[Boot] Halt	前回起動時のPOSTエラーによる停止の有効／無効を設定します。
CONOUT Monitoring	[Disabled] Enabled	標準出力監視機能の有効／無効を設定します。 [Disabled]に設定すると、ディスプレイ未接続時にビーブ音はありません。

[]: 出荷時の設定

(1) System Management サブメニュー

System Hardware メニューで[System Management]を選択して<Enter>キーを押すと、次の画面が表示されます。

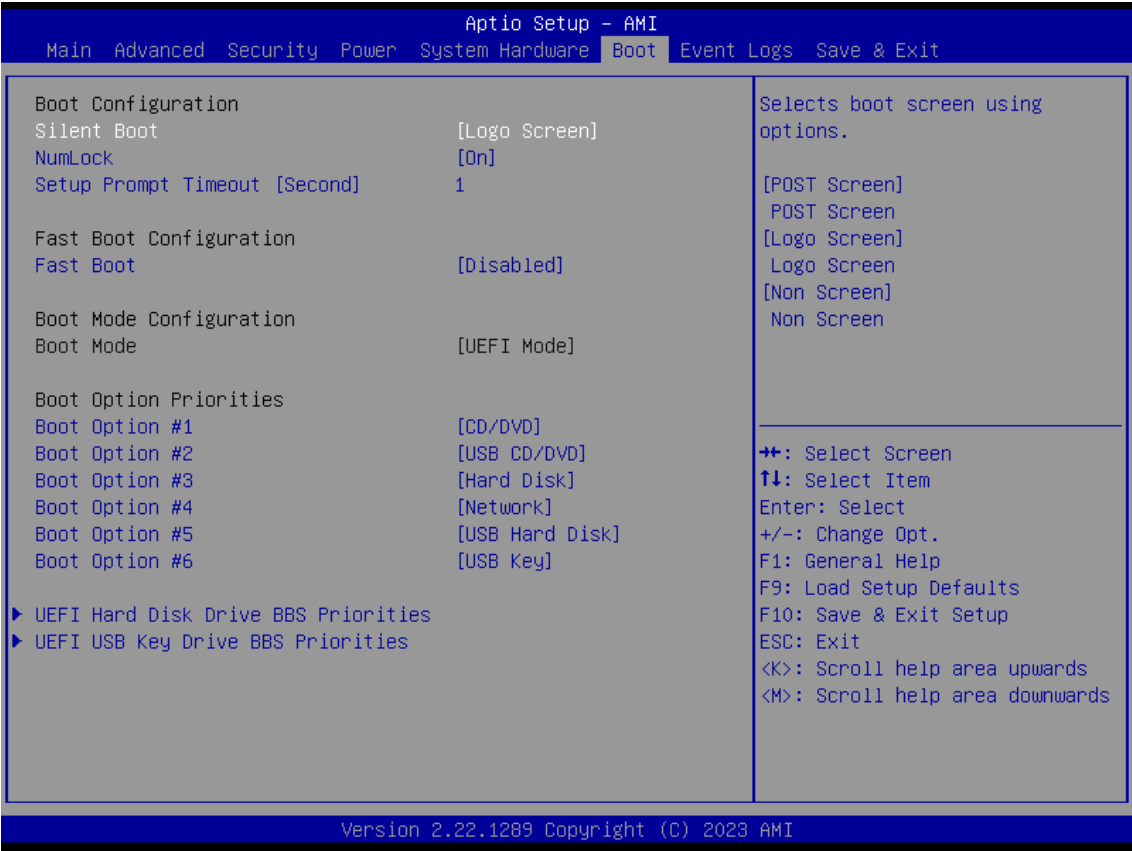


各項目については次の表を参照してください(表示のみ)。

項 目	パラメーター	説 明
BIOS Version	(表示のみ)	BIOSのバージョンです。
ME Version	(表示のみ)	Intel Management Engineのファームウェアバージョンです。
Descriptor Version	(表示のみ)	ディスクリプタのバージョンです。
ME Config Version	(表示のみ)	Intel Management Engineのコンフィグレーションバージョンです。
Dependency BIOS Version	(表示のみ)	Intel Management Engineと依存関係にあるBIOSのバージョンです。
SWID	(表示のみ)	装置識別用のIDを表示します。
Frame Model	(表示のみ)	フレームモデルを表示します。
Serial Number	(表示のみ)	製造番号を表示します。
OS Model	(表示のみ)	OSモデルを表示します。
UUID	(表示のみ)	UUIDを表示します。
Onboard LAN1 MAC Address	(表示のみ)	内蔵のLANコントローラー1のMACアドレスです。
Onboard LAN2 MAC Address	(表示のみ)	内蔵のLANコントローラー2のMACアドレスです。

1.2.6 Boot メニュー

カーソルを「Boot」の位置に移動させると、起動順位を設定する Boot メニューが表示されます。
「▶」が付いている項目は、選択して<Enter>キーを押すとサブメニューが表示されます。



各項目については次の表を参照してください。

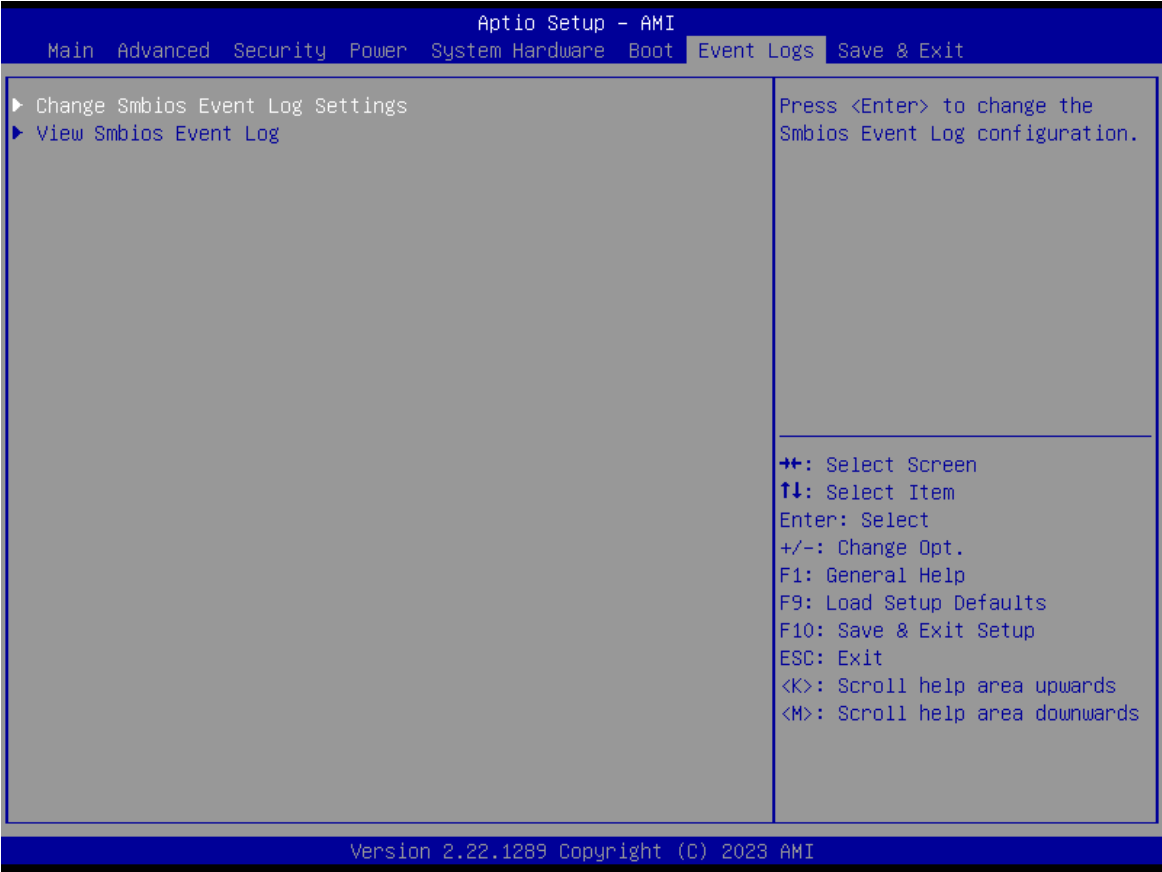
項 目	パラメーター	説 明
Boot Configuration	—	—
Silent Boot	POST screen [Logo screen] Non screen	ブート時の画面を選択します。 [POST screen]に設定すると、「NEC」のロゴを表示せずに自己診断画面を表示します。 [Logo screen]に設定すると、「NEC」ロゴが表示されます。 [Non screen]に設定すると、何も表示しません。
Numlock	[On] Off	キーボードのNumlockの有効／無効を設定します。
Setup Prompt Timeout	[1] ~ 30	SETUPを起動するための<F2>キーの入力待ち時間を設定します。
Fast Boot Configuration	—	—
Fast Boot	[Disabled] Enabled	Fast Boot機能の有効／無効を設定します。
Boot Mode Configuration	—	—
Boot Mode	(表示のみ)	ブートモードを表示します。
Boot Option Priorities	—	—
Boot Option #1~6	—	起動デバイスの優先順位が表示されます。 すべてのBoot Optionを[Disabled]に設定すると、POST終了後にSETUPが起動されます。
XXXX Drive BBS Priorities	—	各BBS(BIOS Boot Specification)での起動優先順位を設定します。

[]: 出荷時の設定

1. BIOS は起動可能なデバイスを検出すると、該当する表示項目にそのデバイスの情報を表示します。
2. <↑>キー／<↓>キーで変更したいデバイスへカーソルを移動させ、<+>キー／<->キーで優先順位 (1 位から 7 位)を変更できます。

1.2.7 Event Logs メニュー

カーソルを[Event Logs]の位置に移動させると、Event Logs メニューが表示されます。
「▶」が付いている項目は、選択して<Enter>キーを押すとサブメニューが表示されます。



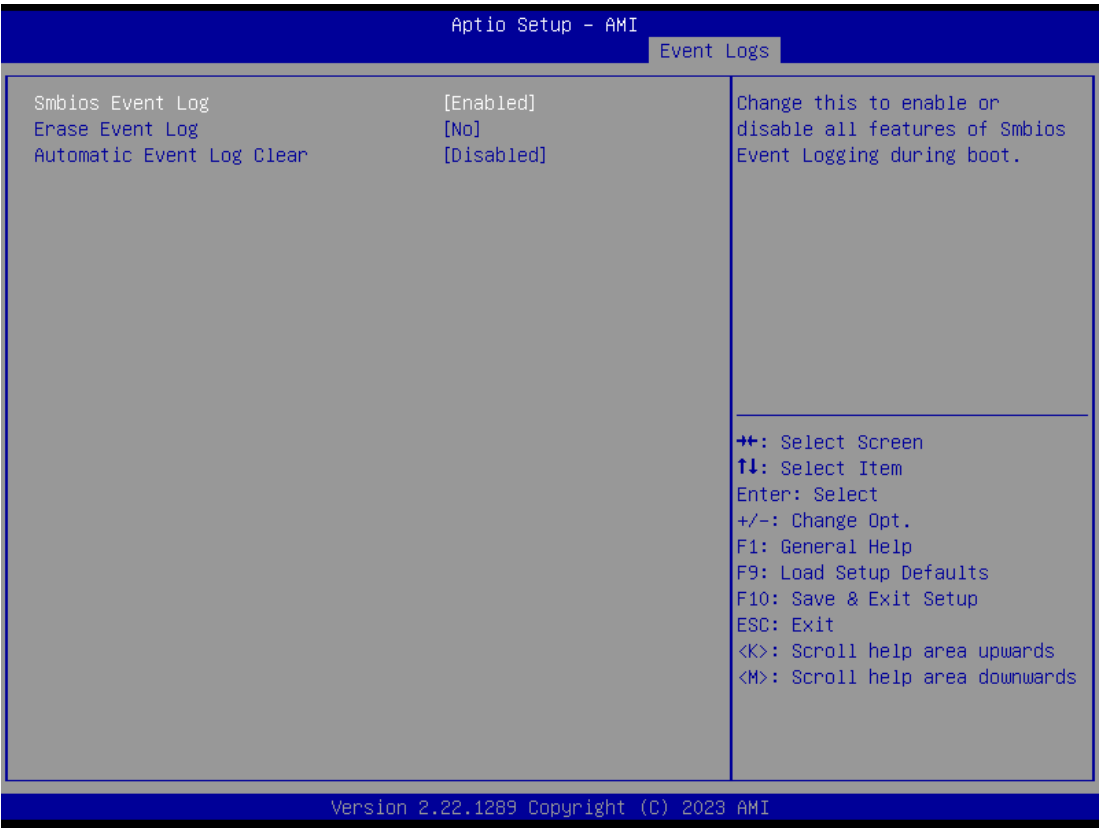
各項目については次の表を参照してください。

項 目	パラメーター	説 明
Change Smbios Event Log Settings	—	—
View Smbios Event Log	—	—

[]: 出荷時の設定

(1) Change Smbios Event Log Settings サブメニュー

Event Logs メニューで[Change Smbios Event Log Settings]を選択して<Enter>キーを押すと、次の画面が表示されます。

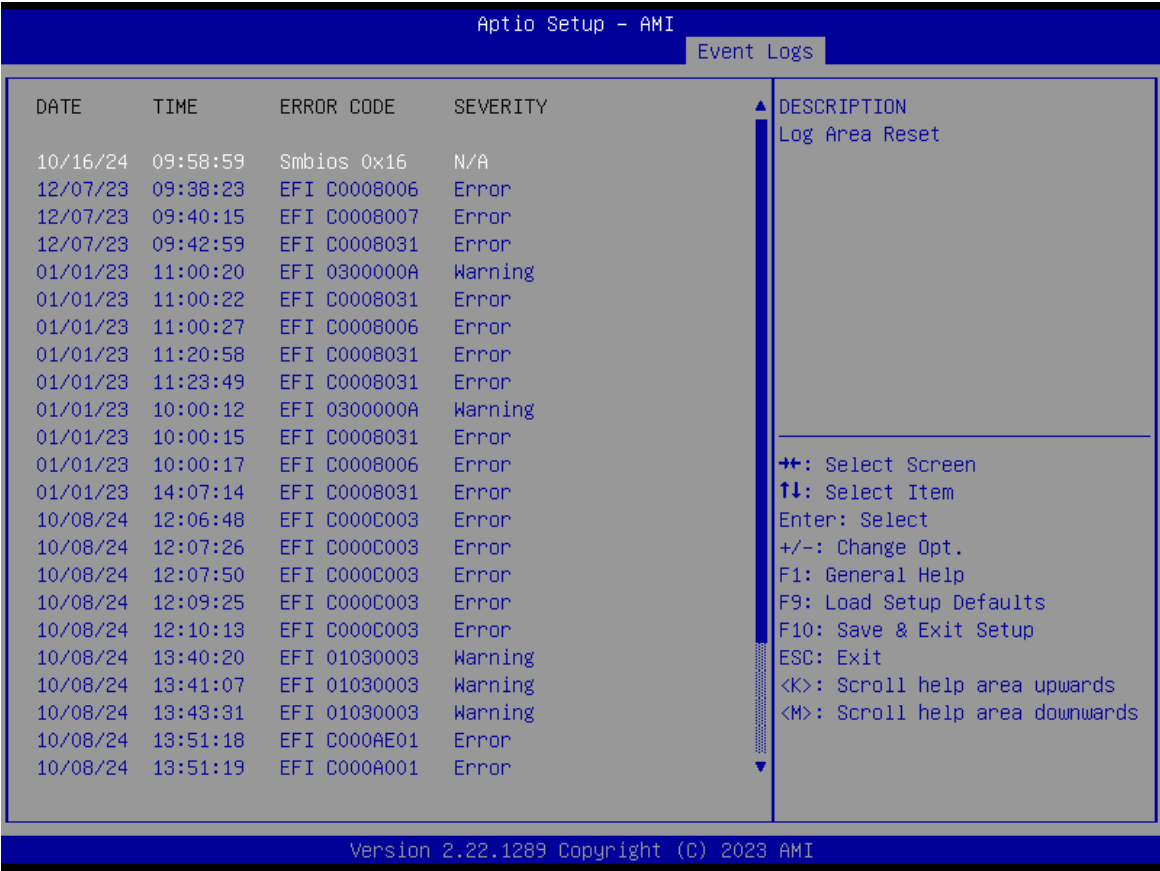


項目については次の表を参照してください。

項 目	パラメーター	説 明
Smbios Event Log	Disabled [Enabled]	Smbios Event log 記録の有効／無効を設定します。
Erase Event Log	[No] Yes, Next reset	イベントログ消去の実行を設定します。 「Yes, Next reset」に設定すると、再起動後に一度だけすべてのイベントログをクリアします。
Automatic Event Log Clear	[Disabled] Enabled	イベントログ自動クリアの有効／無効を設定します。

(2) View Smbios Event Log サブメニュー

Event Logs メニューで[View Smbios Event Log]を選択して<Enter>キーを押すと、次の画面が表示されます。

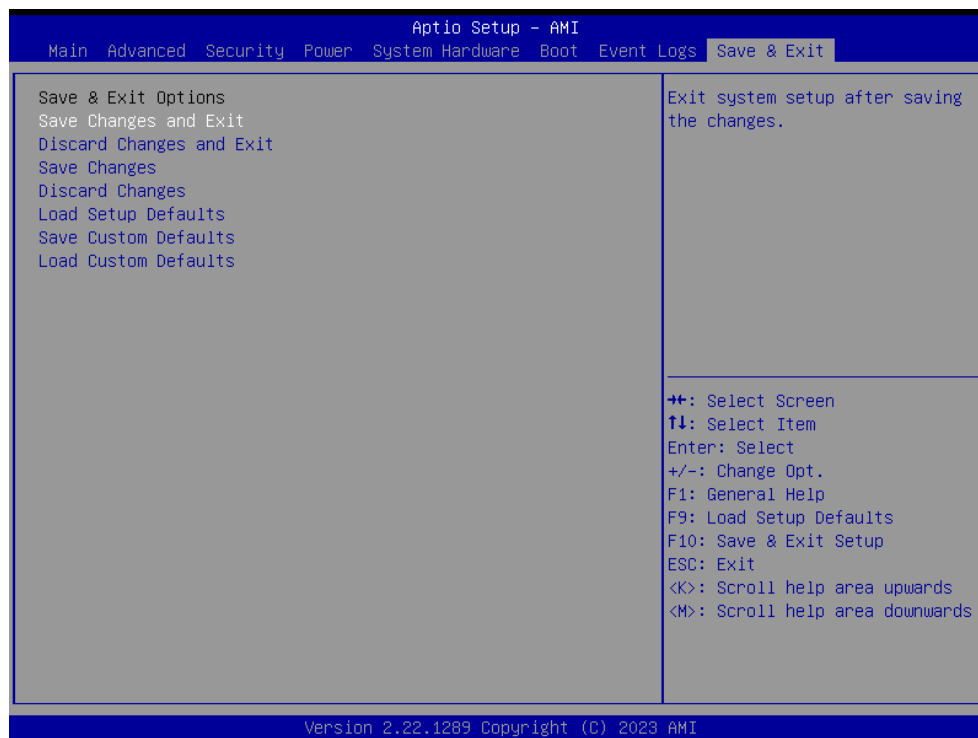


項目については次の表を参照してください (表示のみ)。

項 目	パラメーター	説 明
View Smbios Event Log	(表示のみ)	Smbios Event Log を表示します。

1.2.8 Save & Exit メニュー

カーソルを[Save & Exit]の位置に移動させると、Save & Exit メニューが表示されます。



各項目の機能は次のとおりです。

- **Save Changes and Exit**

設定した内容を保存して SETUP を終了します。

終了後、本製品は自動的に再起動します。

- **Discard Changes and Exit**

設定した内容を保存せずに SETUP を終了します。SETUP 起動時の設定が引き継がれます。終了後、本製品は自動的に再起動します。

- **Save Changes**

設定した内容を保存します。

- **Discard Changes**

設定した内容を破棄して、SETUP 起動時の設定に戻します。

- **Load Setup Defaults**

すべての値をデフォルト値に戻します。

- **Save Custom Defaults**

設定した内容を「カスタムデフォルト」として保存します。

- **Load Custom Defaults**

[Save Custom Defaults]で保存したカスタムデフォルトを再設定します。

2. RAID システムのコンフィグレーション

ここでは、Intel® Rapid Storage Technology について説明します。このユーティリティーの操作は OS から独立しています。



本章で使用される画面イメージは一例であり、ご使用される装置と同一でない場合があります。
ユーザーズガイドの「2 章(1.5 オンボードの RAID コントローラー)」に記載している(2)マザーボードのジャンパー設定を参照し、ジャンパ設定がされていることを確認してください。

2.1 Intel® Rapid Storage Technology の起動

Intel® Rapid Storage Technology は、BIOS セットアップユーティリティー (SETUP)を使って起動します。

2.1.1 SETUP の起動

本機の電源を ON にして、POST を進めます。

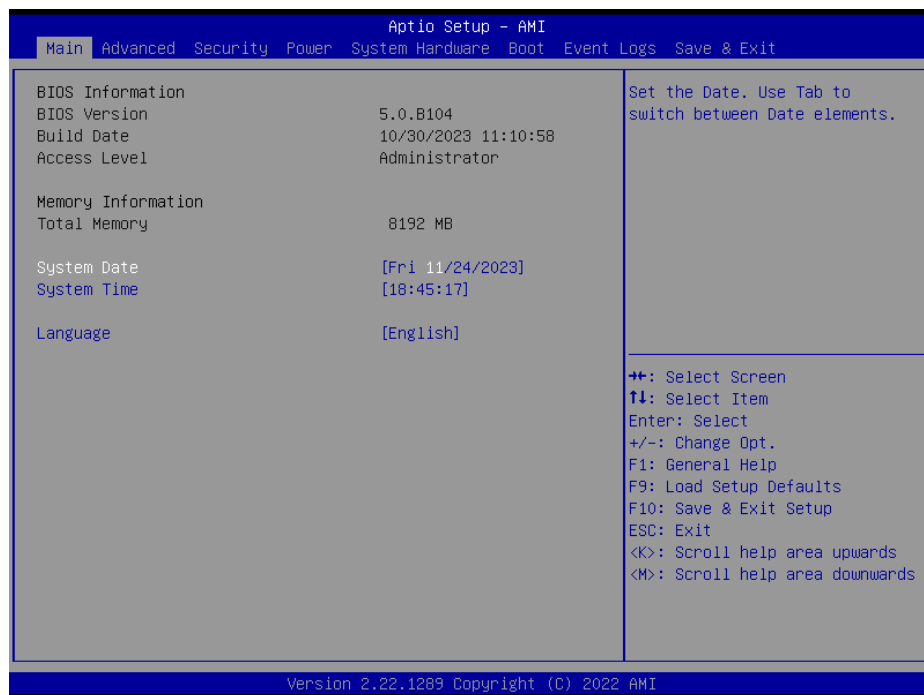
しばらくすると、次のメッセージが画面左下に表示されます。

Press <F2> SETUP, <F7> BOOT Menu

ここで<F2>キーを押すと、POST 終了後に SETUP が起動して Main メニューが表示されます(オプション ROM の展開中に<F2>キーを押しても SETUP が起動します)。



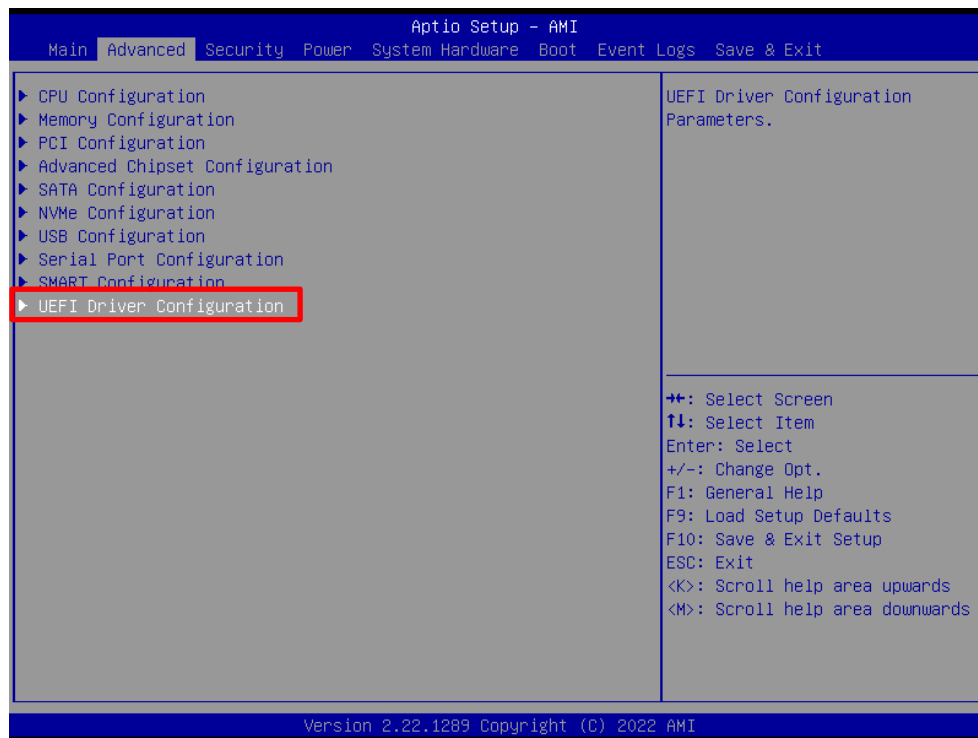
キー操作が間に合わず、次の画面が表示されなかったときは、再起動して<F2>キーを押してください。



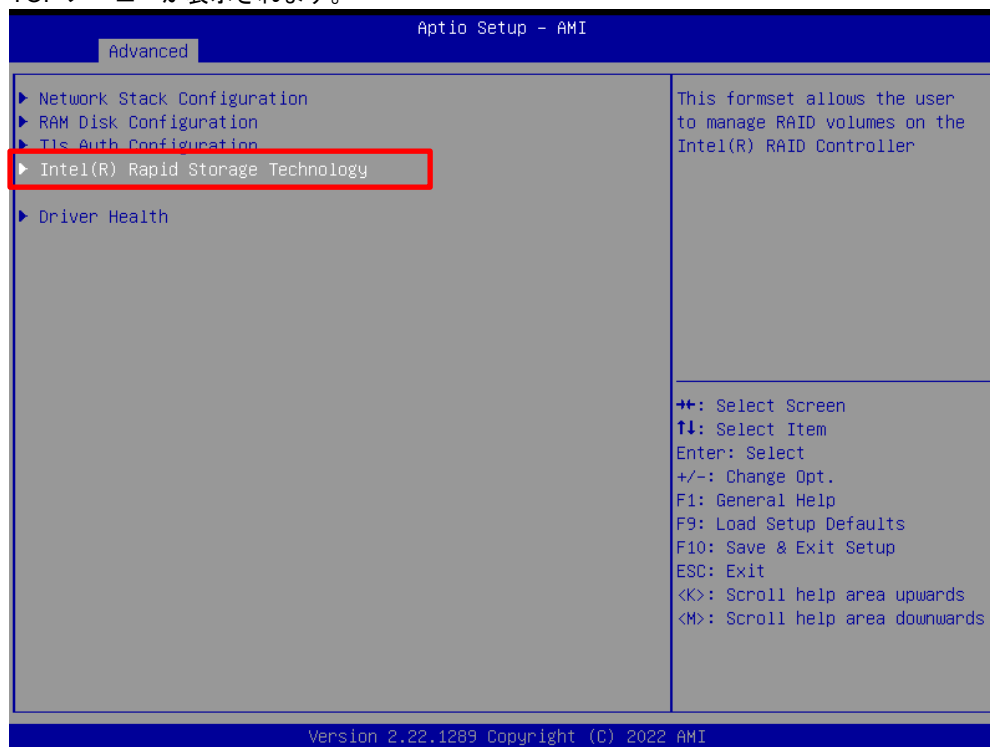
2.1.2 Advanced メニュー

カーソルを「Advanced」の位置に移動させると、Advanced メニューが表示されます。

「UEFI Driver Configuration」を選択して<Enter>キーを押すとサブメニューが表示されます。



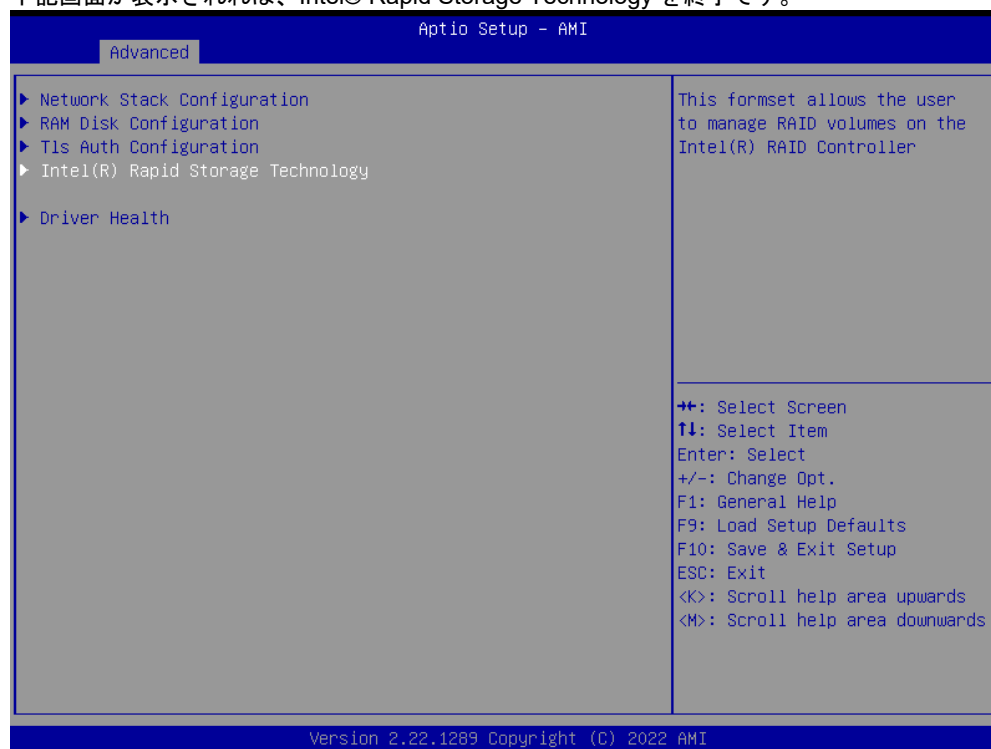
「Intel (R) Rapid Storage Technology」を選択して<Enter>キーを押すと Intel® Rapid Storage Technology の TOP メニューが表示されます。



2.1.3 Intel® Rapid Storage Technology の終了

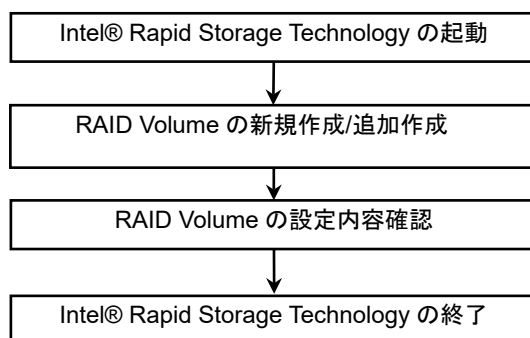
Intel® Rapid Storage Technology を終了するときは、TOP メニューで<Esc>キーを押します。

下記画面が表示されれば、Intel® Rapid Storage Technology を終了です。

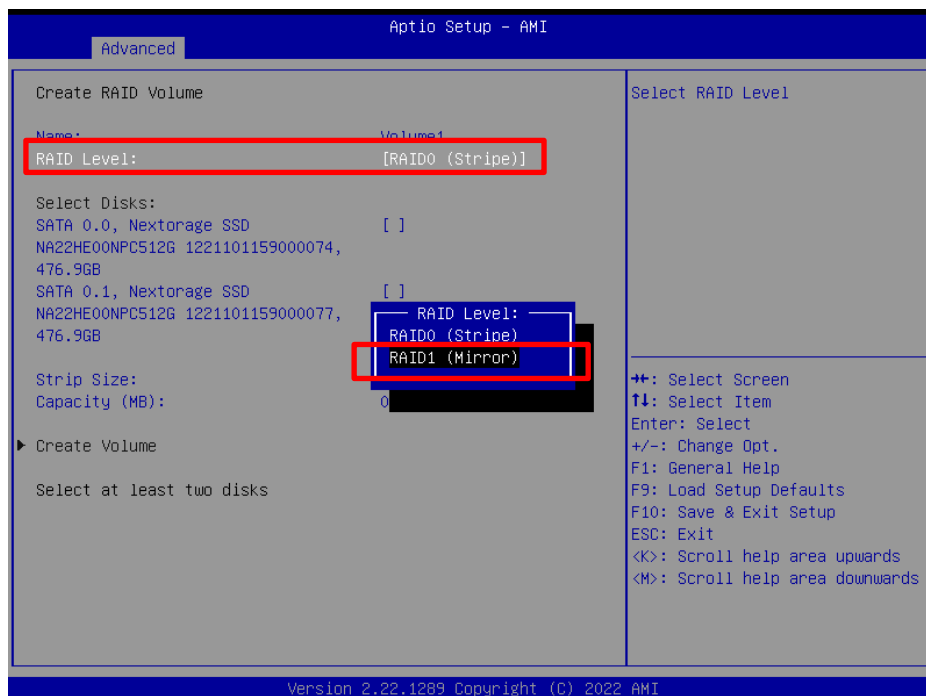


2.2 Intel® Rapid Storage Technology 操作手順

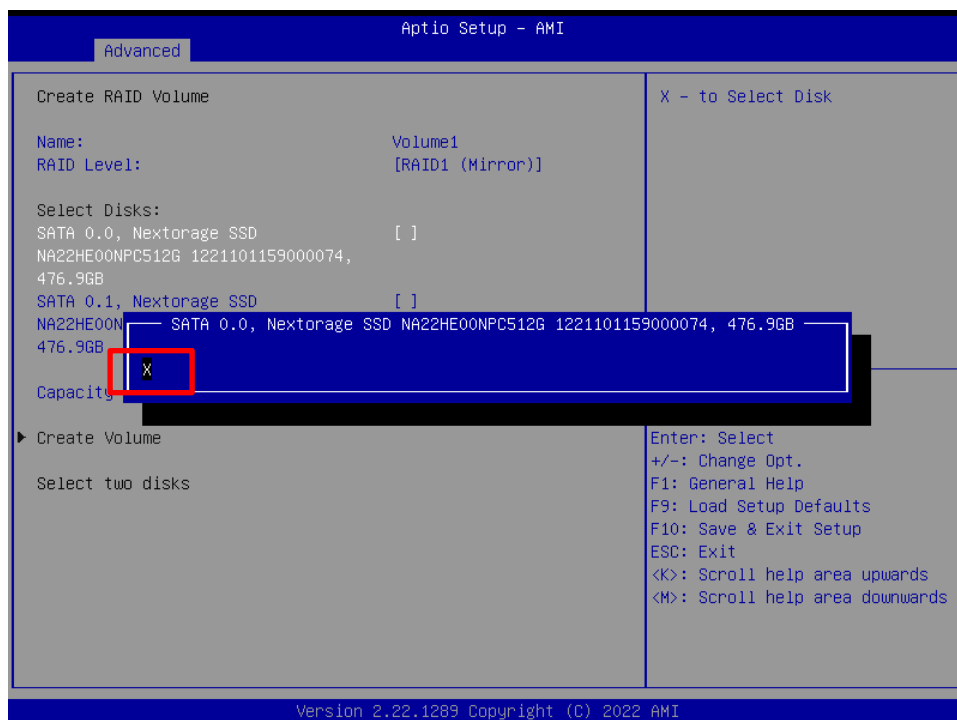
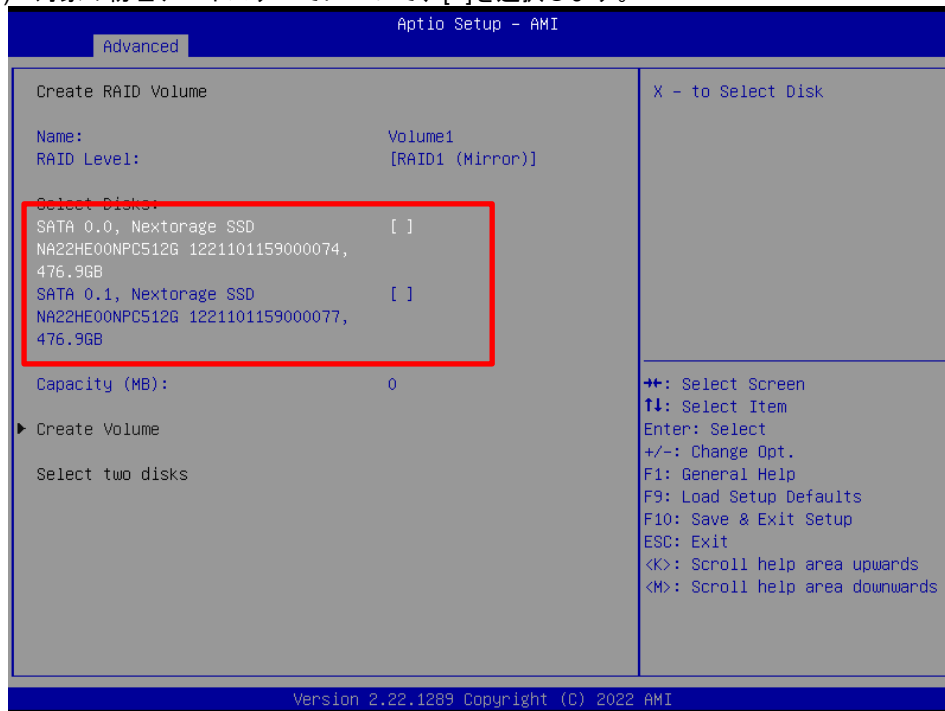
2.2.1 RAID Volume の新規作成/追加作成



1. Intel® Rapid Storage Technology を起動します。
2. TOP メニューより[Create RAID Volume] を選択します。
 - 1) [RAID Level] より RAID レベル([RAID1 (Mirror)])を選択します。
※ [RAID0 (Stripe)] はサポート対象外となります。



2) 対象の物理デバイスすべてについて、[X]を選択します。



3) [Name]、[Capacity (MB)]を選択します。

Aptio Setup - AMI

Advanced

Create RAID Volume

Name: Volume1

RAID Level: [RAID1 (Mirror)]

Select Disks:

SATA 0.0, Nextorage SSD [X]
NA22HE00NPC512G 1221101159000074,
476.9GB

SATA 0.1, Nextorage SSD [X]
NA22HE00NPC512G 1221101159000077,
476.9GB

Capacity (MB): 488384

► Create Volume

X - to Select Disk

++: Select Screen
↑↓: Select Item
Enter: Select
+/-: Change Opt.
F1: General Help
F9: Load Setup Defaults
F10: Save & Exit Setup
ESC: Exit
<K>: Scroll help area upwards
<M>: Scroll help area downwards

Version 2.22.1289 Copyright (C) 2022 AMI

- [Name] : RAID Volume の名称を記載します。
- [Capacity (MB)] : RAID Volume の容量を指定します（追加作成の場合は指定できません）。

4) すべての設定が完了後、[Create Volume]を選択します。RAID Volume が作成されます。

Aptio Setup - AMI

Advanced

Create RAID Volume

Name: Volume1

RAID Level: [RAID0 (Stripe)]

Select Disks:

SATA 0.0, Nextorage SSD [X]
NA22HE00NPC512G 1221101159000074,
476.9GB

SATA 0.1, Nextorage SSD [X]
NA22HE00NPC512G 1221101159000077,
476.9GB

Strip Size: [64KB]

Capacity (MB): 976768

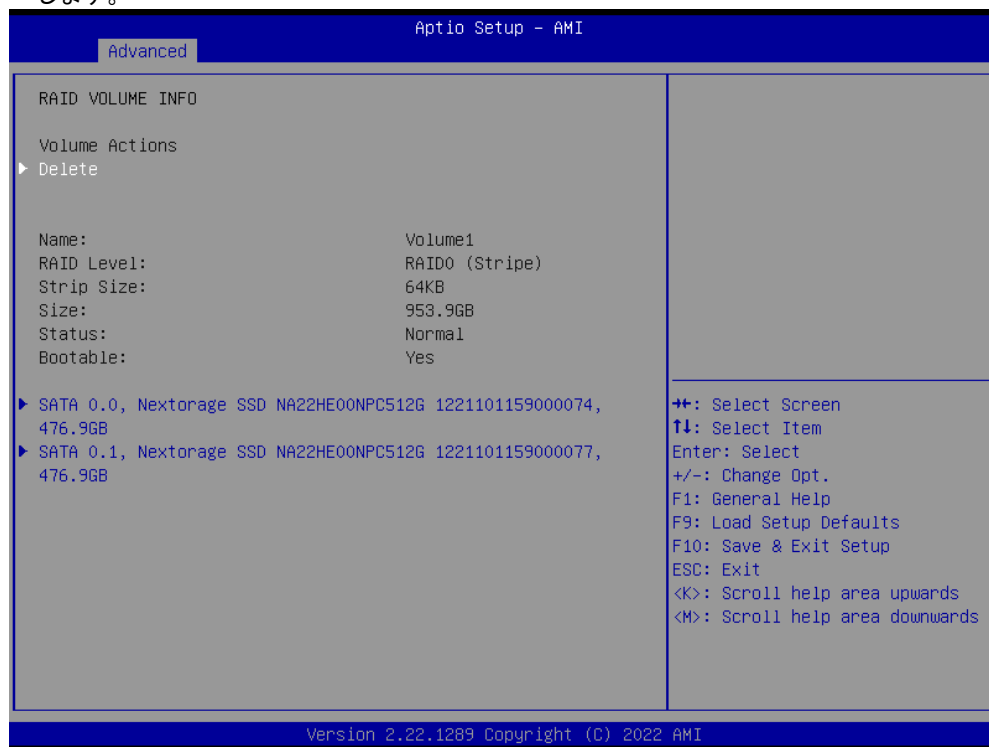
► Create Volume

Create a volume with the settings specified above

++: Select Screen
↑↓: Select Item
Enter: Select
+/-: Change Opt.
F1: General Help
F9: Load Setup Defaults
F10: Save & Exit Setup
ESC: Exit
<K>: Scroll help area upwards
<M>: Scroll help area downwards

Version 2.22.1289 Copyright (C) 2022 AMI

4. TOP メニューから、対象の RAID Volume を選択し、以下の画面にて RAID Volume の情報を確認します。



5. <Esc>キーで TOP メニューまで戻り、Intel® Rapid Storage Technology を終了します。

2.2.2 その他

(1) Delete

コンフィグレーション情報をクリアします。TOP メニューより、対象の RAID Volume を選択します。「Delete」を選択すると、確認メッセージが表示されますので、[Yes]を選択します。これにより、すべてのコンフィグレーション情報がクリアされます。

物理デバイスに、以前使用していたコンフィグレーション情報が残っている場合、コンフィグレーションを正常に作成できないことがあります。その場合、「Delete」を実行してください。



RAID データの削除は、TOP メニューより、対象の RAID Volume を選択後、対象の物理デバイスを選択します。[Reset to non-RAID]を選択すると、確認メッセージが表示されますので、[Yes]を選択します。

(2) 物理デバイス情報

物理デバイスの情報を表示します。

RAID Volume の作成前は、TOP メニューより、対象の物理デバイスを選択します。

RAID Volume の作成後は、TOP メニューより、対象の RAID Volume を選択し、対象の物理デバイスを選択します。

3. ESMPRO

3.1 ESMPRO/ServerAgentService (Windows 版)

ESMPRO/ServerAgentService (Windows 版)の詳細は、バックアップ Disc 内の「ESMPRO/ServerAgentService インストレーションガイド(Windows 編)」を参照してください。

3.2 ESMPRO/ServerManager

ESMPRO/ServerManager は、本製品のハードウェア、および RAID システムをリモートから管理・監視できます。

これらの機能を使うには、本製品へ ESMPRO/ServerAgentService など、本製品用バンドルソフトウェアをインストールしてください。

ESMPRO/ServerManager の動作環境、使用にあたっての注意事項、設定の詳細については、バックアップ Disc 内の「ESMPRO/ServerManager インストレーションガイド」、または ESMPRO のオンラインヘルプを参照してください。

4. Intel Optane Memory and Strage Management

Intel Optane Memory and Strage Management は、RAID ボリュームの管理を行うためのアプリケーションです。

Intel Optane Memory and Strage Management のインストールについては、添付のバックアップ Disc に収録している Intel Optane Memory and Strage Management インストールガイドを参照してください。

Intel Optane Memory and Strage Management の操作方法と機能の詳細については、添付のバックアップ Disc に収録している Intel Optane Memory and Strage Management メンテナンスガイドを参照してください。

5. エクスプレス通報サービス/エクスプレス通報サービス(HTTPS)

エクスプレス通報サービス/エクスプレス通報サービス(HTTPS)の詳細は、バックアップ Disc 内の「エクスプレス通報サービス/エクスプレス通報サービス(HTTPS) インストレーションガイド(Windows 編)」を参照してください。

6. エクスプレス通報サービス(MG)

エクスプレス通報サービス(MG)の詳細は、バックアップ Disc 内の「エクスプレス通報サービス(MG) インストールガイド(Windows 編)」を参照してください。

NEC Express5800 シリーズ Express5800/53Xm, Y53Xm

3

付 録

1. POST 中のエラーメッセージ

自己診断機能「POST」で検出するエラーメッセージの一覧です。

2. Windows イベントログ一覧

Windows イベントログの一覧です。

3. 保守サービス会社

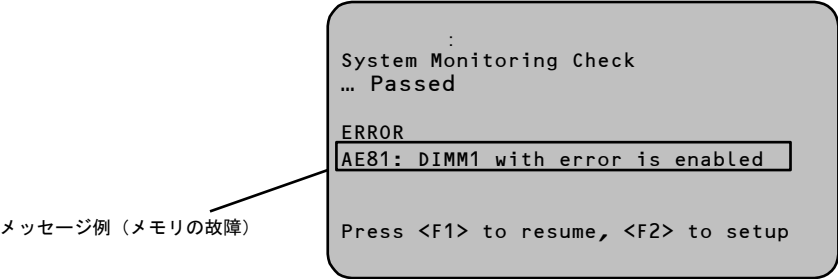
保守サービス会社の連絡先などを掲載しています。

4. 用語集

本書の用語集です。

1. POST 中のエラーメッセージ

「POST」で何らかの異常を検出すると、ディスプレイにエラーメッセージを表示します。また、エラーの内容によっては、ビープ音でエラーが起きたことを通知します。



次に、エラーメッセージ、原因、およびその対処方法を説明します。



保守サービス会社に連絡するときは、ディスプレイの表示内容とビープ音のパターンをメモしておいてください。

(1) エラーメッセージ一覧

エラーメッセージ		意 味	対処方法
8002	Check date and time settings	リアルタイムクロックのエラーです。	BIOS セットアップユーティリティ（SETUP）を起動して、時刻と日付を設定し直してください。再設定しても同じエラーが続けて検出されるときは、保守サービス会社に連絡してください。
8006	System configuration data cleared by Jumper	ジャンパーによって SETUP の設定がクリアされました。	本書の「1 章(7.リセットとクリア)」の手順に従ってください。
8007	SETUP Menu Password cleared by Jumper	ジャンパーによって SETUP のパスワードがクリアされました。	
8031	Mismatched HDD Password - SATA Port0	標準ハードディスクドライブに設定されたパスワードと BIOS が保持しているパスワードが一致しません。	標準ハードディスクドライブに設定したパスワードを再入力してください。
8032	Mismatched HDD Password - SATA Port1	増設ハードディスクドライブに設定されたパスワードと BIOS が保持しているパスワードが一致しません。	増設ハードディスクドライブに設定したパスワードを再入力してください。
8802	No Console Output Devices are found.	コンソールの初期化でエラーが起きました。	保守サービス会社に連絡してください。

エラーメッセージ		意 味	対処方法
8803	DXE Core not found	システム用フラッシュメモリが故障しました。	保守サービス会社に連絡してください。
8804	DXE IPL not found		
8805	Some of the Architectural Protocols are not available		
8806	Reset PPI is not available	正しくリセットできませんでした。	
8807	Reset protocol is not available	正しくリセットできませんでした。	
8808	Flash update failed	システム用フラッシュメモリに正しく書き込めませんでした。	
9040	CPU self test failed	CPU の初期化でエラーが起きました。	
A001	Memory Error detected in DIMM1	DIMM1 でメモリエラーが起きました。	
A002	Memory Error detected in DIMM2	DIMM2 でメモリエラーが起きました。	
A003	Memory Error detected in DIMM3	DIMM3 でメモリエラーが起きました。	
A004	Memory Error detected in DIMM4	DIMM4 でメモリエラーが起きました。	
AE01	DIMM1 has been disabled	メモリエラーが起き、DIMM1 が縮退しています。	
AE02	DIMM2 has been disabled	メモリエラーが起き、DIMM2 が縮退しています。	
AE03	DIMM3 has been disabled	メモリエラーが起き、DIMM3 が縮退しています。	
AE04	DIMM4 has been disabled	メモリエラーが起き、DIMM4 が縮退しています。	
AE81	DIMM1 with error is enabled	DIMM1 を縮退させようとしたが、すべてのメモリが縮退中のため強制的に有効にしました。	
AE82	DIMM2 with error is enabled	DIMM2 を縮退させようとしたが、すべてのメモリが縮退中のため強制的に有効にしました。	
AE83	DIMM3 with error is enabled	DIMM3 を縮退させようとしたが、すべてのメモリが縮退中のため強制的に有効にしました。	

エラーメッセージ		意 味	対処方法
AE84	DIMM4 with error is enabled	DIMM4 を縮退させようとしたが、すべてのメモリが縮退中のため強制的に有効にしました。	保守サービス会社に連絡してください。
B001	Expansion ROM not initialized - PCI Slot 01	オプション ROM の展開エリアがありません。	OS 起動させないデバイスのオプション ROM 展開を無効にしてください。
B002	Expansion ROM not initialized - PCI Slot 02	オプション ROM の展開エリアがありません。	
BE20	S.M.A.R.T. status bad - SATA Port0	標準ハードディスクドライブの S.M.A.R.T.エラーを検出しました。	保守サービス会社に連絡してください。
BE21	S.M.A.R.T. status bad - SATA Port1	増設ハードディスクドライブの S.M.A.R.T.エラーを検出しました。	
BE32	S.M.A.R.T. status bad - PCI Slot 02	増設 NVMe ドライブの S.M.A.R.T.エラーを検出しました。	
C000	The error occurred during Fan sensor reading	ファンセンサーでリードエラーが起きました。	
C001	Front Fan Alarm occurred	全面ファンの異常を検出しました。	
C002	CPU Fan Alarm occurred	CPU ファンの異常を検出しました。	
C003	Rear Fan Alarm occurred	背面ファンの異常を検出しました。	
C010	The error occurred during temperature sensor reading	温度センサーでリードエラーが起きました。	
C020	The error occurred during voltage sensor reading	電圧センサーの読み出し中にエラーが起きました。	
C022	CPU CORE Voltage out of the range.	CPU CORE 電圧の異常を検出しました。	
C023	+12V Voltage out of the range.	+12V 電圧の異常を検出しました。	
C024	+3.3V Voltage out of the range.	+3.3V 電圧の異常を検出しました。	
C025	+5V Voltage out of the range.	+5V 電圧の異常を検出しました。	
C026	+3.3VS Voltage out of the range.	+3.3VS 電圧の異常を検出しました。	

エラーメッセージ		意 味	対処方法
C027	RTC Battery Voltage out of the range.	RCT バッテリ電圧の異常を検出しました。	保守サービス会社に連絡してください。
C028	VCCST Voltage out of the range.	VCCST 電圧の異常を検出しました。	
C029	P1V2_VDDQ Voltage out of the range.	P1V2_VDDQ 電圧の電圧異常を検出しました。	
C02A	+3VA Voltage out of the range.	+3VA 電圧の電圧異常を検出しました。	
F2XX	Previous Boot Incomplete. POST Code = 0xPP	前回の起動時に POST が終了しませんでした。	
F3C0	Chassis Temperature Upper Alarm occurred.	筐体内温度が上限基準値を超えています。	いったん電源を OFF にして、各ファンの目詰まりをチェックしてください。ほこりが付着しているようであれば取り除いてください。異常が見当たらない場合や清掃しても直らない場合は、保守サービス会社に連絡してください。
F3C1	Ambient Temperature Upper Alarm occurred.	システム温度が上限基準値を超えています。	
F3C2	CPU Temperature Upper Alarm occurred.	CPU 温度が上限基準値を超えています。	
F3D0	Chassis Temperature Lower Alarm occurred.	筐体内温度が下限基準値を超えています。	
F3D1	Ambient Temperature Lower Alarm occurred.	システム温度が下限基準値を超えています。	
F3D2	CPU Temperature Lower Alarm occurred.	CPU 温度が下限基準値を超えています。	

(2) ビープ音によるエラー通知

POST でエラーを検出しても、ディスプレイにエラーメッセージを表示できないときがあります。このようなときは、ビープ音でエラーが発生したことを通知します(ビープコード)。

例えば、ビープ音が 1 回、連続して 3 回、3 回、1 回の組み合わせ(ビープコード: 1-3-3-1)で鳴ったときは、メモリの容量チェック中にエラーが起きたことを意味します。

ビープコード、その意味、および対処方法は次の表のとおりです。

ビープコード	意 味	対処方法
1-3-3-1	メモリが検出できません。 メモリの容量チェック中のエラーです。	DIMM の取り付け状態を確認してください。それでも直らないときは、保守サービス会社に連絡してください。
1	POST でエラーが起きました。	保守サービス会社に連絡してください。
3-3-3-3	BIOS の実行部分の読み込みができません。 または、BIOS の実行部分がありません。	
4-4-4-4	BIOS の実行部分の初期化ができません。	
5-5-5-5	グラフィックスコントローラーが検出できません。 UEFI Mode 時にディスプレイが接続されていません。	UEFI Mode 時はディスプレイケーブルの接続を確認してください。それでも直らないときは、保守サービス会社に連絡してください。
7-7-7-7	システムがリセットできません。	保守サービス会社に連絡してください。
8-8-8-8	PCI デバイスのリソース設定で異常が起きました。	拡張スロットに接続された PCI デバイスを外し、本製品を再起動してください。同じエラーが検出されるときは、保守サービス会社に連絡してください。

2. Windows イベントログ一覧

OS

■ ログ

ID	ソース	レベル	メッセージ（説明）
	タイミング		対応

Windows 11

■ システムログ

15	Microsoft-Windows-Wininit	警告	Credential Guard や VBS キーの分離が構成されていますが、セキュリティで保護されたカーネルが実行されていません。それらを使用せずに続行します。
	OS 起動時		Credential Guard 機能が有効になっていない場合に記録されますが、Pro および Pro for Workstations では未サポートの機能となるため、登録されてもシステム運用上、問題ありません。
27	e1dexpress	警告	Intel(R) Ethernet Connection (17) I219-LM Network link is disconnected.
	OS インストール中、OS 初回起動時		ネットワークケーブルを接続後（システム起動時を除く）、継続して同じイベントログが登録されていなければ、問題ありません。
27	e1i68x64	警告	Intel(R) Ethernet Connection (17) I219-LM Network link is disconnected.
	OS インストール中、OS 初回起動時		ネットワークケーブルを接続後（システム起動時を除く）、継続して同じイベントログが登録されていなければ、問題ありません。
27	e1i68x64	警告	Intel(R) I210 Gigabit Network Connection Network link is disconnected.
	OS インストール中、OS 初回起動時		ネットワークケーブルを接続後（システム起動時を除く）、継続して同じイベントログが登録されていなければ、問題ありません。
27	e1i68x64	警告	Intel(R) Ethernet Server Adapter I210-T1 Network link is disconnected.
	OS インストール中、OS 初回起動時		ネットワークケーブルを接続後（システム起動時を除く）、継続して同じイベントログが登録されていなければ、問題ありません。
27	e1i68x64	警告	Intel(R) Ethernet Server Adapter I350-T2 #xx Network link is disconnected. ※ 同一名のネットワークアダプターがある場合は、xx の箇所に識別の番号が割り振られます。
	OS インストール中、OS 初回起動時		ネットワークケーブルを接続後（システム起動時を除く）、継続して同じイベントログが登録されていなければ、問題ありません。
27	e1rexpress	警告	Intel(R) I210 Gigabit Network Connection ネットワーク・リンクが切断されました。
	OS インストール中、OS 初回起動時		ネットワークケーブルを接続後（システム起動時を除く）、継続して同じイベントログが登録されていなければ、問題ありません。

27	e1repress	警告	Intel(R) Ethernet Server Adapter I210-T1 ネットワーク・リンクが切断されました。
	OS インストール中、OS 初回起動時		ネットワークケーブルを接続後（システム起動時を除く）、継続して同じイベントログが登録されていなければ、問題ありません。
27	e1repress	警告	Intel(R) Ethernet Server Adapter I350-T2 #x ネットワーク・リンクが切断されました。 ※ 同一名のネットワークアダプターがある場合は、xx の箇所に識別の番号が割り振られます。
	OS インストール中、OS 初回起動時		ネットワークケーブルを接続後（システム起動時を除く）、継続して同じイベントログが登録されていなければ、問題ありません。
124	Microsoft-Windows-Kernel-Boot	エラー	仮想化ベースのセキュリティ有効化ポリシー チェックがフェーズ 7 で失敗しました。状態: Unknown NTSTATUS Error code: 0xc0280185
	OS 起動時		TPM 領域をクリアし、再度登録されなければ問題ありません。
124	Microsoft-Windows-Kernel-Boot	エラー	仮想化ベースのセキュリティ有効化ポリシー チェックがフェーズ 6 で失敗しました。状態: {アクセス拒否} プロセスはオブジェクトのアクセスを要求しましたが、アクセス権が与えられていません。
	OS 起動時		システム運用上、問題ありません。
134	Microsoft-Windows-Time-Service	警告	'time.windows.com,0x9' での DNS 解決エラーのため、NtpClient でタイムソースとして使う手動ピアを設定できませんでした。15 分後に再実行し、それ以降は 2 倍の間隔で再実行します。エラー: そのようなホストは不明です。 (0x80072AF9)
	OS 初回起動時、OS 再起動時		システム運用上、問題ありません。
167	Microsoft-Windows-Hyper-V-Hypervisor	警告	ハイパースレッディングが有効になっているため、ハイパーバイザーは仮想マシンのサイド チャネルの脆弱性の軽減策を有効にしませんでした。仮想マシンの軽減策を有効にするには、ハイパースレッディングを無効にします。
	OS 起動時		登録されてもシステム運用上、問題はありません。
225	Microsoft-Windows-Kernel-PnP	警告	プロセス ID XXX のアプリケーション YYY がデバイス ZZZ 影響を受けるデバイスの一覧: ZZZ の削除を停止しました ※ ZZZ は対象のデバイス インスタンス 名 YYY はデバイスを使用していたプロセス名 XXX はデバイスを使用していたプロセス ID が入ります。
	Starter Pack 適用時		システム運用上、問題ありません。
6147	LsaSrv	警告	Credential Guard を実行するように構成されていますが、ライセンスがありません。Credential Guard は開始されませんでした。
	OS 起動時		Credential Guard 機能が有効になっていない場合に記録されますが、Pro および Pro for Workstations では未サポートの機能となるため、登録されてもシステム運用上、問題ありません。
6155	LsaSrv	警告	LSA パッケージは予期した通りに署名されていません。これにより、Credential Guard で予期しない動作が発生する可能性があります。 パッケージ名: ***** ※ **** は、ログによって異なります。
	OS 起動時		Credential Guard 機能が有効になっていない場合に記録されますが、Pro および Pro for Workstations では未サポートの機能となるため、登録されてもシステム運用上、問題ありません。

7001	Service Control Manager	エラー	Connected Devices Platform Service サービスは、次のエラーが原因で開始できなかった Network Connection Broker サービスに依存しています：サービスは開始後に開始待ち状態でハングしました。
	OS 初回起動時		OS 初回起動時のみに登録され、継続して同じイベントログが登録されていなければ、問題ありません。
7022	Service Control Manager	エラー	Network Connection Broker サービスは開始時にハングしました。
	OS 初回起動時		イベントが記録された後に Network Connection Broker サービスが正常に開始されていればシステムに影響はありません。
7023	Service Control Manager	エラー	Network List Service サービスは、次のエラーで終了しました：デバイスの準備ができていません。
	OS インストール中、OS 初回起動時		継続して同じイベントログが登録されていなければ、問題ありません。
7023	Service Control Manager	エラー	Network Connection Broker サービスは、次のエラーで終了しました：システムに接続されたデバイスが機能していません。
	OS インストール中、OS 初回起動時		継続して同じイベントログが登録されていなければ、問題ありません。
7023	Service Control Manager	エラー	netprofm サービスは、次のエラーで終了しました：デバイスの準備ができていません。
	OS インストール中、OS 初回起動時		継続して同じイベントログが登録されていなければ、問題ありません。
7030	Service Control Manager	エラー	Printer Extensions and Notifications サービスは、対話型サービスとしてマークされています。しかし、システムは対話型サービスを許可しないように構成されています。このサービスは正常に機能しない可能性があります。
	OS インストール中、OS 初回起動時		OS 初回起動時のみに登録され、継続して同じイベントログが登録されていなければ、問題ありません。
7043	Service Control Manager	エラー	Delivery Optimization サービスは、プレシャットダウン コントロールを受け取った後に正しくシャットダウンされませんでした。
	OS 初回起動時		OS 初回起動時のみに登録され、継続して同じイベントログが登録されていなければ、問題ありません。
10010	Microsoft-Windows-DistributedCOM	エラー	サーバー {****} は、必要なタイムアウト期間内に DCOM に登録しませんでした。 ※ **** には以下が入ります。 {A47979D2-C419-11D9-A5B4-001185AD2B89} {4991D34B-80A1-4291-83B6-3328366B9097}
	OS インストール中		詳細は、次の Web サイトを参照してください。 https://support.microsoft.com/ja-jp/help/956479
10016	Microsoft-Windows-DistributedCOM	警告	アプリケーション固有 のアクセス許可の設定では、CLSID***** および APPID 利用不可 の COM サーバー アプリケーションに対するローカル起動のアクセス許可を、アプリケーション コンテナ 利用不可 SID (利用不可) で実行中のアドレス LocalHost (LRPC 使用) のユーザー ***** SID (*****) に与えることはできません。 このセキュリティ アクセス許可は、コンポーネント サービス管理ツールを使って変更できます。 ※ **** は、ログによって異なります。
	OS インストール中、OS 初回起動時		システム運用上、問題ありません。

10400	Microsoft-Windows-NDIS	警告	ネットワーク インターフェイス "Intel(R) Ethernet Connection (7) I219-LM" はリセットを開始しました。ハードウェア リセットの間にネットワーク接続が一時的に中断します。理由: The network driver requested that it be reset. このネットワーク インターフェイスは、最後に初期化されてから 1 回リセットされました。
	Starter Pack 適用時		システム運用上、問題ありません。

■ アプリケーションログ

13	VSS	エラー	ボリューム シャドウ コピー サービス情報: CLSID {4e14fba2-2e22-11d1-9964-00c04fbbb345} および名前 CEventSystem を持つ COM サーバーを開始できません。 [0x8007045b, システム シャットダウンが実行中です。]
	OS 初回起動時		OS 初回起動時のみに登録され、継続して同じイベントログが登録されていなければ、問題ありません。
16	SecurityCenter	エラー	Windows Defender の状態を SECURITY_PRODUCT_STATE_ON に更新中にエラーが発生しました。
	OS インストール中		OS インストール後、継続して同じイベントログが登録されていなければ、問題ありません。
63	Microsoft-Windows-WMI	警告	プロバイダー IntelMEProv は LocalSystem アカウントを使うために Windows Management Instrumentation 名前空間 root\Intel_ME に登録されました。このアカウントには特権があり、プロバイダーがユーザー要求を正しく偽装しない場合はセキュリティ違反が起こる可能性があります。
	Starter Pack 適用		システム運用上、問題ありません。
86	Microsoft-Windows-CertificateServicesClient-CertEnroll	エラー	'https://NTC-KeyId-882f047b87121cf9885f31160bc7bb5586af471b.microsoft.azure.net/templates/Aik/scep' を経由した {ローカルシステム/\$PC\$} の SCEP 証明書登録の初期化が失敗しました。 GetCACaps 方法: GET(**ms) ステージ: GetCACaps サーバー名またはアドレスは解決されませんでした 0x80072ee7 (WinHttp: 12007 ERROR_WINHTTP_NAME_NOT_RESOLVED)
	OS インストール中		以下の 2 つの条件を満たす場合は、問題ありません。 1. TPM を搭載している。 2. インターネットに接続していない。
844	Microsoft-Windows-DeviceManagement-Enterprise-Diagnostics-Provider	エラー	'MDM PolicyManager: Inbox' の際、マージ中に正しくない登録 (82965F5A-6C65-4B7A-8075-488FCCE07D4E) が見つかりました。マージ (1e05dd5d-a022-46c5-963c-b20de341170f) を要求しています。登録のポリシーを削除しています。登録状態は (印刷待ちだったファイルは削除されました。) です。
	OS 初回起動時		システム運用上、問題ありません。

1000	Application Error	エラー	<p>障害が発生しているアプリケーション名: OneApp.IGCC.WinService.exe、バージョン: 1.100.5180.0、タイム スタンプ: 0x641de100</p> <p>障害が発生しているモジュール名: KERNELBASE.dll、バージョン: 10.0.22621.2428、タイム スタンプ: 0x9223bda8</p> <p>例外コード: 0xe0434352</p> <p>障害オフセット: 0x00000000000064ffc</p> <p>障害が発生しているプロセス ID: 0x0x24C0</p> <p>障害が発生しているアプリケーションの開始時刻: 0x0x1DA236130099831</p> <p>障害が発生しているアプリケーションパス: C:\Windows\System32\DriverStore\FileRepository\igcc_dch_inf_amd64_9b33d3c65380dd2c\OneApp.IGCC.WinService.exe</p> <p>障害が発生しているモジュールパス: C:\Windows\System32\KERNELBASE.dll</p> <p>レポート ID: f897a5ef-4de6-43a7-a93c-4593f3bcbfdd</p> <p>障害が発生しているパッケージの完全な名前:</p> <p>障害が発生しているパッケージに関連するアプリケーション ID:</p>
	Starter Pack 適用		システム運用上、問題ありません。
1008	Microsoft-Windows-Search	警告	Windows Search サービスが開始し、古い検索インデックスを削除しようとしています {理由: インデックスの完全リセット}。
	OS 初回起動時		システム運用上、問題ありません。
1008	Search	警告	Windows Search サービスが開始し、古い検索インデックスを削除しようとしています {理由: インデックスの完全リセット}。
	OS 初回起動時		システム運用上、問題ありません。
1020	EvntAgnt	エラー	レジストリ パラメーターの処理中にエラーが発生しました。拡張エージェントは終了中です。
	OS 初回起動時		システム運用上、問題ありません。
1026	.NET Runtime	エラー	<p>Application: OneApp.IGCC.WinService.exe</p> <p>CoreCLR Version: 7.0.723.27404</p> <p>.NET Version: 7.0.7</p> <p>Description: The process was terminated due to an unhandled exception.</p> <p>Exception Info: System.Threading.Tasks.TaskCanceledException: A task was canceled.</p> <p>at CoreWCF.Channels.NamedPipeTransportManager.BindAsync (List`1 listenOptions, CancellationToken cancellationToken)</p> <p>at CoreWCF.Channels.NetNamedPipeHostedService.StartAsync (CancellationToken cancellationToken)</p> <p>at Microsoft.Extensions.Hosting.Internal.Host.StartAsync (CancellationToken cancellationToken)</p> <p>at Microsoft.Extensions.Hosting.HostingAbstractionsHostExtensions.RunAsync(IHost host, CancellationToken token)</p> <p>at Microsoft.Extensions.Hosting.HostingAbstractionsHostExtensions.RunAsync(IHost host, CancellationToken token)</p> <p>at Microsoft.Extensions.Hosting.HostingAbstractionsHostExtensions.Run(IHost host)</p> <p>at Program.<Main>\$(String[] args)</p>
	Starter Pack 適用		システム運用上、問題ありません。
2019	EvntAgnt	エラー	SNMP Event Log Extension Agent が正しく初期化されませんでした。
	OS 初回起動時		システム運用上、問題ありません。
3007	EvntAgnt	警告	イベント ログ ファイル Parameters を開くときにエラーが発生しました。ログは処理されません。OpenEventLog からのリターン コードは 87 です。
	SNMP を有効にした時		再起動ごとに登録されますが、無視して問題ありません。

3007	EvtntAgnt	警告	イベント ログ ファイル State を開くときにエラーが発生しました。ログは処理されません。 OpenEventLog からのリターン コードは 87 です。
	SNMP を有効にした時		再起動ごとに登録されますが、無視して問題ありません。
8193	VSS	エラー	ボリューム シャドウ コピー サービス エラー: ルーチン QueryFullProcessImageNameW の呼び出し中に予期しないエラーが発生しました。hr = 0x80070006, ハンドルが無効です。 操作: 非同期操作を実行しています コンテキスト: 現在の状態: DoSnapshotSet
	Starter Pack 適用		Starter Pack 適用時のみに登録され、継続して同じイベントログが登録されていなければ、問題ありません。
8198	Microsoft-Windows-Security-SPP	エラー	ライセンス認証 (slui.exe) が失敗しました。エラー コード: hr=0x8024402C コマンド ライン引数: RuleId=31e71c49-8da7-4a2f-ad92-45d98a1c79ba;Action=AutoActivate; Appld=55c92734-d682-4d71-983e-d6ec3f16059f;Skuld=4de7cb65-cdf1-4de9-8ae8-e3cce27b9f2c; NotificationInterval=1440;Trigger=UserLogon; SessionId=2
	OS 初回起動時		ライセンス認証完了後、継続して登録されていなければ問題ありません。
8200	Microsoft-Windows-Security-SPP	エラー	ライセンス取得の失敗に関する詳細。 hr=0x80072EE7
	OS 初回起動時		ライセンス認証完了後、継続して登録されていなければ問題ありません。
10010	Microsoft-Windows-RestartManager	警告	アプリケーション 'C:\Windows¥*****.exe' (pid ****) を再起動できませんでした。 - アプリケーション SID がコンダクター SID と一致しません。 ※ *****.exe は以下が入ります。 explorer.exe RuntimeBroker.exe
	OS 初回起動時		継続して登録されていなければ問題ありません。

■ アプリケーションとサービスログ

2	Microsoft-Windows-Kernel-EventTracing	エラー	次のエラーのため、セッション "PerfDiag Logger" を開始できませんでした: 0xC0000035
	OS 初回起動時		システム運用上、問題ありません。
10	Microsoft-Windows-AppReadiness	エラー	ユーザー <User ID> に対する 'Microsoft.MicrosoftEdge.Stable_***.***.***.***_neutral__8wekyb3d8bbwe' での Appx 操作 'RegisterPackageAsync' は失敗しました - Windows は パッケージ Microsoft.MicrosoftEdge.Stable_***.***.***.***_neutral__8wekyb3d8bbwe をインストールできません。外部の場所にインストールする必要があります。。(エラー: インストールに失敗しました。ソフトウェアの製造元に問い合わせてください。) ※ … <User ID>、***はログによって異なります。
	OS 初回起動時		システム運用上、問題ありません。
28	Microsoft-Windows-Kernel-EventTracing	エラー	プロバイダー {77811378-e885-4ac2-a580-bc86e4f1bc93} の特長の設定でエラーが発生しました。エラー: 0xC0000005
	OS 初回起動時、OS 起動時		システム運用上、問題ありません。

36	Microsoft-Windows-AppModel-Runtime	エラー	ファイアウォールから登録解除できなかったため、DeleteAppContainerProfile がエラー 0x800706BA で失敗しました。
	OS 初回起動時		頻発して登録されなければ問題ありません。
100	ModernDeployment-Diagnostics-Provider	警告	Autopilot ポリシー [*****] が見つかりません
	OS 初回起動時		Microsoft Azure AD に参加していない環境下で登録される場合は、システム運用上、問題ありません。
122	Microsoft-Windows-DeviceSetupManager	警告	Windows Update のドライバーへのアクセスがポリシーによってブロックされました
	OS 起動時		システム運用上、問題ありません。
164	Microsoft-Windows-DeviceSetupManager	警告	'Software RealtekAudioControl had non-critical error 0x4D5 during installation, will retry later.
	OS 起動時		システム運用上、問題ありません。
164	Microsoft-Windows-DeviceSetupManager	警告	'Software GraphicsCommandCenter had non-critical error 0x4D5 during installation, will retry later.
	OS 起動時		システム運用上、問題ありません。
165	ModernDeployment-Diagnostics-Provider	警告	AutopilotManager により、インターネットが利用可能でないことが確認されました。利用可能になったときにポリシーのダウンロードがキューに登録されます。
	OS 初回起動時		インターネット接続後、継続して発生していなければ問題ありません。
200	Microsoft-Windows-DeviceSetupManager	警告	Windows Update サービスへの接続を確立できませんでした。
	OS 初回起動時		インターネット接続後に登録されていない場合は、システム運用上、問題ありません。
201	Microsoft-Windows-DeviceSetupManager	警告	Windows Metadata and Internet Services (WMIS) への接続を確立できませんでした。
	OS 初回起動時		インターネット接続後に登録されていない場合は、システム運用上、問題ありません。
202	Microsoft-Windows-DeviceSetupManager	警告	ネットワーク リスト マネージャーは、インターネットに接続していないことをレポートしています。
	OS 初回起動時		インターネット接続後に登録されていない場合は、システム運用上、問題ありません。
215	AppReadiness	エラー	S-1-5-18 の 'ART:AppxPreRegistration' が失敗しました。エラー: 'セキュリティ ID の構造が無効です。' (1.0309608 秒)
	OS 初回起動時		OS 初回起動時のみに登録され、継続して同じイベントログが登録されていない場合は、問題ありません。
319	Microsoft-Windows-AppReadiness	エラー	'Microsoft.MicrosoftEdge.Stable_107.0.1418.42_neutral__8wekyb3d8bbwe' の事前登録に失敗しました。(エラー: この要求はサポートされていません。)
	OS 初回起動時		システム運用上、問題ありません。

360	Microsoft-Windows-User Device Registration	警告	Windows Hello for Business のプロビジョニングは起動されません。 デバイスは AAD に参加済みです (AADJ または DJ++): Not Tested ユーザーは AAD 資格情報を使用してログオン済みです: No Windows Hello for Business のポリシーが有効になっています: Not Tested Windows Hello for Business のログオン後のプロビジョニングが有効になっています: Not Tested ローカル コンピューターは、Windows Hello for Business のハードウェア要件を満たしています: Not Tested ユーザーはリモート デスクトップ経由でコンピューターに接続されていません: Yes オンプレミス認証ポリシーのユーザー証明書が有効になっています: Not Tested コンピューターは none ポリシーによって制御されています。 オンプレミスの承認ポリシーのクラウド トラストが有効になっています: Not Tested ユーザー アカウントにはクラウド TGT があります: Not Tested 詳細については、 https://go.microsoft.com/fwlink/?linkid=832647 を参照してください。
	OS 初回起動時、OS 再起動時		Microsoft Azure AD に参加していない環境下で登録される場合は、システム運用上、問題ありません。
1005	Microsoft-Windows-ModernDeployment-Diagnostics-Provider	エラー	管理サービスの WIL エラーが報告されました。 HRESULT: 0x80072F76 ファイル: onecoreuap¥admin¥moderndeployment¥autopilot¥commonutils¥ddsnetworkwrapper.cpp、行 582 メッセージ: NULL
	OS 初回起動時		Microsoft Azure AD に参加していない環境下で登録される場合は、システム運用上、問題ありません。
5044	Microsoft-Windows-AppReadiness	エラー	S-1-5-21-113451808-2306606640-2638332319-1000 : タイルが不足しているかどうかを確認できませんでした。エラー=要素が見つかりません。
	OS 初回起動		インターネット接続後、継続して発生していなければ問題ありません。

■ セキュリティ

1108	Microsoft-Windows-Eventlog	エラー	Microsoft-Windows-Security-Auditing から発行された受信イベントの処理中に、イベント ログ サービスでエラーが発生しました。
	OS 初回起動時、OS 再起動時		Windows Update 適用後継続して登録されていなければ、システム運用上、問題ありません。

3. 保守サービス会社

Express5800 シリーズ、および関連製品のアフターサービスは、お買い上げの弊社販売店、最寄りの弊社、または NEC フィールディング株式会社までお問い合わせください。

NEC フィールディングのサービス拠点は、次の Web サイトに記載しています。

<https://www.fielding.co.jp/>

弊社販売店のサービス網については、お買い上げの販売店にお問い合わせください。

トラブルなどのご連絡は、

- ・ 保守契約を締結されているお客さま

契約時にお知らせしております契約専用電話(年中無休 24 時間受付)へおかけください。

- ・ 保守契約を締結されていないお客さま

下記 Web サイトでの修理受付をご利用ください。

<https://www.fielding.co.jp/form/index02.html>

修理依頼：24 時間登録可能

受付時間：月曜日から金曜日 9:00～18:00 (土・日・祝日および当社規定の休日を除く)

4. 用語集

用 語	解 説
BIOS セットアップユーティリティ (SETUP)	本製品のBIOSを設定するためのソフトウェアです。POST時にF2キーを押すと起動できます。
DUMP スイッチ	何らかの不具合が起きたとき、メモリダンプを採取する場合に使用します。ダンプの保存先については、OS上から指定できます。
ESMPRO	本製品に標準添付の管理ソフトウェアです。監視、管理を行う一連のソフトウェアが含まれます。
ESMPRO/ServerAgentService	ESMPRO/ServerManagerと連携し、本製品の監視、および各種情報を取得するためのソフトウェアです。インストール時に、OSのサービスとして常駐させる(サービスモード)か、OSのサービスなし(非サービスモード)で動作させるか決めることができます。プリインストール時はサービスモードでインストールします。非サービスモードで動作させると、CPU、メモリなどのリソースを削減できます。
ESMPRO/ServerManager	ネットワーク上の複数のワークステーションの管理、監視を行うソフトウェアです。
ExpressUpdate	本製品のBIOS、ファームウェア、ドライバー、およびソフトウェアをアップデートする機能です。ESMPRO/ServerManagerが、ExpressUpdate Agentと連携することで本機能を実現します。
ExpressUpdate Agent	ExpressUpdateを実現するために、本製品にインストールするソフトウェアです。
Flash FDD	フロッピーディスクドライブと互換性のあるオプションのUSBデバイスです。
OEM ドライバー	Windows OS のインストール時に必要な大容量記憶装置コントローラー用ドライバーです。
RAID コンフィグレーションユーティリティ	RAIDを設定するために、POST時に起動できるソフトウェアです。
Starter Pack	本製品向けにカスタマイズされたWindows OS用のドライバーなどをまとめたパッケージです。本製品でWindows OSを運用する前に、必ずStarter Packを適用してください。
Intel(R) Optane(TM) Memory and Storage Management	RAIDを設定するために、Windows上から操作するソフトウェアです。
エクスプレス通報サービス	本製品が故障したときの情報(または予防保守情報)を電子メール、モデム経由で保守センターに通報するソフトウェアです。ESMPRO/ServerAgentServiceとともに本製品にインストールします。
エクスプレス通報サービス(HTTPS)	本製品が故障したときの情報(または予防保守情報)をHTTPS経由で保守センターに通報するソフトウェアです。ESMPRO/ServerAgentServiceとともに本製品にインストールします。
エクスプレス通報サービス(MG)	ESMPRO/ServerAgentServiceを使わずに、本製品が故障したときの情報(または予防保守情報)を電子メール、モデム、HTTPS経由で保守センターに通報するソフトウェアです。ESMPRO/ServerManagerとともに管理PCにインストールします。
管理PC	ネットワーク上から本製品にアクセスし、本製品を管理するためのコンピューターです。Windowsがインストールされた一般的なコンピューターを管理PCにすることができます。
バックアップDisc	ドライバー、管理ソフトウェア、説明書などを格納した標準添付のソフトウェアです。

NEC Express ワークステーション

Express5800/53Xm, Y53Xm

メンテナンスガイド

2024 年 3 月 1 版

日 本 電 気 株 式 会 社

東京都港区芝五丁目 7 番 1 号

落丁、乱丁はお取り替えいたします。

© NEC Corporation 2024

日本電気株式会社の許可なく複製・改変などを行うことはできません。

本書の内容の一部または全部を無断転載することは禁止されています。

本書の内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。